佐久市埋蔵文化財調査報告書 第295集

'23 第295集

西近津遺跡群

西近津遺跡ⅩⅥ

長野県佐久市長土呂 西近津遺跡ⅩⅥ発掘調査報告書

西近津遺跡群 西近津遺跡ⅩⅥ

佐久市教育委員会

２０２３．３
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は株式会社佐久平土地開発による宅地造成工事に伴う西近津遺跡群西近津遺跡ＸⅥの発掘調査報告書である。
2　事業主体者　　株式会社佐久平土地開発
3　調査主体者　　佐久市教育委員会
4　遺跡名及び所在地　西近津遺跡群　西近津遺跡ＸⅥ　（ＮＴ　ＸⅥ）
　　長野県佐久市長土呂字森下 1792-1
5　調査期間及び面積　発掘調査期間：令和３年５月 14 日～令和３年７月 26 日
　　整理作業期間：令和３年７月 27 日～令和５年３月
　　面積：350.2 ㎡
6　調査担当者　久保　浩一郎
7　本書の編集・執筆は久保が行った。

凡　例

1　遺構の略称は次のとおりである。　　Ｈ－竪穴住居址　Ｄ－土坑　Ｍ－溝址　Ｐ－ピット
2　遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
3　スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺構図　地山　貼床　焼土　粘土　石断面

遺物図　須恵器断面　黒色処理　灰釉　緑釉　石器使用面

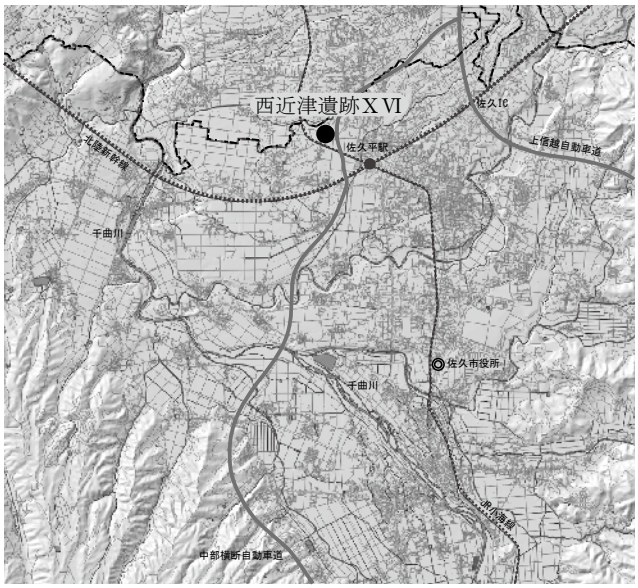
4　遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺 1/4 で掲載した。
5　本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
6　遺構計測表及び遺物観察表における（　）は推定値を、〈　〉は残存値を示す。
7　第１図は、地理院タイルの色別標高図及び陰影起伏図、国土数値情報（行政区域データ）を基に作成した。

目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯と経過・・・・・・　1
　第１節　調査にいたる経緯と調査経過・・　1
　第２節　調査組織・・・・・・・・・・・・　1
　第３節　遺構・遺物の概要　・・・・・・・　1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境　・・・・・・・・　2
　第１節　遺跡の環境と周辺の発掘調査　・　2
　第２節　調査の方法　・・・・・・・・・・　2

第Ⅲ章　遺構と遺物　・・・・・・・・・・・　3



第Ⅰ章　発掘調査の経緯と経過

第１節　調査にいたる経緯と調査経過

西近津遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在する縄文時代から平安時代までの複合遺跡である。遺跡周辺では北陸新幹線佐久平駅の開業や、佐久平浅間小学校の開校を契機とした開発が盛んに行われ、近年急速に宅地化が進んでいる。

今回、遺跡内で株式会社佐久平土地開発による宅地造成工事が計画されたことにより、同社より令和２年９月 24 日に「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が提出された。長野県教育委員会より令和２年 10 月５日に「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知を受け、令和３年３月９日、対象地 2,930 ㎡について遺構の確認調査を実施した。結果、対象地全域に弥生時代後期から平安時代までの遺構が分布することが確認された。保護協議の結果、宅地内の道路建設部分と擁壁建設部分の一部 350.2 ㎡について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

令和３年５月 10 日、株式会社佐久平土地開発と佐久市教育委員会との発掘調査業務契約を締結し、５月 14 日より発掘調査を開始した。令和３年７月 26 日現場での調査を終了し、翌 27 日より佐久市教育委員会文化財事務所にて記録及び出土遺物の整理作業を開始し、報告書作成作業を行った。令和５年３月、発掘調査報告書を刊行し、業務を終了する。

第２節　調査組織

調査主体者

佐久市教育委員会	教育長　吉岡　道明
事　務　局	
社会教育部長	土屋　孝
文化振興課長	平林　照義（令和３年度）　中沢 栄二（令和４年度）
文化振興課企画幹	谷津　和彦（令和３年度）　井上 剛（令和４年度）
文化財調査係長	山本　秀典（令和３年度、令和４年７月～） 伊澤 信子（令和４年４月～６月）
文化財調査係	冨沢 一明　上原 学　羽毛田 卓也（令和３年度）　小林 眞寿 久保 浩一郎　松下 友樹（令和４年～）
調査担当者	久保 浩一郎
調　　査　　員	赤羽根 篤　赤羽根 充江　浅沼 勝男　池野 麻矢　大矢 志慕　桐原 久人 小池 長信　清水 律子　田中ひさ子　中澤 登　仲田 恵利花　比田井 久美子 堀篭 まゆみ　堀篭 保子　森泉 文恵　森泉 美由起　柳澤 孝子　横尾 敏雄 依田 好行

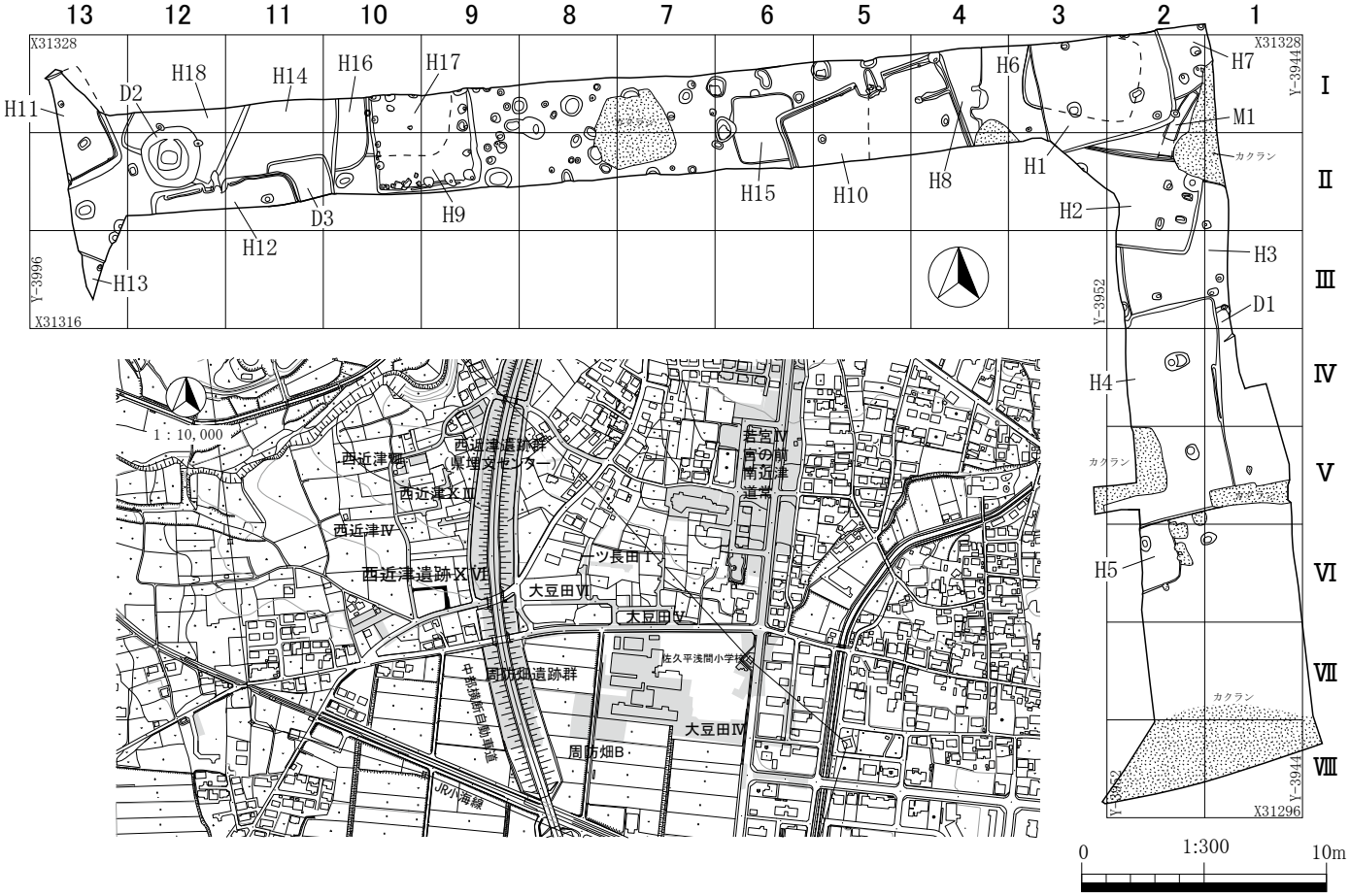
第３節　遺構・遺物の概要

遺構	竪穴住居址 18 軒（弥生時代～奈良・平安時代）、土坑３基、溝址１条、ピット 60 基
遺物	縄文土器、弥生土器、土師器（古墳～平安）、須恵器（古墳～平安）、灰釉陶器、緑釉陶器、石器（磨製石族・磨石・敲石）、鉄製品（剣・鏃・刀子・釘）玉類（勾玉・臼玉・土製管玉）、銅製品（釧・指輪）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の環境と周辺の発掘調査

本遺跡は浅間山南麓に厚く堆積した浅間軽石流を基盤とした台地上に立地し、遺構確認面での標高は約 702m を測る。周辺では多数の遺跡が調査されており、人々の居住開始は縄文時代まで遡る。西近津遺跡Ⅷでは縄文時代後期の遺構が確認され、土偶や石棒が出土した。弥生時代後期には広く集落が展開し、西近津遺跡群や大豆田遺跡Ⅳ、宮の前遺跡などで多数の住居址や周溝墓などが確認されている。古墳時代には一時的に集落が縮小するようだが、奈良・平安時代には再び一帯に集落が拡大する。銅印や墨書・刻書土器などの文字資料の他、寺院の存在を示唆する瓦も出土しており、古代においても佐久地域の拠点的な地域であったと考えられる。



第１図　西近津遺跡ⅩⅥ周辺の遺跡及び調査区全体図

第２節　調査の方法

本調査区は耕作による削平・かく乱を受けており、遺構確認面は地山ローム層上面であるが、Ⅰ６～Ⅱ８グリッドでは黒色堆積土上面での検出である。調査区内には国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とし、調査区北東の X=31364、Y=-3696 を起点とする 4m 四方のグリッドを設定し、ローマ数字と算用数字の組合せによりグリッド名を付した。

記録写真はデジタル一眼レフカメラ（LAW・JPEG）と 35 ㎜一眼レフカメラ（カラーリバーサル）を用いて、本書は、Adobe 社の Illustrator、Photoshop、Indesign を用いて編集、執筆した。

第Ⅲ章　遺構と遺物

H1 号住居址（第 2 図）　Ⅰ 2・3 グリッドで検出され、H6・7 号住居址より新しい。北側が調査区外に延びるが、東西 5.2m、南北 4.9m 以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは 0.37m、主軸は W-13°-N を測る。カマドは検出されなかったが北側中央に位置すると考えられる。P1 ～ P4 が主柱穴と考えられ、硬質な床面が検出される。貼床は厚さ 2 ～ 28cm 確認された。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土した。弥生土器は H6・7 号住居址からの混入と考えられ、灰釉陶器から本址は平安時代の所産と考えられる。

H2 号住居址（第 3･4 図）　Ⅱ 2 グリッドで検出され､H1 号住居址より古く､H3 号住居址より新しい。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 6.0m 以上、南北 3.8m、の隅丸長方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは 0.46m､主軸は W-80°-N を測る。炉跡は検出されなかった。P1・P2・P4 が主柱穴、P5・P6 が入口施設と考えられる。床面は硬質で、貼床は厚さ 4cm 程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土製品、鉄製品が出土した。35 ～ 37 は土製の紡錘車、38 は板状の鉄製品である。遺物より本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

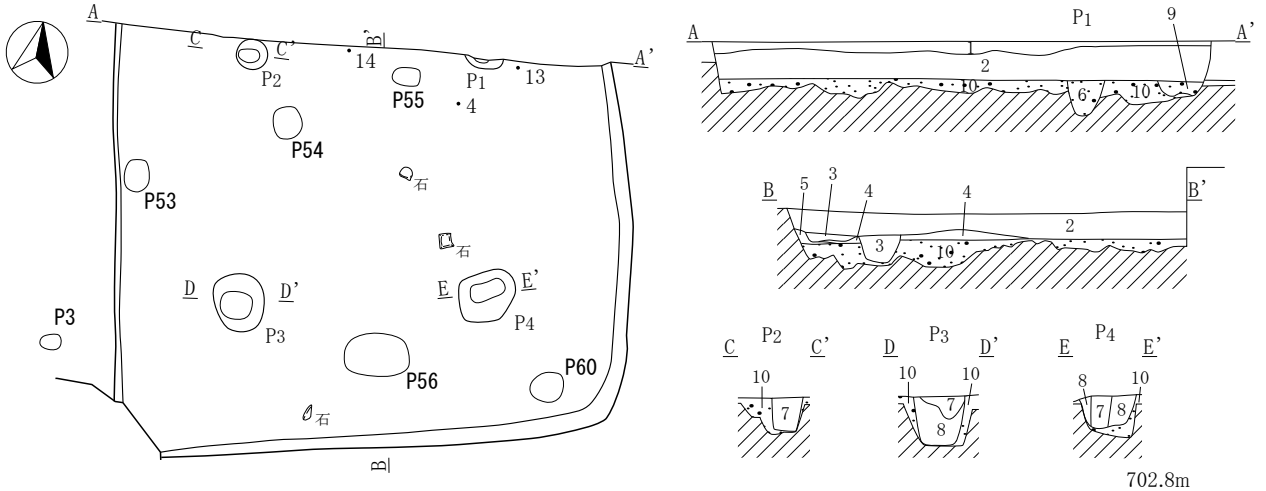
H3 号住居址（第 5･6 図）　Ⅲ 2 グリッドで検出され､H2･4 号住居址より古い。北側を H2 号住居址に、南側を H4 号住居址に壊され、東側が調査区外に延びる。東西 4.2m 以上、南北 5.2m 以上、検出面から床面までの深さは 0.18m、主軸は W-6°-N を測る。P1・P2・P3・P4 が主柱穴と考えられ、P1 と P2 の間で炉跡と考えられる焼土が検出された。床面は硬質で、貼床は厚さ 8cm 程度確認できる。堀方では 6 基のピットが検出され、P7・P8・P9 は主柱穴、P5・P6 は入口施設と考えられる。P2 を共有し建替えられたものだろうか。遺物は弥生土器と鉄製品が出土した。18 鉄鏃と考えられる。遺物より本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

H4 号住居址（第 7・8 図）　Ⅳ 2・Ⅴ 2 グリッドで検出され、H3・5 号住居址より新しい。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 3.8m 以上、南北 8.5m の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは 0.58m、主軸は W-10°-N を測る。カマドは北側に位置し、粘土と焼土が確認できる。床面は硬質で、ピット 2 基が検出され、主柱穴と考えられる。貼床は厚さ 20cm 程度確認でき、堀方では 4 基のピットが検出された。西側にずらして建替えが行われたようである。遺物は弥生土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、石器、鉄製品、銅製品が出土した。混入遺物と考えられるものもあり、本址は奈良時代の所産と考えたい。48 は銅製の指輪と考えられ、弥生時代後期の所産と考えられる。

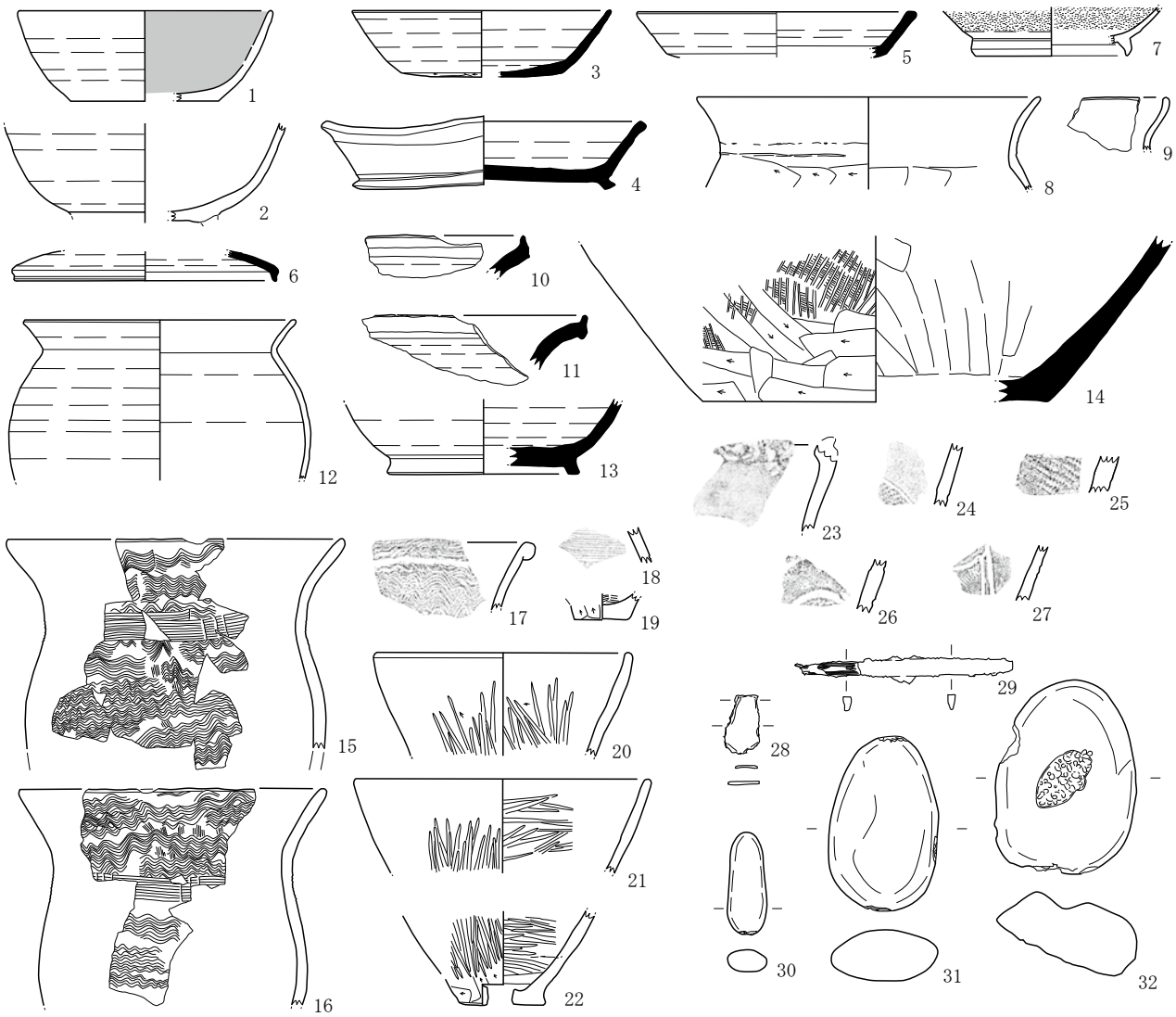
H5 号住居址（第 9 図）　Ⅵ 2 グリッドで検出され、H4 号住居址より古い。遺構南東部分のみの検出であるため全容は不明だが、床面が確認できるため住居址と判断した。検出面から床面までの深さは 0.35m、床面は硬質で、ピット 1 基が検出された。貼床は厚さ 25cm 程度確認できる。遺物は須恵器と土師器の小片が出土している。1 は土師器の甕である。本址は古墳時代後期から奈良時代の所産と考えられる。

H6 号住居址（第 10 図）　Ⅰ 3 グリッドで検出され、H1 号住居址より古い。上部を H1 号住居址に壊され、北西部分が調査区外に延びるが、東西 4.5m 程度、南北 3.3m 程度と想定される隅丸長方形の住居址である。床面は西側しか残っていないが、検出面からの深さは 0.28m、主軸は W-78°-N を測る。ピットは 6 基検出され、P1 ～ P4 が主柱穴、P5 と P6 が入口施設と考えられる。炉跡は P1 と P2 の間で検出され、一辺に楕円礫が埋められている。床面は硬質で、貼床は厚さ 15cm 程度確認できる。遺物は弥生土器が出土しており、弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

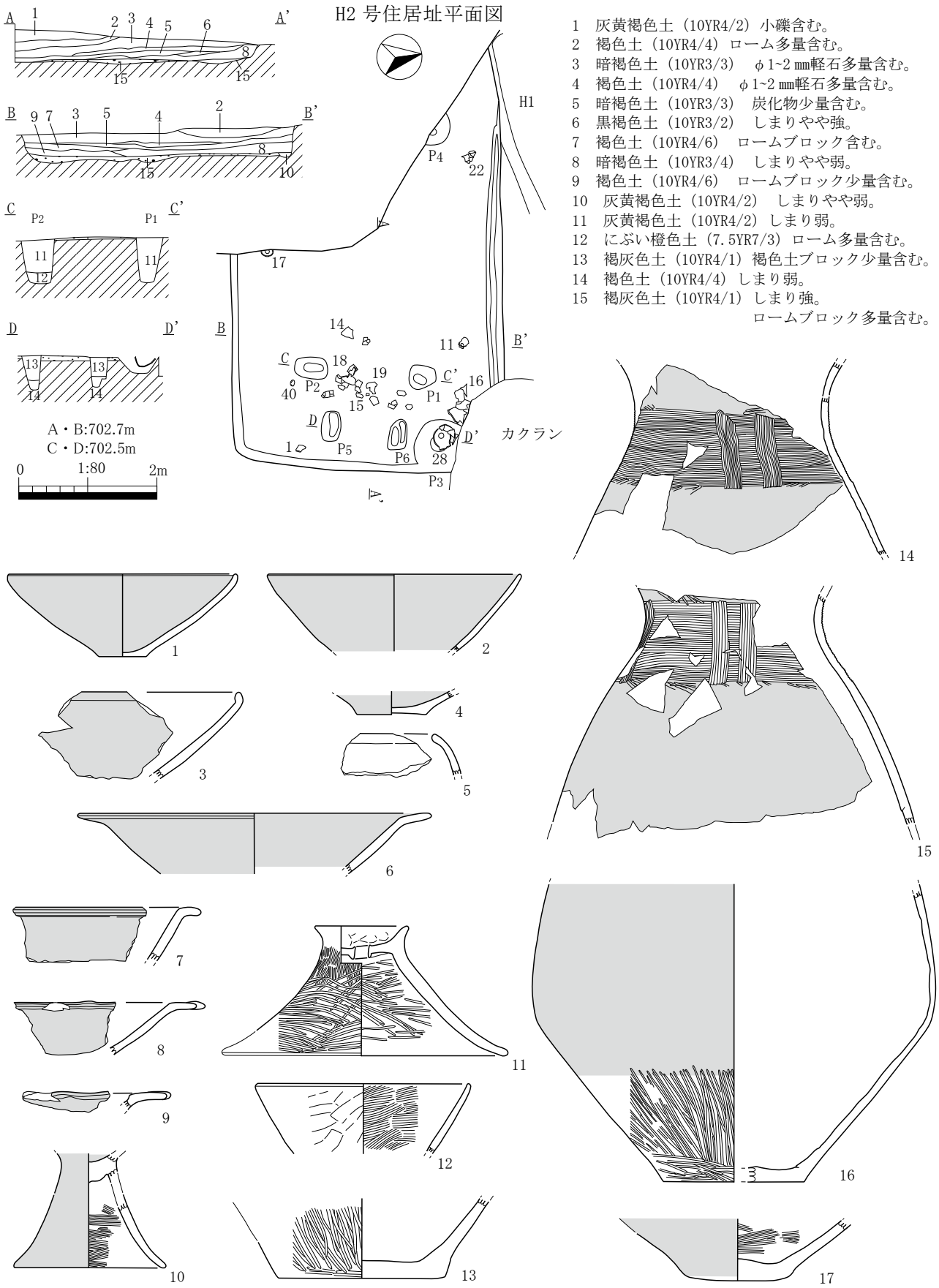
H1 号住居址平面図



1　褐灰色土（10YR4/1）　炭化物含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）　灰黄褐色土ブロック含む。Pit
4　灰黄褐色土（10YR4/2）　ロームブロック含む。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　炭化物少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック多量含む。
7　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック少量含む。
8　にぶい橙色土（7.5YR7/3）　暗褐色土ブロック含む。
9　灰黄褐色土（10YR4/2）　黒色土ブロック含む。
10　褐灰色土（10YR4/1）　貼床。しまり強。ロームブロック含む。

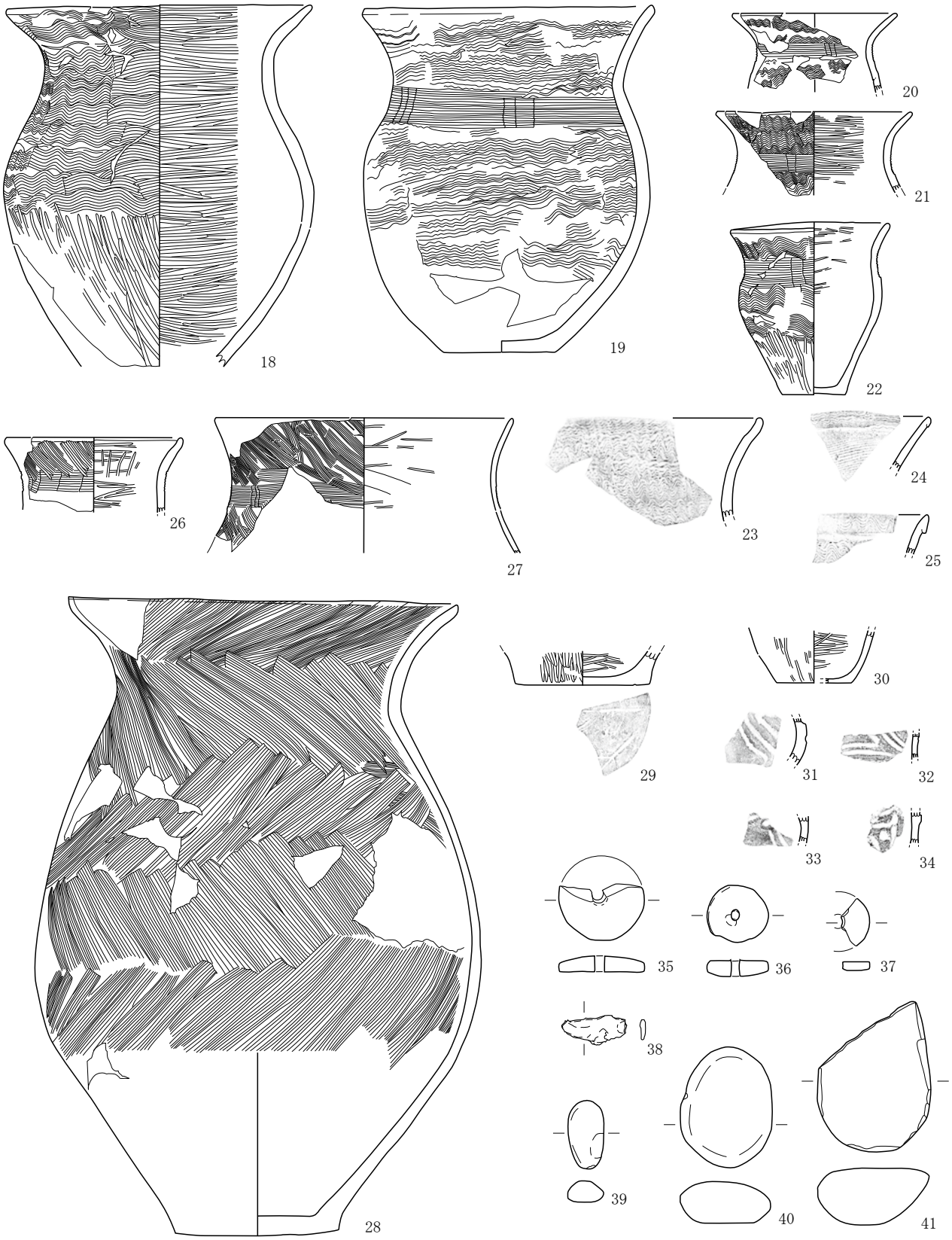


第 2 図　H1 遺構図・遺物図

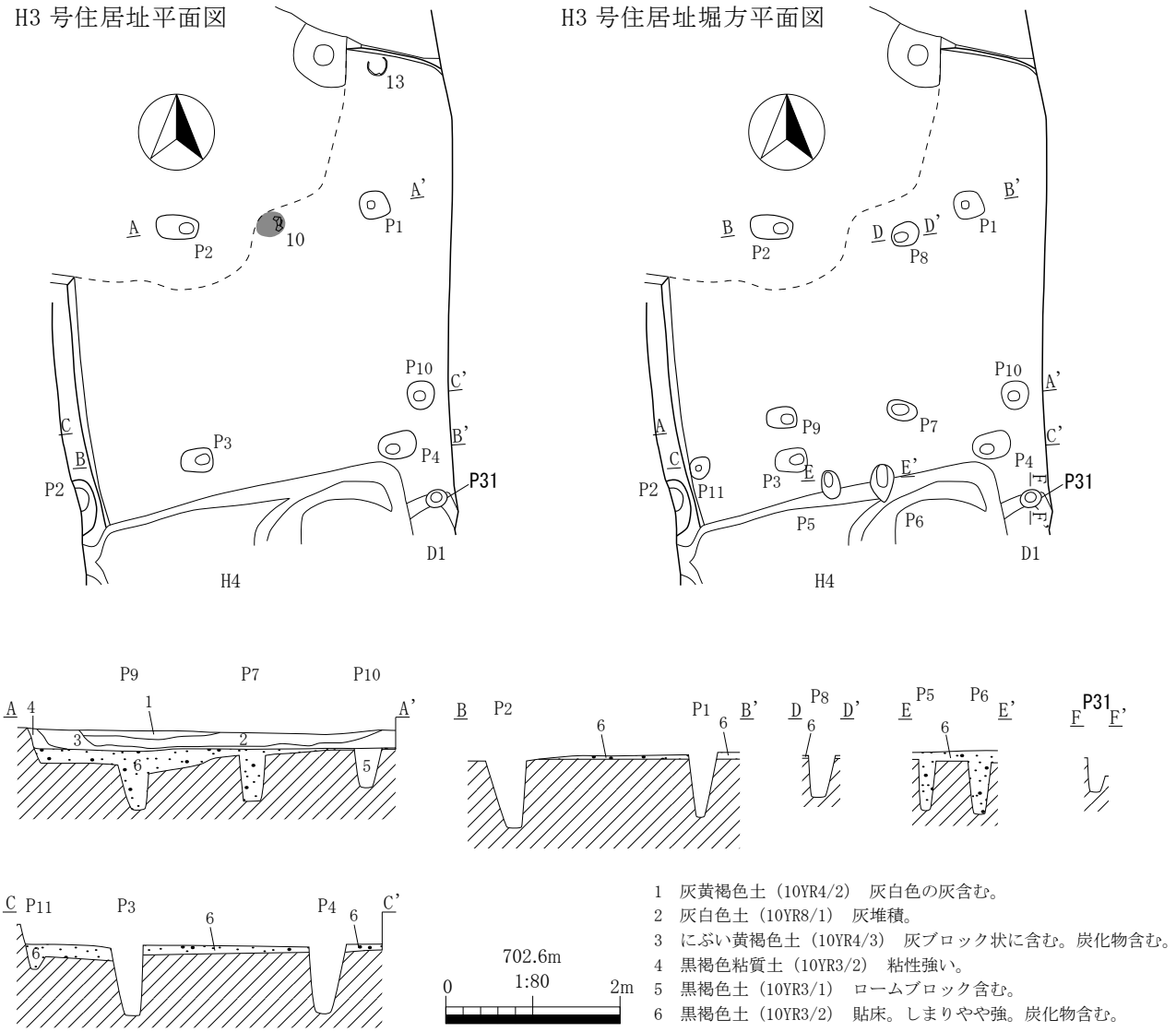


1　灰黄褐色土（10YR4/2）小礫含む。
2　褐色土（10YR4/4）ローム多量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　φ1~2㎜軽石多量含む。
4　褐色土（10YR4/4）　φ1~2㎜軽石多量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物少量含む。
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりやや強。
7　褐色土（10YR4/6）　ロームブロック含む。
8　暗褐色土（10YR3/4）　しまりやや弱。
9　褐色土（10YR4/6）　ロームブロック少量含む。
10　灰黄褐色土（10YR4/2）　しまりやや弱。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）しまり弱。
12　にぶい橙色土（7.5YR7/3）ローム多量含む。
13　褐灰色土（10YR4/1）褐色土ブロック少量含む。
14　褐色土（10YR4/4）しまり弱。
15　褐灰色土（10YR4/1）しまり強。
ロームブロック多量含む。

第 3 図　H2 号住居址遺構図・遺物図 1



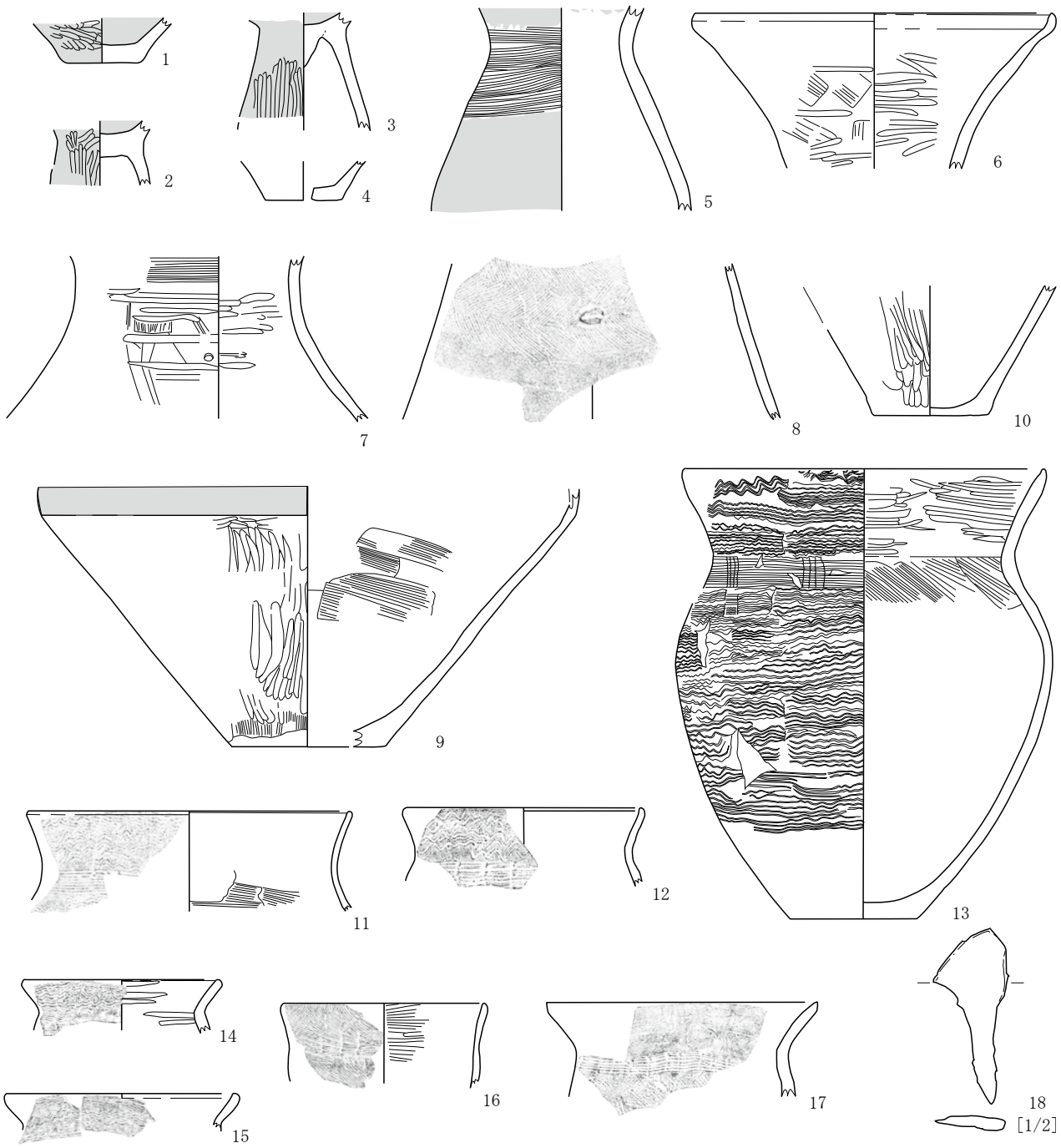
第 4 図　H2 号住居址遺物図 2



第 5 図　H3 号住居址遺構図

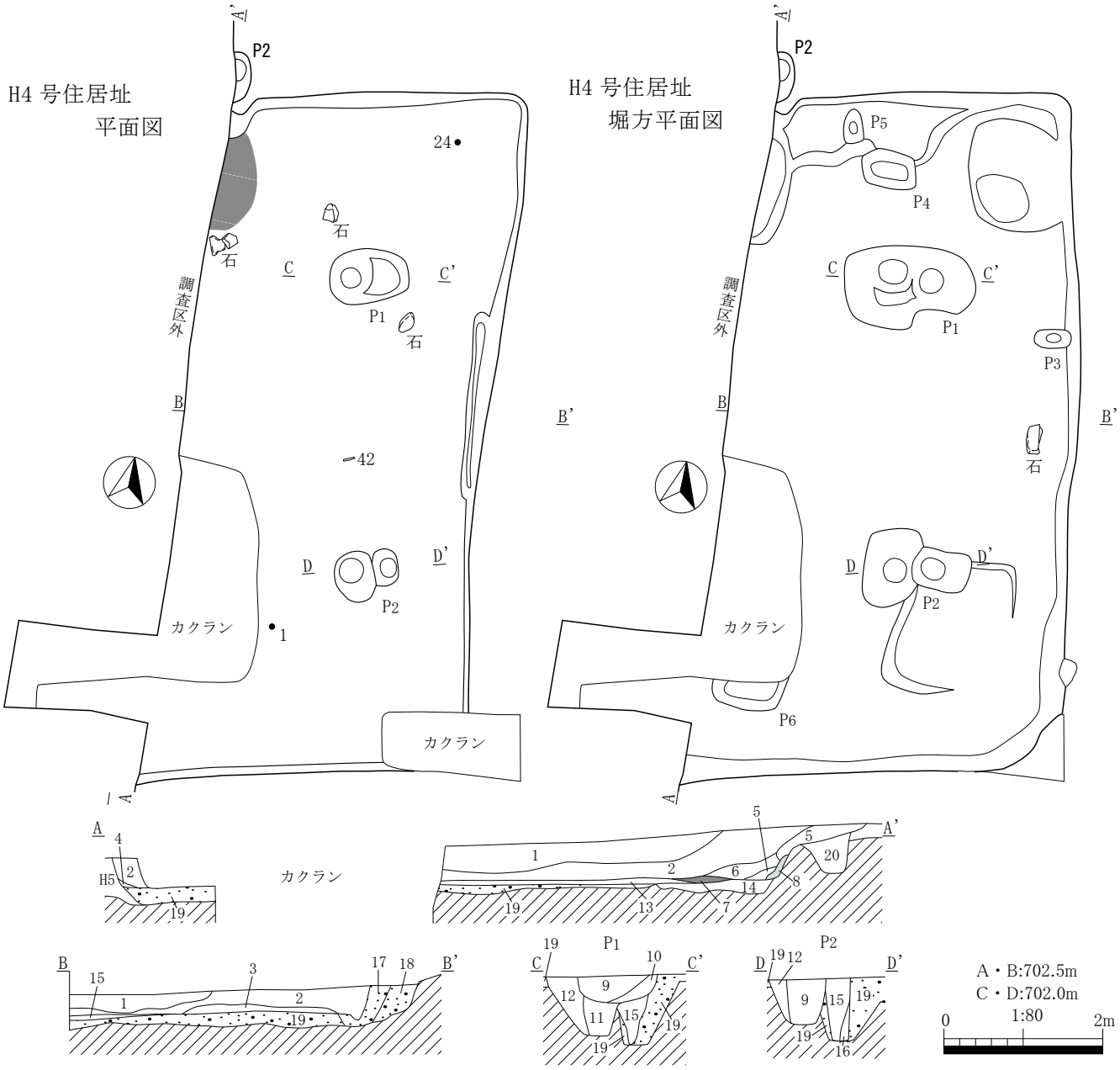
H7 号住居址（第 11 図）　Ⅰ 2 グリッドで検出され、H1 号住居址より古い。西側を H1 号住居址に壊され、北側と東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、床面とピットが検出されたことから住居址と判断した。検出面から床面までの深さは 0.41m、主軸は W-25°-N を測る。床面は硬質でピットが 4 基検出され、P1･P2 が主柱穴、P3 と P4 が入口施設と考えられる。貼床は厚さ 5cm 程度確認でき、堀方でピット 1 基が検出された。遺物は出土していないが、弥生時代の所産と考えられる。

H8 号住居址（第 12 ～ 14 図）　Ⅰ 4・5 グリッドで検出され、H10 号住居址より新しい。南北両側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 4.4m、南北 4.0m 以上の方形を呈するものと考えられる。遺構検出面で硬質な床面が検出されたため住居側壁はほとんど残っていない。主軸は N-1°-E を測る。カマドは東側に位置し、粘土と焼土が確認された。床面は硬質で、ピット 2 基が検出され、主柱穴と考えられる。貼床は厚さ 15cm 程度確認できる。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製品が出土した。土師器は墨書されたものが認められる。27 ～ 29 は緑釉陶器で、27 は皿、28 は輪花皿、29 は耳皿と考えられる。遺物から本址は 10 世紀代の所産と考えられる。

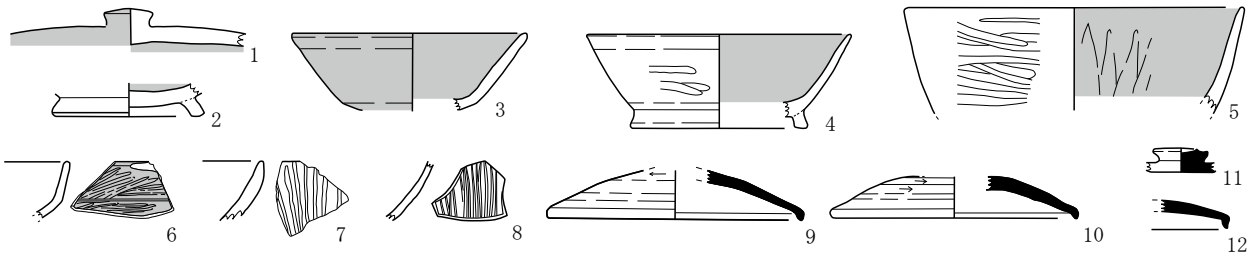


第 6 図　H3 号住居址遺物図

H9 号住居址（第 15・16 図）　Ⅰ 9・10、Ⅱ 9・10 グリッドで検出され、H17 号住居址より新しい。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 4.2m、南北 3.9m 以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは 0.54m、主軸は W-4°　-N を測る。カマドは検出されなかった。床面は硬質で、住居址内の壁に沿って 15 基のピットが検出され、南西部では礫が検出された。貼床は厚さ 15cm 程度確認できる。堀方では 3 基のピットが検出された。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品が出土した。遺物から本址は 9 世紀代の所産と考えられる。



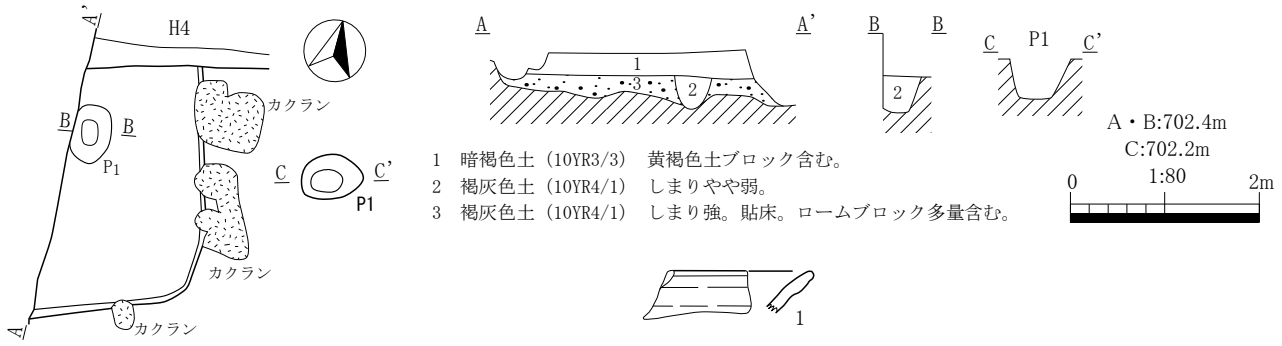
1　褐灰色土（10YR4/1）　黒色粘土ブロック少量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）
3　灰黄褐色土（10YR4/2）　にぶい橙色土ブロック含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）　ロームブロック含む。
5　黒色粘土（10YR2/1）　カマド崩落土
6　黒褐色粘質土（10YR3/1）　粘土ブロック含む。
7　褐灰色土（10YR6/1）　焼土多量含む。
8　黒色粘土（10YR2/1）　カマド構築土。しまり強。
9　灰黄褐色土（10YR4/2）　黒色粘土ブロック少量含む。
10　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
11　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ローム含む。
12　褐灰色土（10YR5/1）　ロームブロック多量含む。
13　黒褐色土（10YR3/1）　しまり強。貼床。
14　灰黄褐色土（10YR4/2）　焼土ブロック含む。
15　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ローム含む。
16　浅黄橙色土（10YR8/4）　ロームブロック含む。
17　褐灰色土（10YR5/1）　ロームブロック多量含む。
18　にぶい橙色土（7.5YR7/3）　褐灰色土ブロック多量含む。
19　褐灰色土（10YR5/1）　しまり強。貼床。ロームブロック多量含む。
20　灰黄褐色土（10YR4/2）　黒褐色土ブロック含む。P2 埋土



第 7 図　H4 号住居址遺構図・遺物図 1

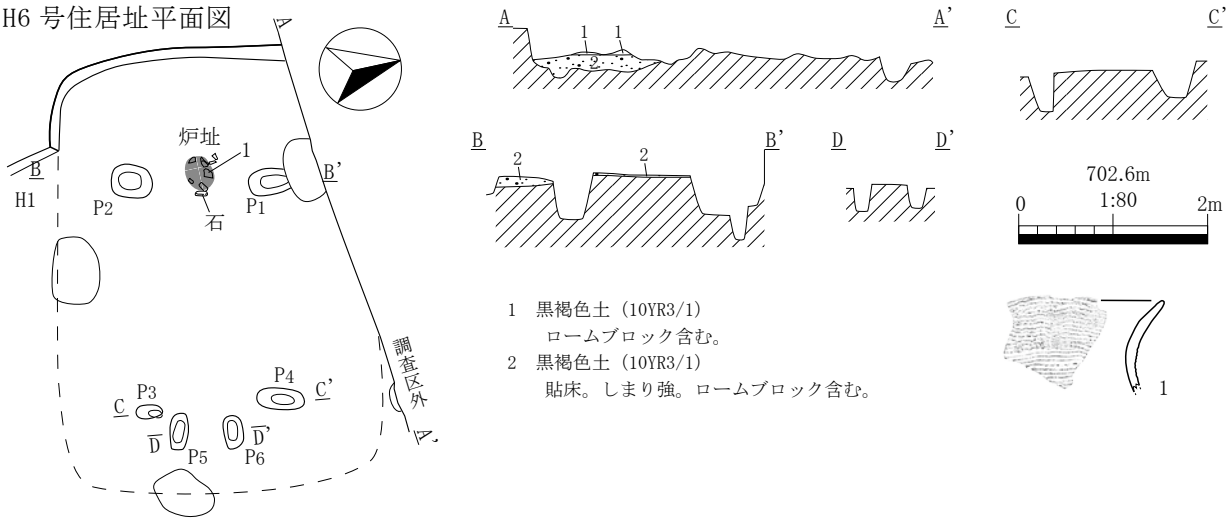
第 8 図　H4 号住居址遺物図 2

H5 号住居址平面図



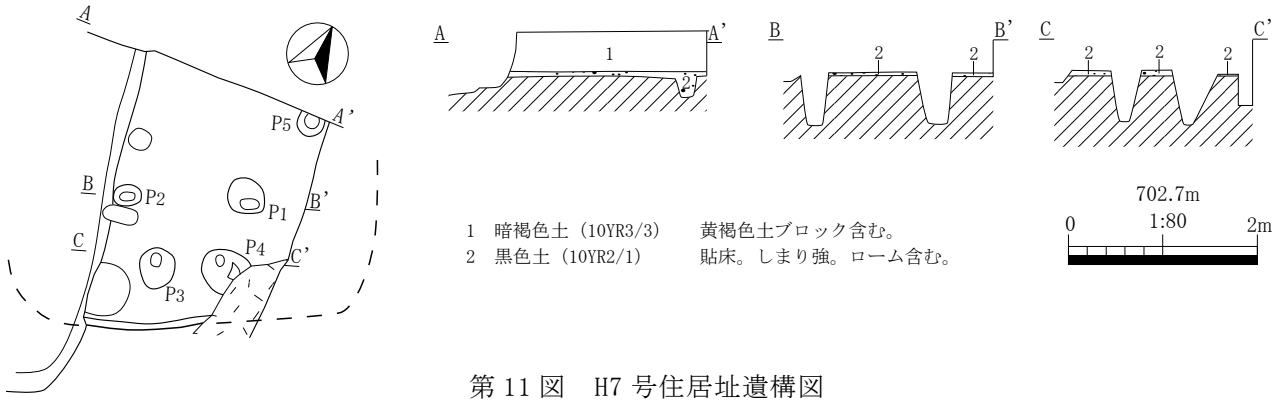
第 9 図　H5 号住居址遺構図・遺物図

H6 号住居址平面図



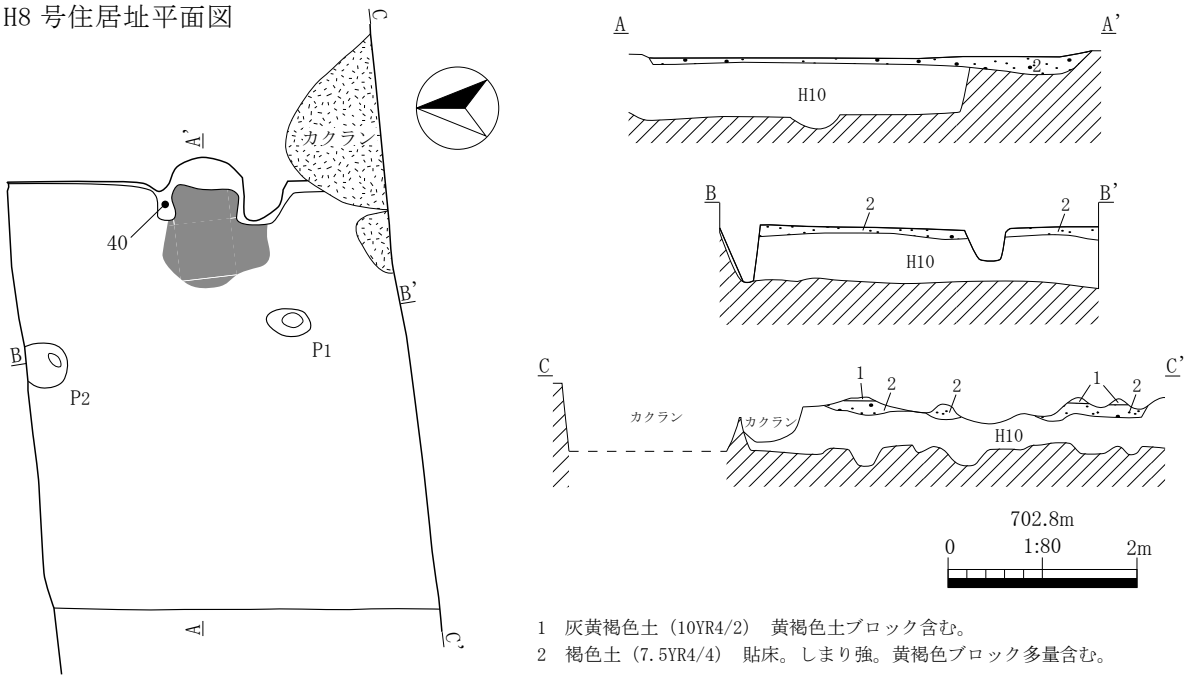
第 10 図　H6 号住居址遺構図・遺物図

H7 号住居址平面図

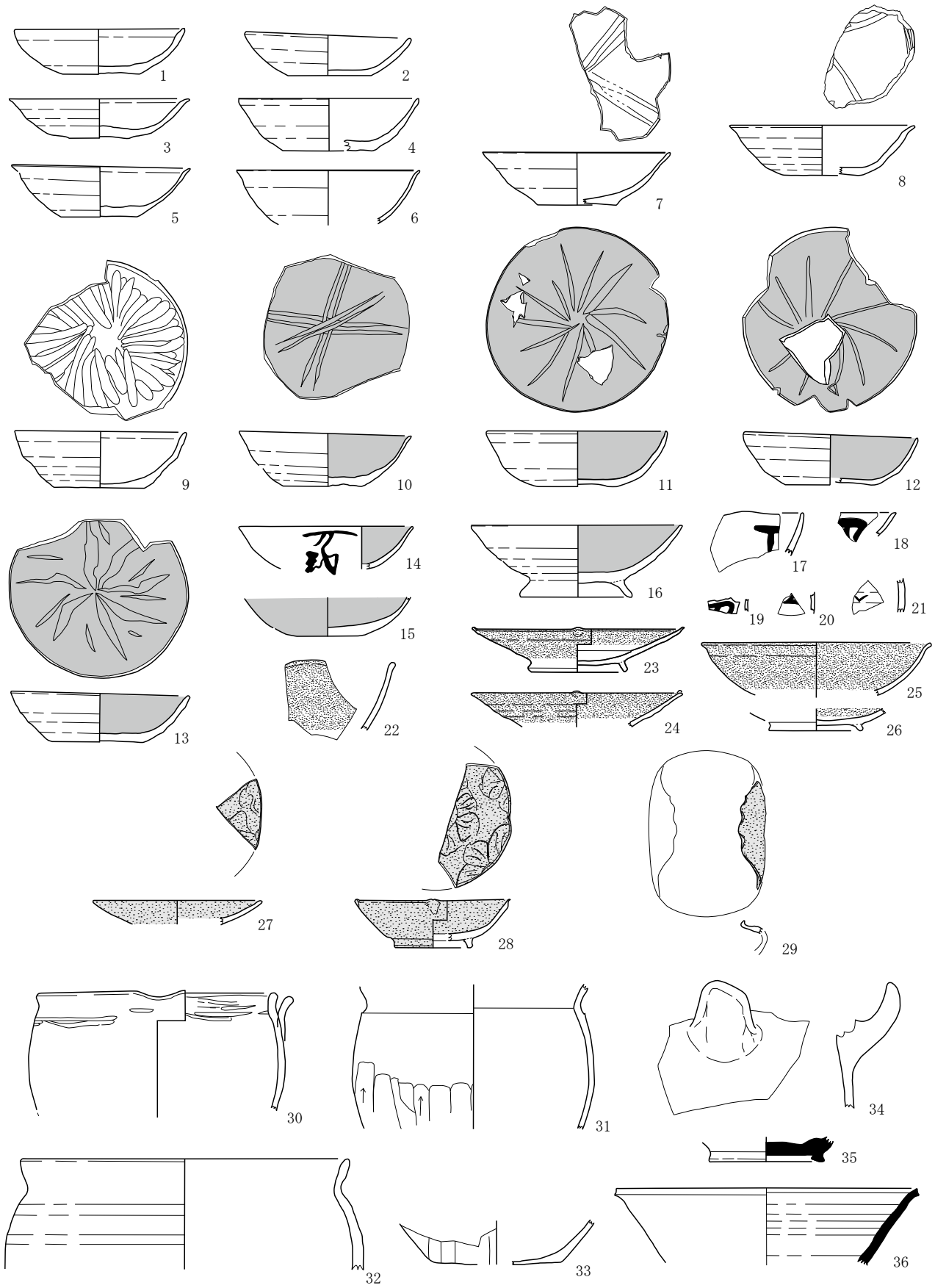


第 11 図　H7 号住居址遺構図

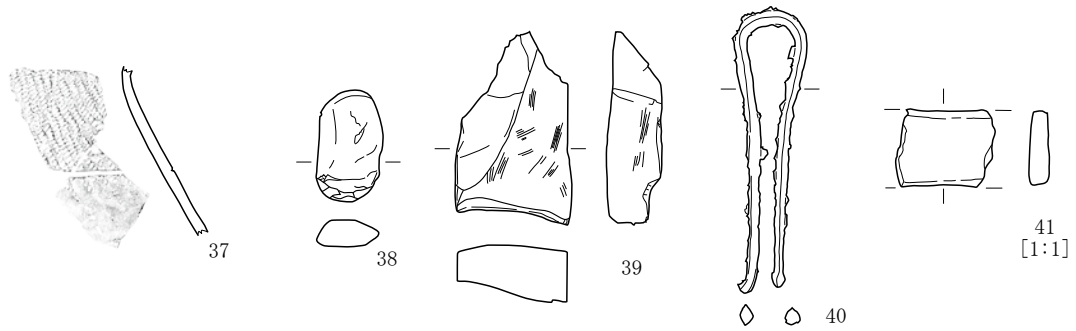
H8 号住居址平面図



第 12 図　H8 号住居址遺構図

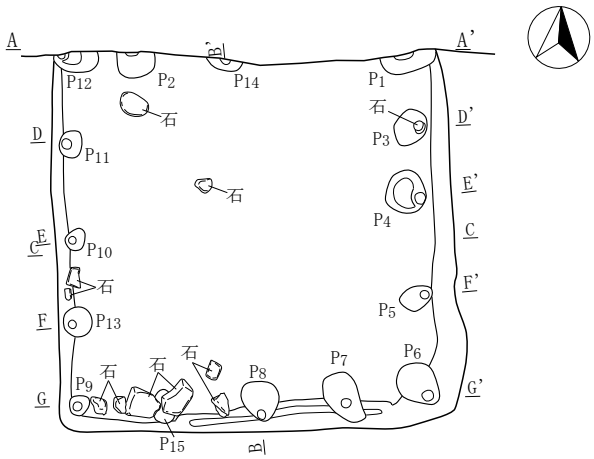


第 13 図　H8 号住居址遺物図 1

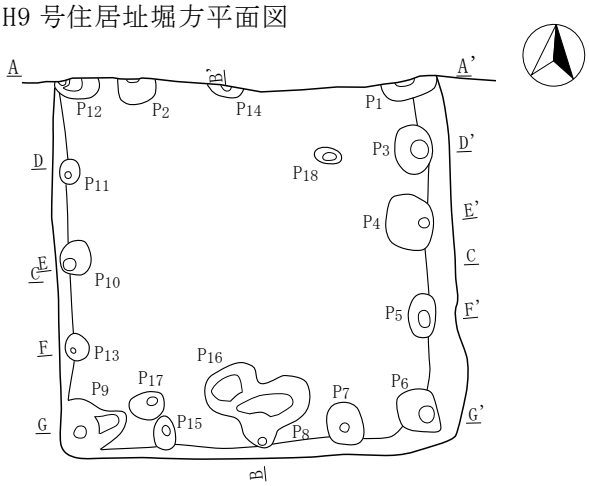


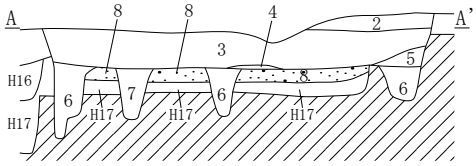
第 14 図　H8 号住居址遺物図 2

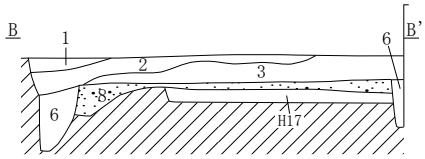
H9 号住居址平面図

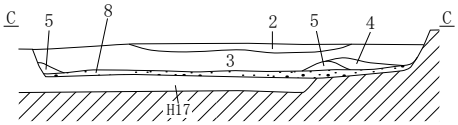


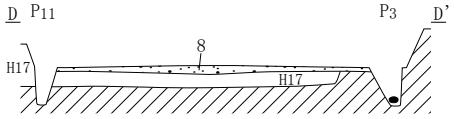
H9 号住居址堀方平面図

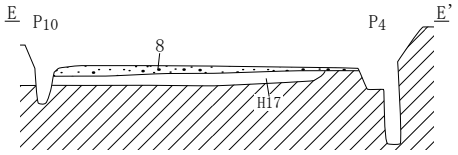


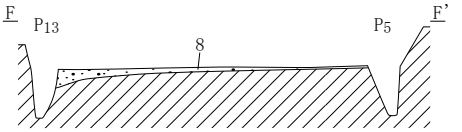


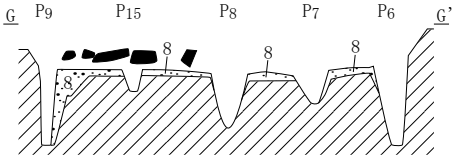




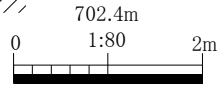




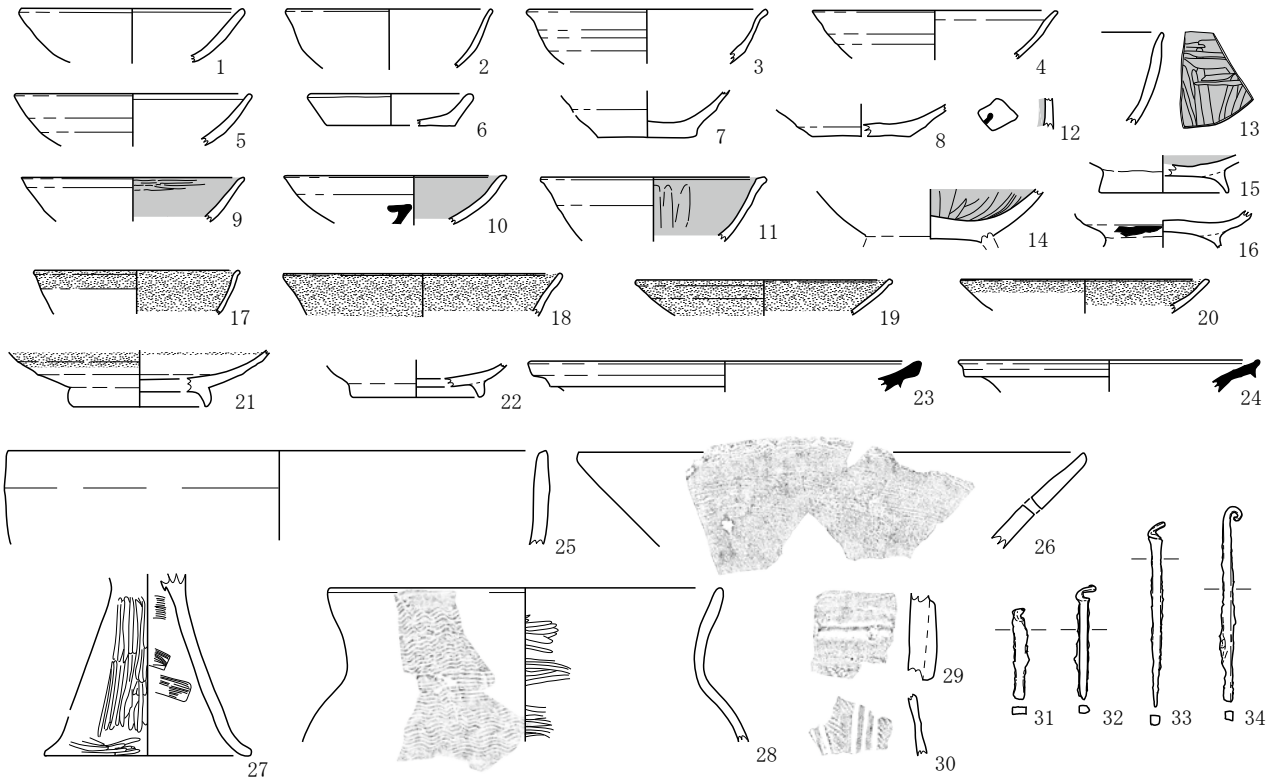




1　褐灰色土（10YR4/1）　黄褐色土ブロック含む。
2　褐灰色土（10YR4/1）　黄褐色土ブロック多量含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）　黒色土ブロック含む。
4　褐灰色土（10YR4/1）　橙色ロームブロック含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）　黄褐色土ブロック少量含む。
6　にぶい橙色土（5YR7/3）　ロームブロック多量含む。
7　褐灰色土（10YR4/1）　ロームブロック含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）　貼床。しまり強。ロームブロック含む。



第 15 図　H9 号住居址遺構図



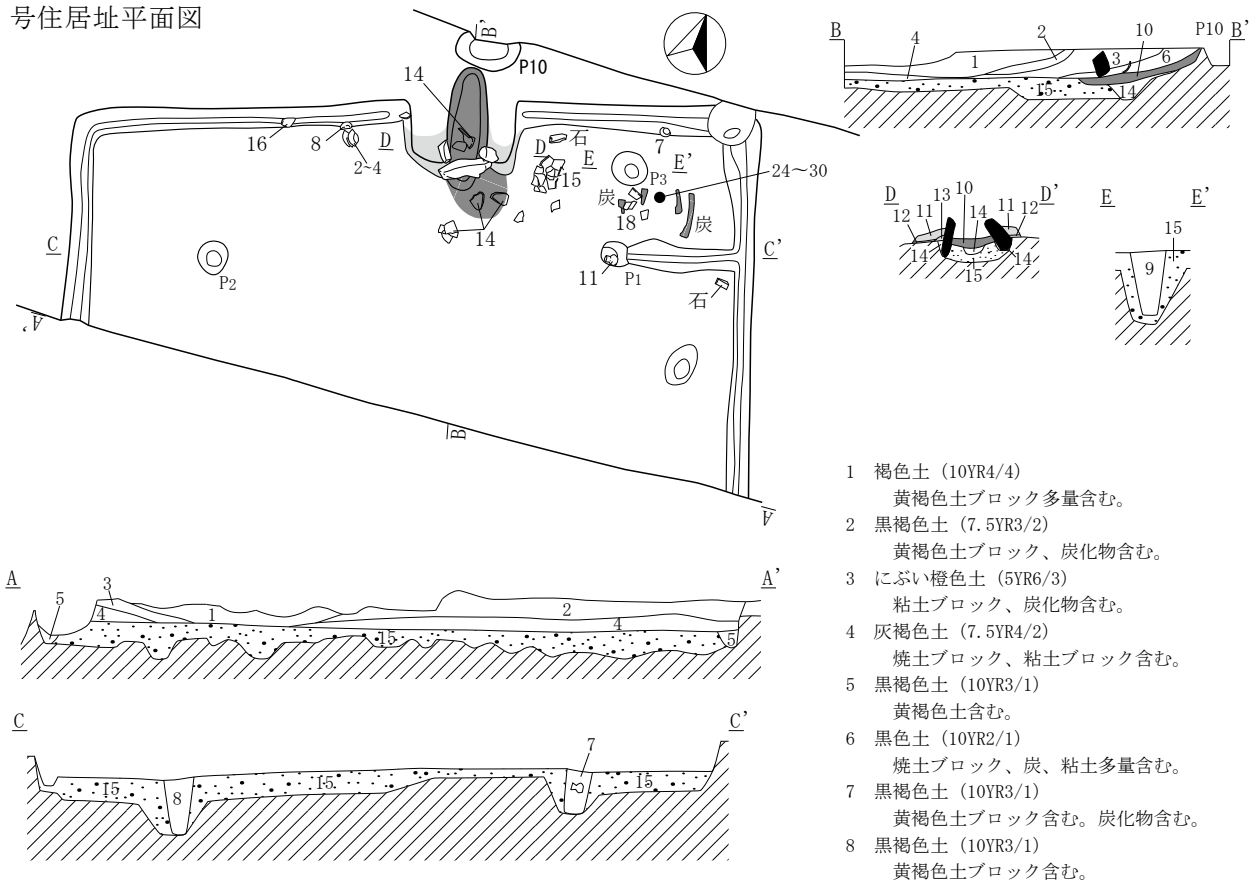
第 16 図　H9 号住居址遺物図

H10 号住居址（第 17 ～ 19 図）　Ⅰ 4 ～ 6 グリッドで検出され、H8 号住居址より古く、H15 号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 7.2m、南北 3.9m 以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは 0.31m、主軸は W-20°-N を測る。カマドは北側中央に位置し、粘土と礫により構築される。住居内北東部では炭化物が多量に検出されたことから、焼失住居と考えられる。床面は硬質で、3 基のピットと周溝及び間仕切り溝が検出された。P_1・P_2 は主柱穴と考えられ、P_1 からは完形の土師器壷（11）が出土している。貼床は厚さ 30cm 程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品が出土した。19 ～ 30 は滑石製の臼玉で、19 ～ 22 は北東側の炭化物集中箇所から出土している。31 は土製の管玉である。本址は古墳時代後期の所産と考えられる。

H11 号住居址（第 20 図）　Ⅰ 13・Ⅱ 13 グリッドで検出された。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 2.5m 以上、南北 4.5m、検出面から床面までの深さは 0.66m、主軸は W-24°-N を測る。カマドは検出されなかった。床面は硬質で、2 基のピットと周溝が検出された。P_1・P_2 は主柱穴と考えられる。貼床は厚さ 20cm 程度確認できる。遺物は土師器と須恵器が出土した。本址は 8 世紀代の所産と考えられる。

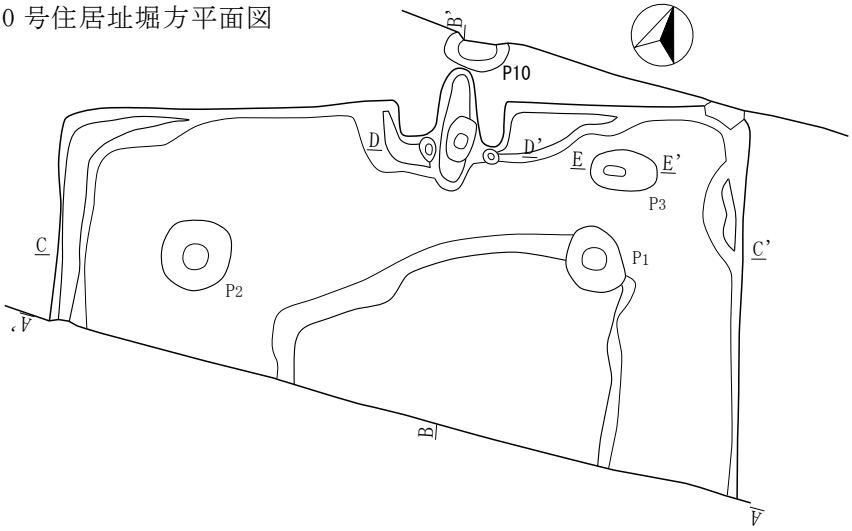
H12 号住居址（第 21 図）　Ⅱ 11・12 グリッドで検出され、D3 号土坑より古く、H14・18 号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 6.0m、南北 2.0m 以上、検出面から床面までの深さは 0.66m、主軸は W-17°-N を測る。カマドは北側中央に位置し、粘土と礫で構築される。床面は硬質で、1 基のピットと周溝が検出された。P_1 は主柱穴と考えられる。貼床は厚さ 30cm 程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。本址は 8 世紀代の所産と考えられる。

H10 号住居址平面図

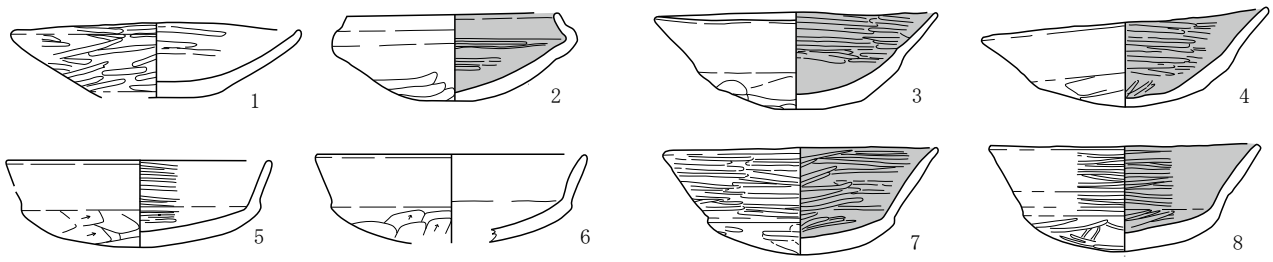


1　褐色土（10YR4/4）
　黄褐色土ブロック多量含む。
2　黒褐色土（7.5YR3/2）
　黄褐色土ブロック、炭化物含む。
3　にぶい橙色土（5YR6/3）
　粘土ブロック、炭化物含む。
4　灰褐色土（7.5YR4/2）
　焼土ブロック、粘土ブロック含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）
　黄褐色土含む。
6　黒色土（10YR2/1）
　焼土ブロック、炭、粘土多量含む。
7　黒褐色土（10YR3/1）
　黄褐色土ブロック含む。炭化物含む。
8　黒褐色土（10YR3/1）
　黄褐色土ブロック含む。
9　灰黄褐色土（10YR4/2）
　橙色粘土ブロック、焼土ブロック含む。
10　黒色土（10YR2/1）
　粘土、灰、炭化物多量含む。
11　にぶい橙色粘土（5YR6/3）
　しまり強。
12　黒色粘土（10YR2/1）
　しまり強。炭化物多量含む。
13　褐灰色粘土（10YR5/1）
　しまり強。
14　黒褐色土（10YR3/1）
　ロームブロック多量含む。
15　黒褐色土（10YR3/2）
　貼床。しまり強。ロームブロック多量含む。
　6 層上に 5 ㎜～ 1 ㎝の厚さで炭化物層あり。

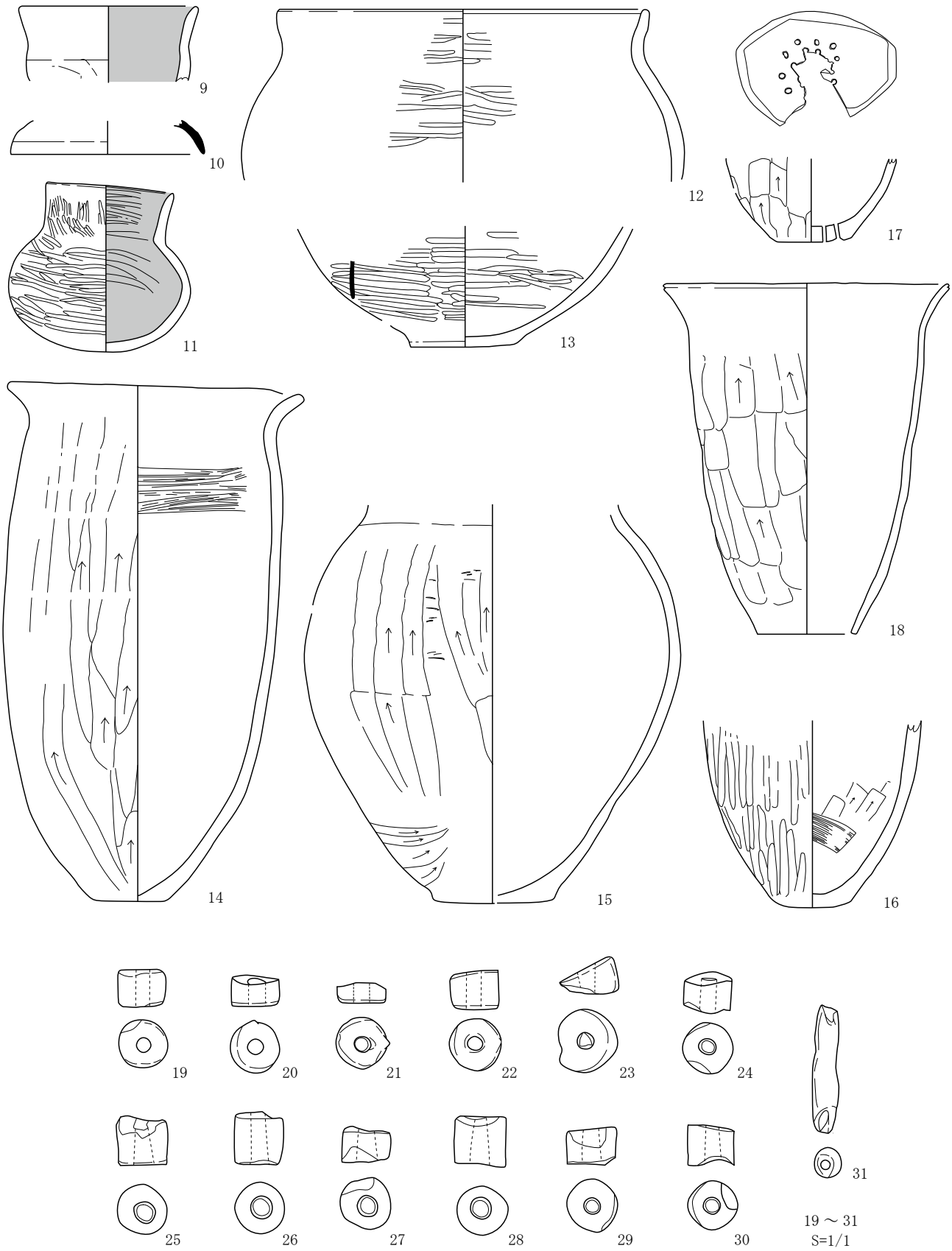
H10 号住居址堀方平面図



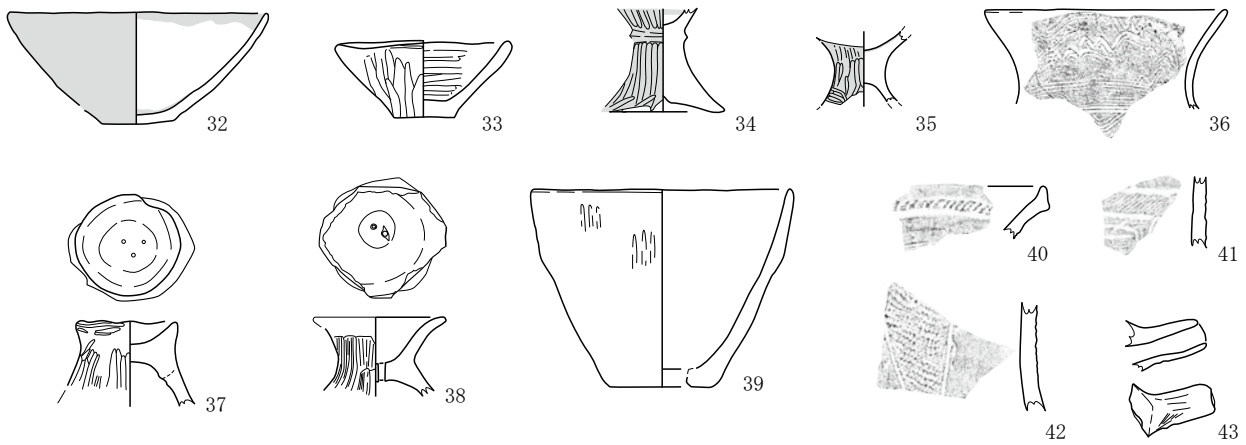
702.6m
1:80
0　2m



第 17 図　H10 号住居址遺構図・遺物図 1



第 18 図　H10 号住居址遺物図 2



第 19 図　H10 号住居址遺物図 3

H13 号住居址（第 20 図）　Ⅲ 13 グリッドで検出された。一部のみの検出だが、硬質な床面が確認できるため住居址と判断した。検出面から床面までの深さは 0.37m で、床面でピット 1 基が検出された。堀方は 15cm 程度の深さが確認できる。遺物は弥生土器や土師器の小片が出土しているが、本址の帰属時期は不明である。

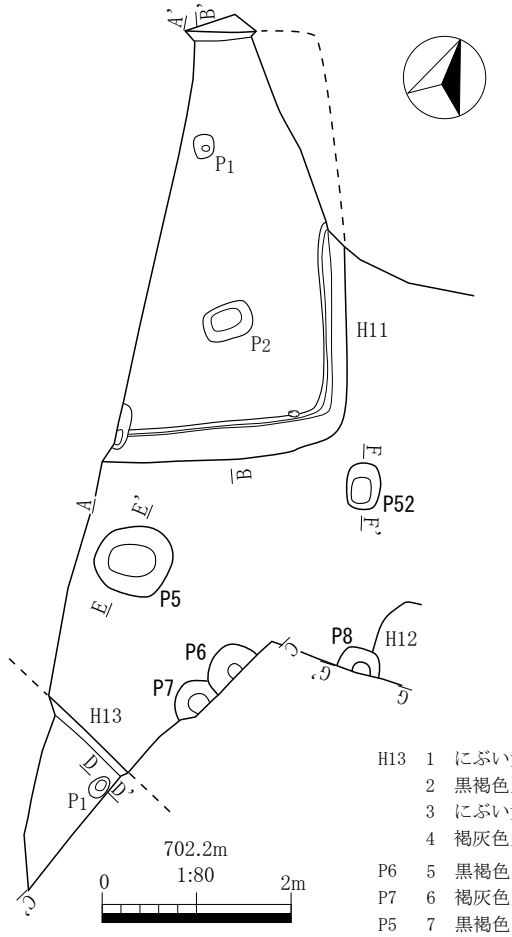
H14 号住居址（第 22 ～ 24 図）　Ⅰ 11・Ⅱ 11 グリッドで検出され、H12・18 号住居址より古く、H16・17 号住居址より新しい。南側から西側を壊され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 4.6m 以上、南北 4.1m 以上、検出面から床面までの深さは 0.60m、主軸は W-2°　-N を測る。床面は硬質で、H12 号住居址堀方で確認された 3 基を含め、4 基のピットが検出されている。P_1・P_2 が主柱穴、P_3・P_4 が入口施設と考えられる。遺物は弥生土器、鉄製品、勾玉が出土した。62 は刀子で、混入品と考えられる。63 は鉄族の破片と考えられる。64 はヒスイ製の勾玉である。本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

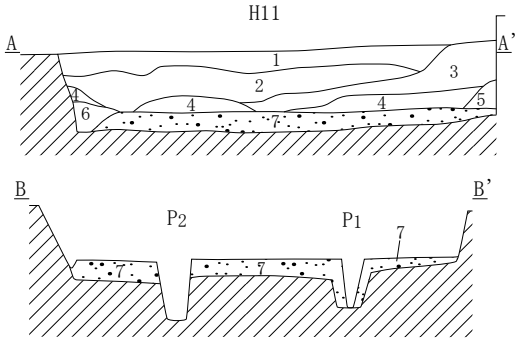
H15 号住居址（第 25 図）　Ⅰ 6・Ⅱ 6 グリッドで検出され、H10 号住居址より古い。東西 2.5m、南北 2.7m の範囲で硬質面が検出されたことから住居址と判断した。カマドや炉跡は検出されなかった。貼床は 5cm 程度の厚さが確認できる。主軸は W-7°　-N を測る。遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

H16 号住居址（第 26 図）　Ⅰ 10・Ⅱ 10 グリッドで検出され、H14 号住居址より古く、H17 号住居址より新しい。西側を壊され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、検出面から床面までの深さは 0.32m、主軸は W-3°　-N を測る。床面は硬質で、H14 号住居址堀方で確認されたものを含め、5 基のピットが検出されている。P_1・P_2 が主柱穴、P_3・P_4 が入口施設と考えられる。貼床は 5cm 程度の厚さが確認できる。遺物は縄文土器と弥生土器が出土した。本址は弥生時代後期の箱清水式期の所産と考えられる。

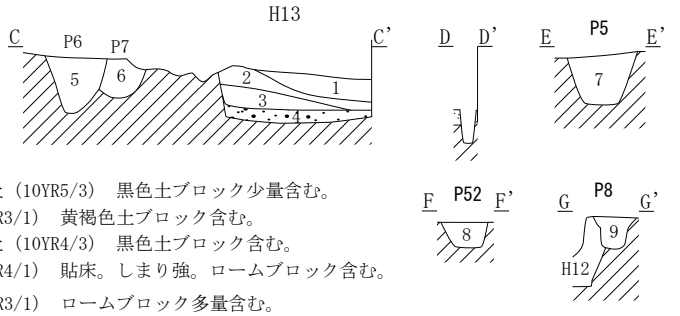
H17 号住居址（第 27 図）　Ⅰ 9・10 グリッドで検出され、H9・16 号住居址より古い。全容は不明だが東西 3.3m 以上、南北 2.5m 以上、検出面から床面までの深さは 0.34m、主軸は N-3°　-E を測る。床面は硬質で、8 基のピットが検出された。P_1・P_3 が主柱穴、P_6・P_7 が入口施設と考えられる。住居内南東部分の床面及び P_5 内から粘土が検出されている。貼床は 5cm 程度の厚さが確認でき、堀方からはピット 1 基が検出された。遺物は弥生土器が出土しており、本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

H11・H13 号住居址平面図



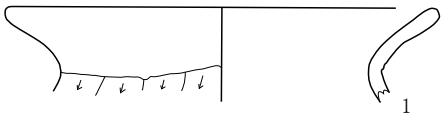


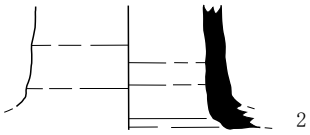
H11 1 褐灰色土（10YR5/1） にぶい黄褐色土ブロック少量含む。
2 褐灰色土（10YR5/1） 黄褐色土ブロック多量含む。黒色土ブロック含む。
3 黒褐色土（10YR3/2） にぶい黄褐色土帯状に含む。
4 褐灰色土（10YR6/1） 黄褐色土ブロック多量含む。
5 灰黄褐色土（10YR4/2） 黒褐色土含む。
6 暗褐色土（10YR3/3） ロームブロック少量含む。
7 にぶい橙色土（7.5YR7/3） 黒色土ブロック含む。ロームブロック多量含む。

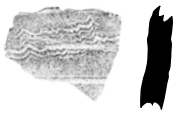


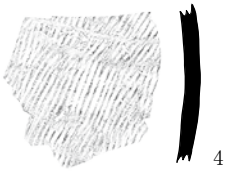
H13 1 にぶい黄褐色土（10YR5/3） 黒色土ブロック少量含む。
2 黒褐色土（10YR3/1） 黄褐色土ブロック含む。
3 にぶい黄褐色土（10YR4/3） 黒色土ブロック含む。
4 褐灰色土（10YR4/1） 貼床。しまり強。ロームブロック含む。
P6 5 黒褐色土（10YR3/1） ロームブロック多量含む。
P7 6 褐灰色土（10YR4/1） ロームブロック少量含む。
P5 7 黒褐色土（10YR3/2） ロームブロック含む。
P52 8 黒褐色土（10YR3/1）
P8 9 褐灰色土（7.5YR4/1） 黄褐色土ブロック含む。

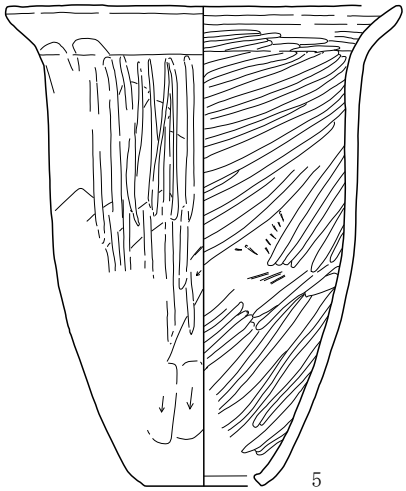
H11 号住居址出土遺物







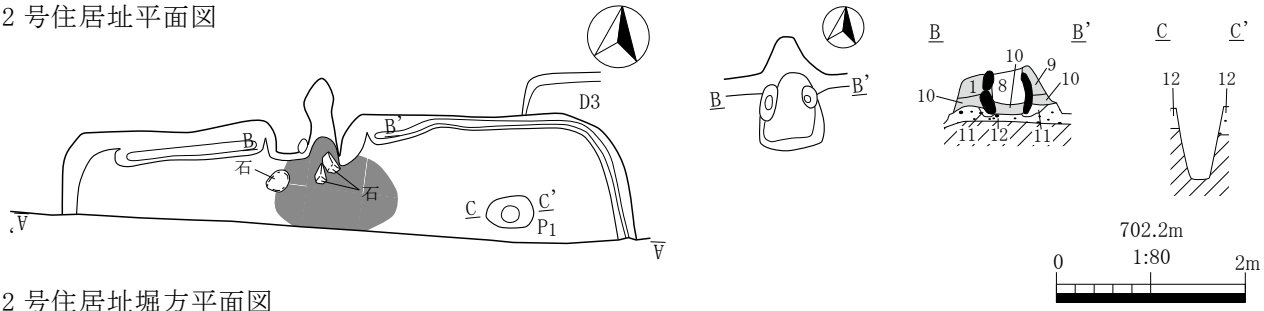




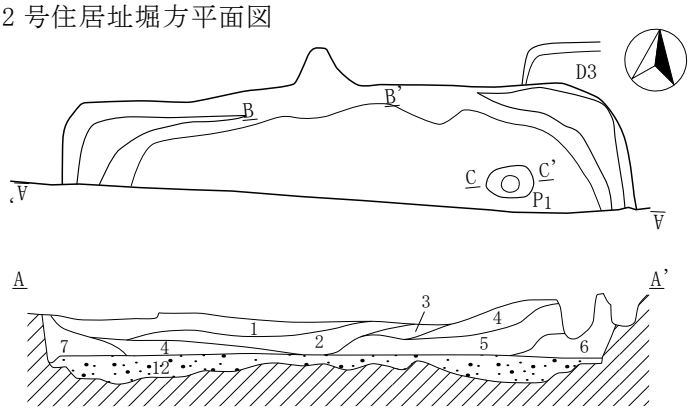
第 20 図　H11 号住居址遺構図・遺物図　H13 号住居址・P5 ～ 8・52 遺構図

H18 号住居址（第 28 図）　Ⅰ 12・Ⅱ 12 グリッドで検出され、H12 号住居址・D2 号土坑より古く、H14 号住居址より新しい。全容は不明だが東西 4.3m、南北 3.4m 以上、検出面から床面までの深さは 0.53m、主軸は N-25°-E を測る。床面は硬質で、2 基のピットが検出され、いずれも主柱穴と考えられる。貼床は 10cm 程度の厚さが確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、石器、鉄製品が出土した。19 は磨製石族、20 は鉄製品で鉄剣だろうか。本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

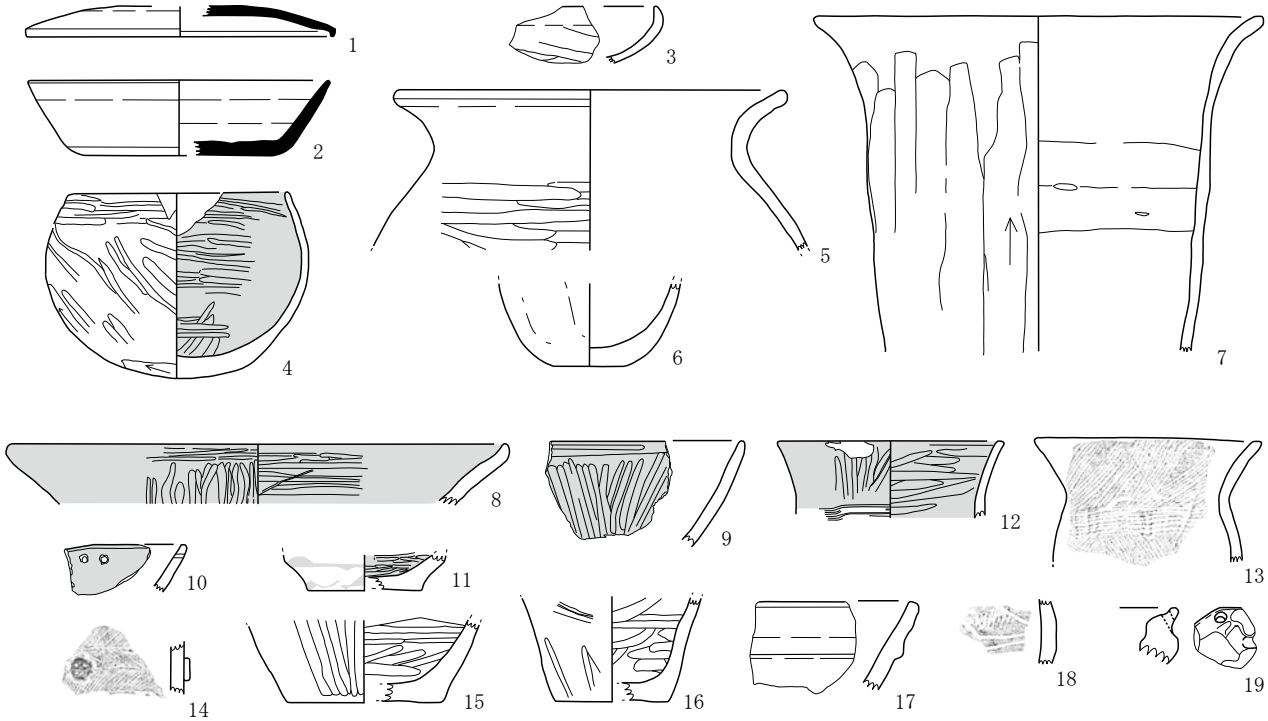
H12 号住居址平面図



H12 号住居址堀方平面図



1　褐灰色土（10YR4/1）　黄褐色土ブロック多量含む。
2　黒褐色土（10YR3/1）　黄褐色土ブロック少量含む。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック多量含む。
5　灰黄褐色土（10YR5/2）　ロームブロック多量含む。
6　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　黒色土ブロック少量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色土ブロック多量含む。
8　褐灰色粘質土（7.5YR4/1）　橙色焼土ブロック含む。
9　灰褐色粘質土（7.5YR5/2）　焼土少量、灰色粘土ブロック含む。
10　褐灰色粘質土（7.5YR4/1）　黄褐色土ブロック含む。
11　褐灰色土（10YR4/1）　しまり強。
12　黒色土（10YR2/1）　しまり強。ロームブロック多量含む。

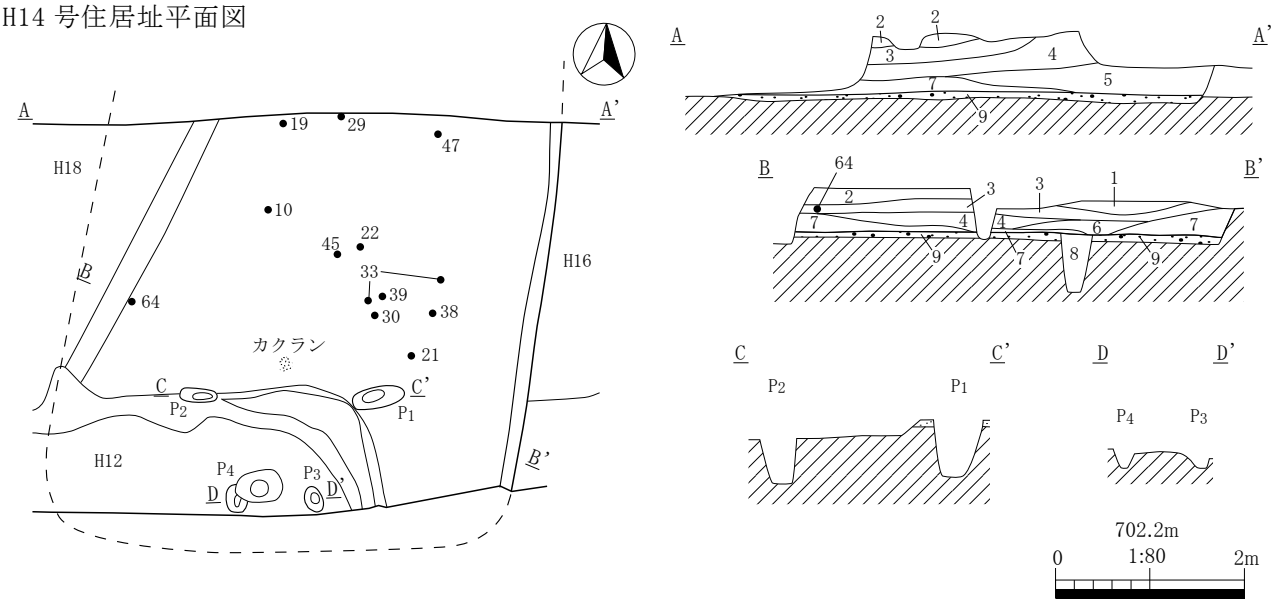


第 21 図　H12 号住居址遺構図・遺物図

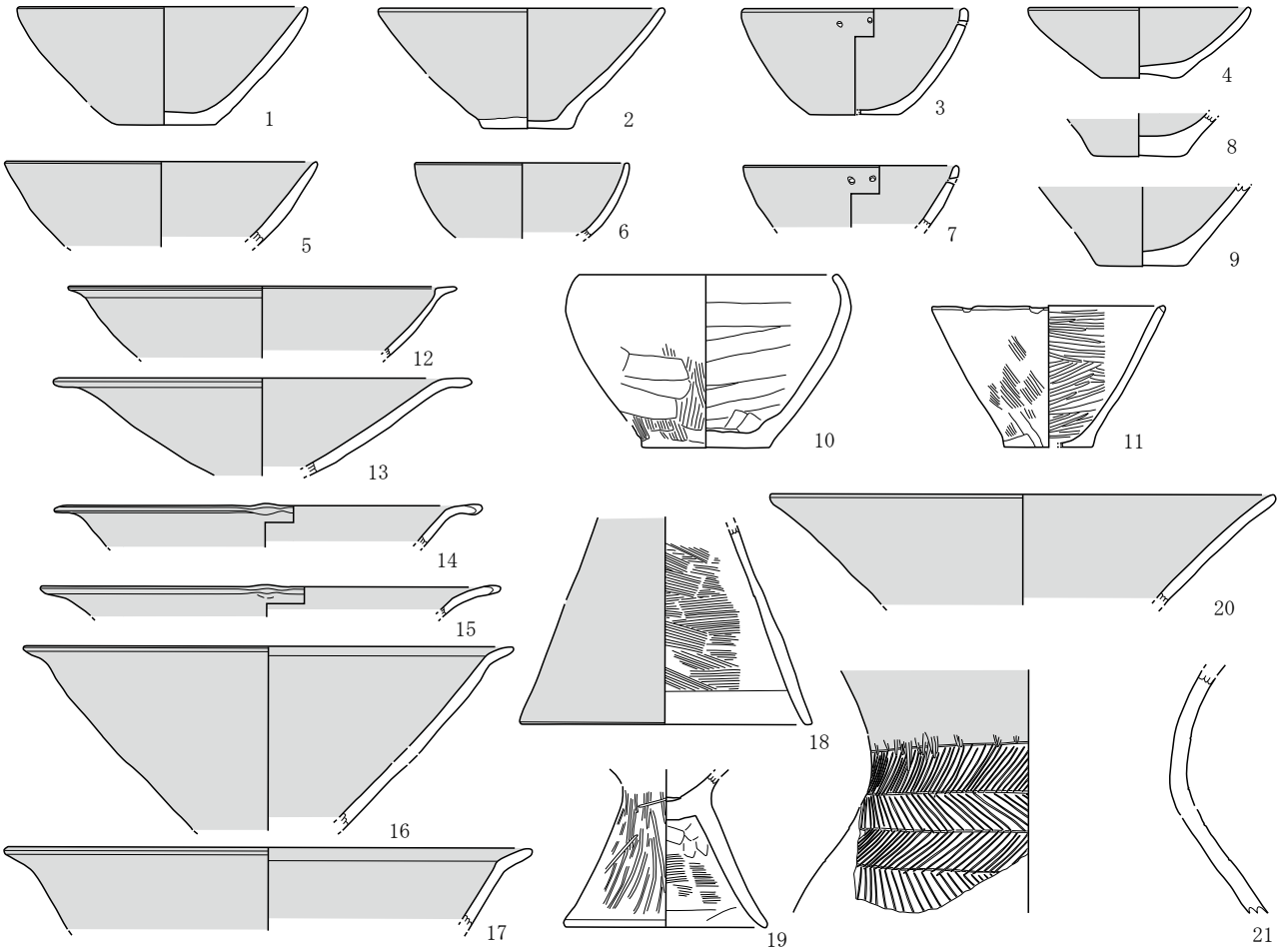
土坑（第 30 図）

D1 号土坑　Ⅲ 1 グリッドで検出され、H4 号住居址より古い。方形ないし長方形の土坑と考えられ、東西 0.54m 以上、南北 1.37m、深さ 0.29m を測る。土器片が出土したが、本址の帰属時期は不明である。

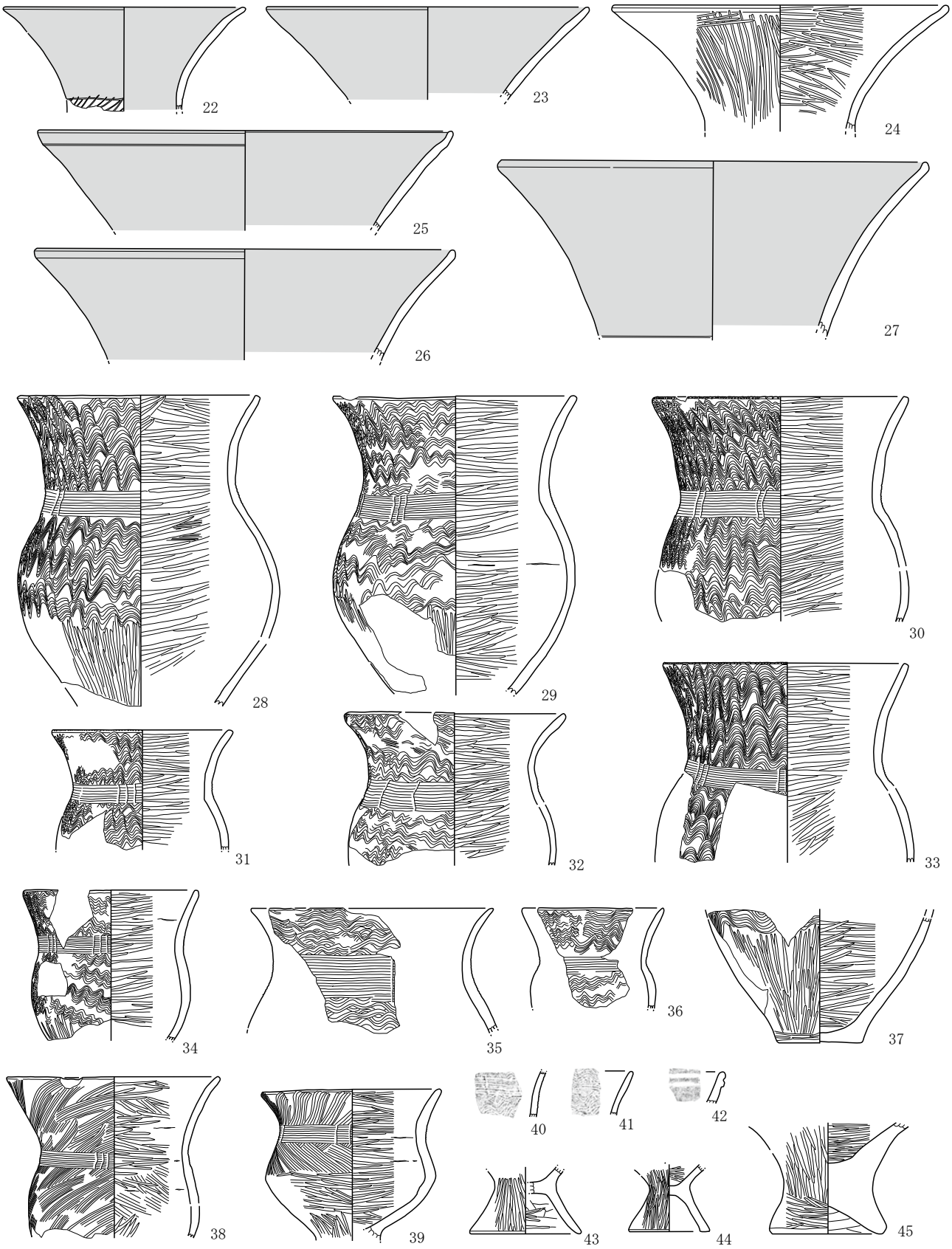
H14 号住居址平面図



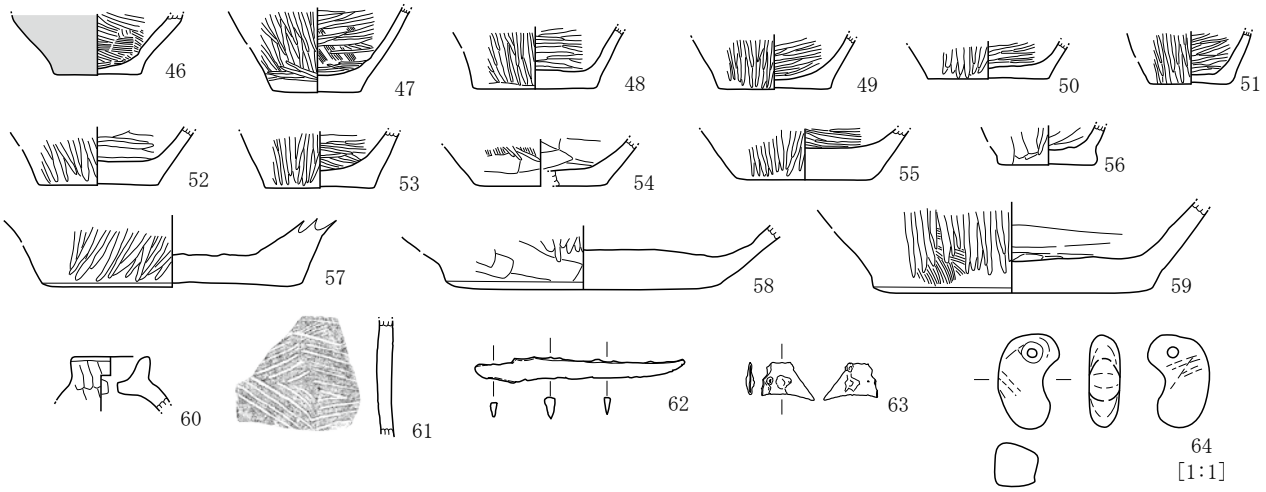
1　にぶい橙色土（10YR7/3）　黒褐色土ブロック多量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　焼土ブロック少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）　炭化物多量含む。遺物多量含む。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック含む。
5　褐灰色土（10YR4/1）　炭化物少量含む。
6　褐灰色土（10YR4/1）　黄褐色土ブロック多量含む。
7　黒褐色土（10YR3/1）　褐色土ブロック少量、炭化物多量含む。
8　黒褐色土（10YR3/1）　しまり弱。
9　灰褐色土（7.5YR5/2）　貼床。しまり強。ロームブロック含む。



第 22 図　H14 号住居址遺構図・遺物図 1

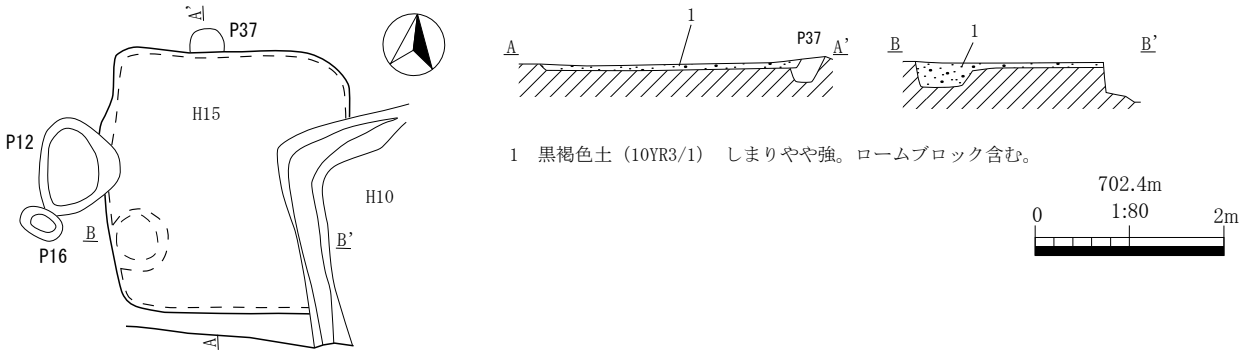


第 23 図　H14 号住居址遺物図 2



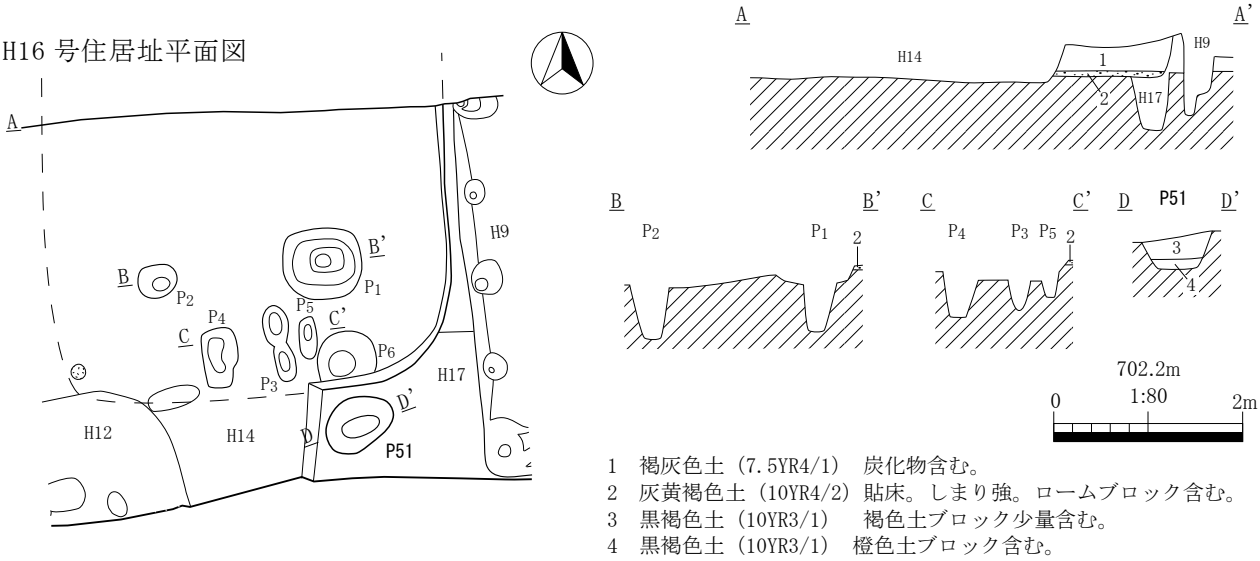
第 24 図　H14 号住居址遺物図 3

H15 号住居址平面図

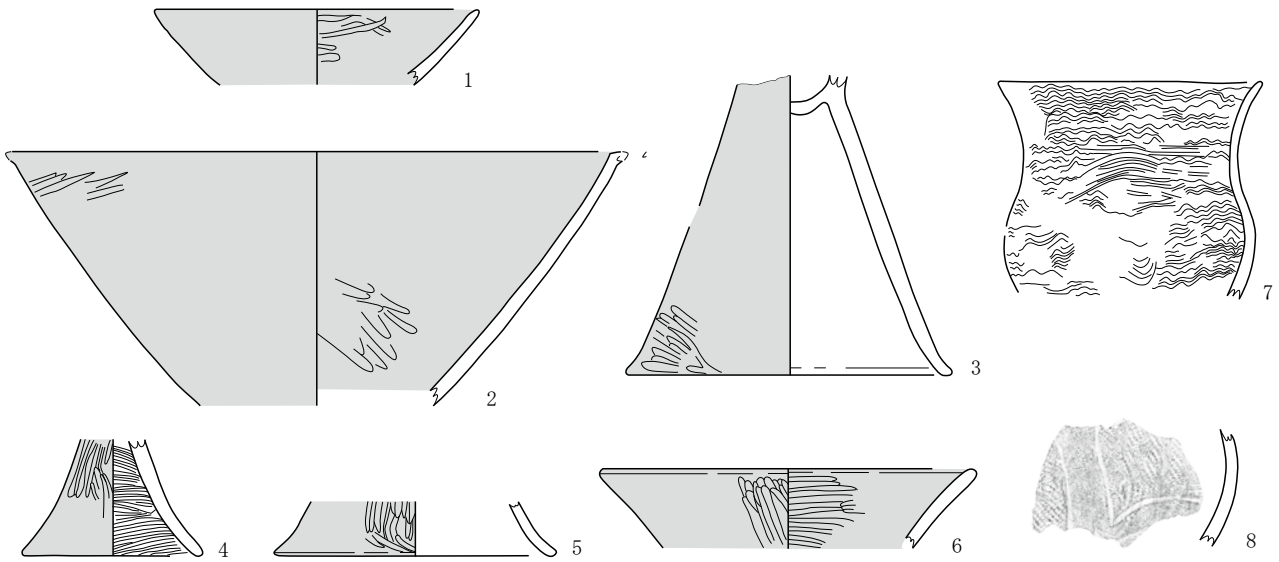


第 25 図　H15 号住居址遺構図

H16 号住居址平面図

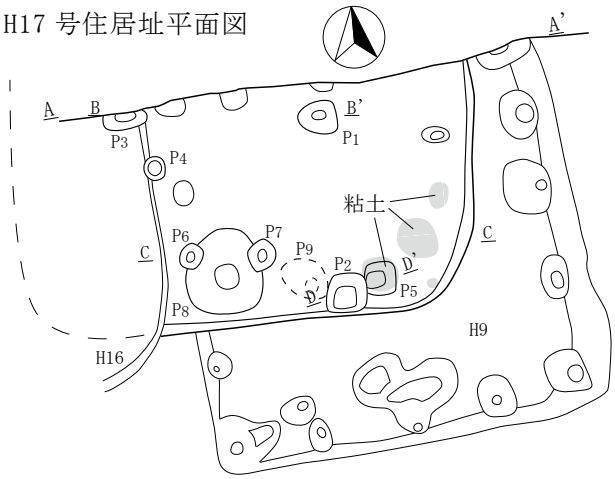


第 26 図　H16 号住居址遺構図

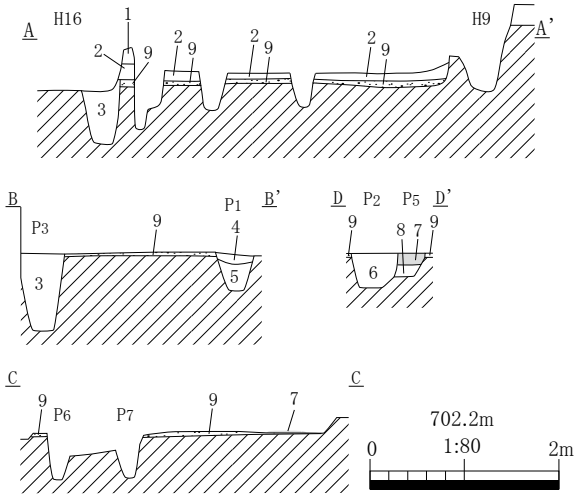


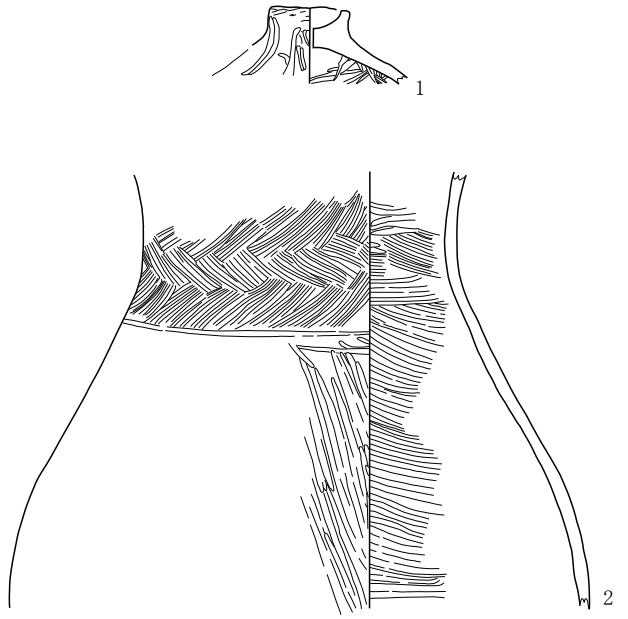
第 27 図　H16 号住居址遺物図

H17 号住居址平面図



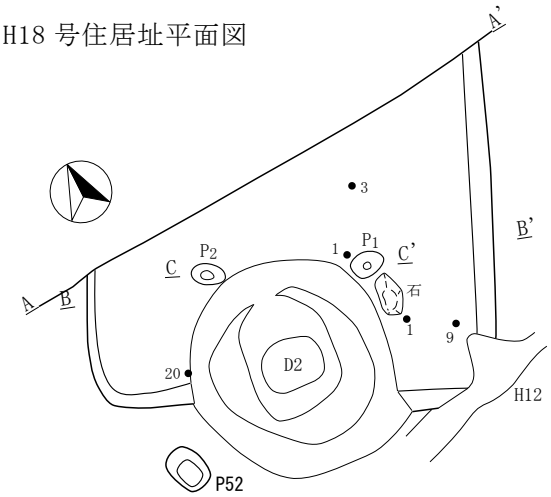
1　褐灰色土（7.5YR4/1）　褐色土ブロック含む。
2　黒褐色土（7.5YR3/1）　ロームブロック含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）　しまり弱。黄褐色土ブロック含む。
4　黒褐色土（10YR3/1）　褐色土ブロック含む。
5　褐灰色土（10YR4/1）　にぶい橙色土ブロック多量含む。
6　灰黄褐色土（10YR4/2）　黄褐色土ブロック含む。
7　灰白色粘土（10YR8/1）
8　黒褐色土（10YR3/1）　黄褐色土ブロック含む。
9　黒褐色土（7.5YR3/1）　貼床。しまり強。ロームブロック多量含む。

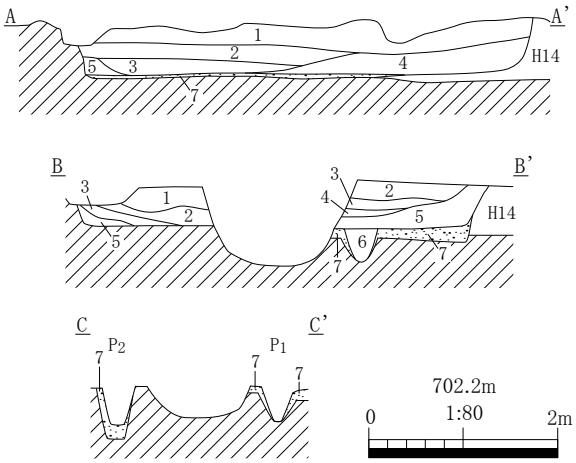




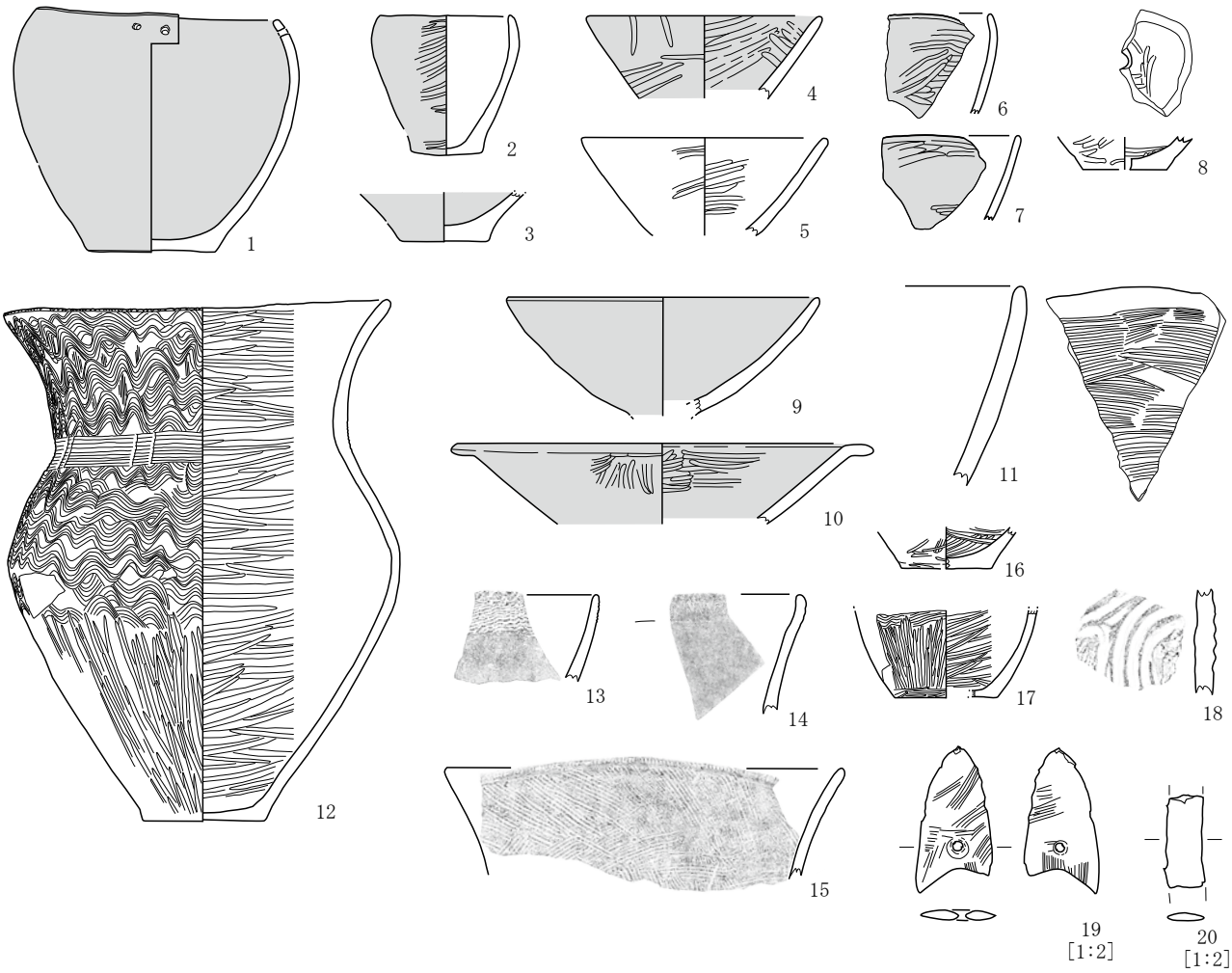
第 28 図　H17 号住居址遺構図・遺物図

H18 号住居址平面図

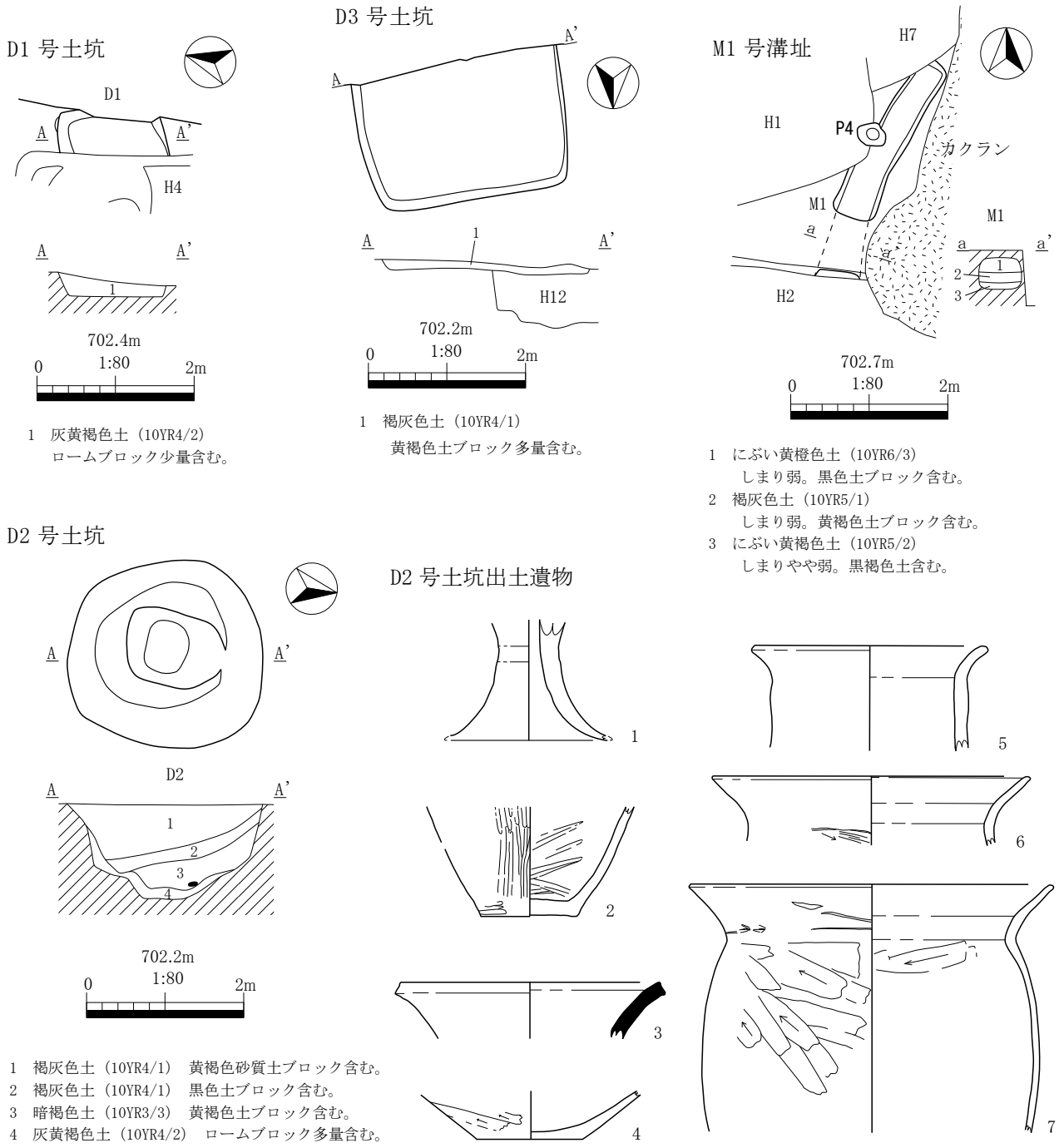




1　にぶい褐色土（7.5YR5/3）　黄褐色土ブロック少量含む。
2　にぶい褐色土（7.5YR5/3）　黄褐色土ブロック多量含む。
3　にぶい褐色土（7.5YR5/3）　黄褐色土ブロク、炭化物少量含む。
4　にぶい褐色土（7.5YR5/3）　炭化物少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）　褐灰色土ブロック含む。
6　褐灰色土（10YR4/1）　しまり弱。
7　灰褐色土（10YR5/2）　貼床。しまり強。ロームブロック含む。



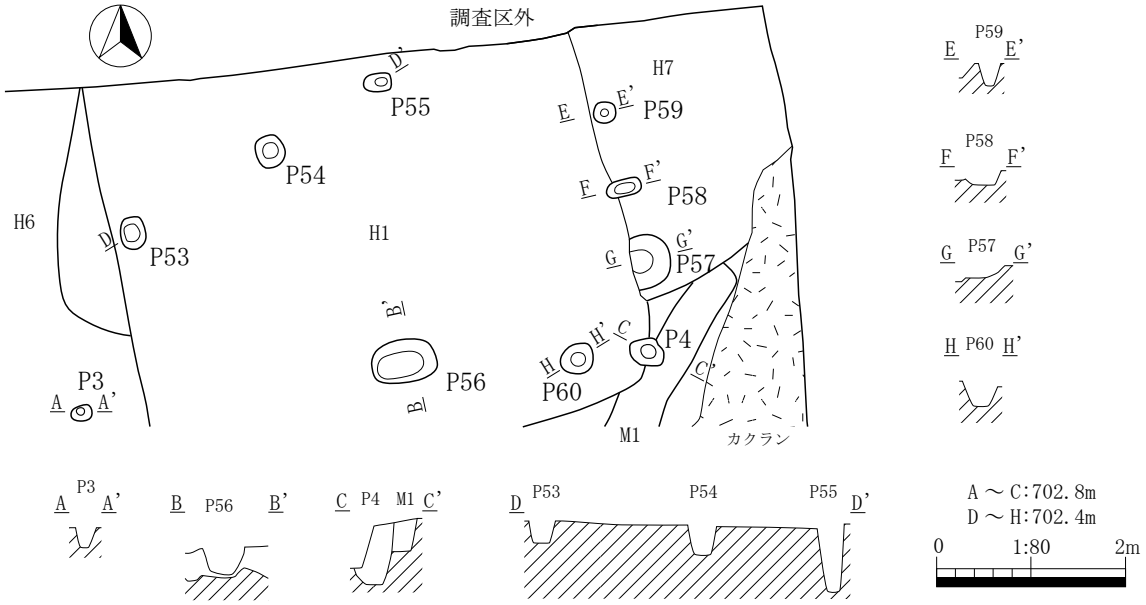
第 29 図　H18 号住居址遺構図・遺物図



第 30 図　土坑・溝址遺構図・遺物図

D2 号土坑　Ⅱ 12 グリッドで検出され、H18 号住居址より新しい。円形で、東西 2.39m 以上、南北 2.40m、深さ 1.20m を測る。ほぼ垂直に掘り込まれ、中央のみ一段低く掘り下げられている。遺物は弥生土器、土師器などが出土しているが、埋土に混入したものと考えられる。本址は奈良時代以降の所産と考えられ、井戸址の可能性もある。

D3 号土坑　Ⅱ 11 グリッドで検出され、H12 号住居址より新しい。検出範囲では方形で、東西 2.65m 以上、南北 1.78m、深さ 0.09m を測る。硬質面や堀方は確認できなかった。遺物は土器片が出土して



第 31 図　ピット遺構図 1

いるが、本址の帰属時期は不明である。

溝址（第 30 図）

M1 号溝址 1 条がⅠ 2・Ⅱ 2 グリットで検出されており、周辺の住居址より古い。H2 号住居址から北方向の地下にトンネル状に延びる溝である。Ⅰ 2 グリッドでは地山ローム層上面が削平されているため溝状に検出され、H7 号住居址南側まで延びる。遺物が出土していないため時期は不明である。

ピット（第 31・32 図）

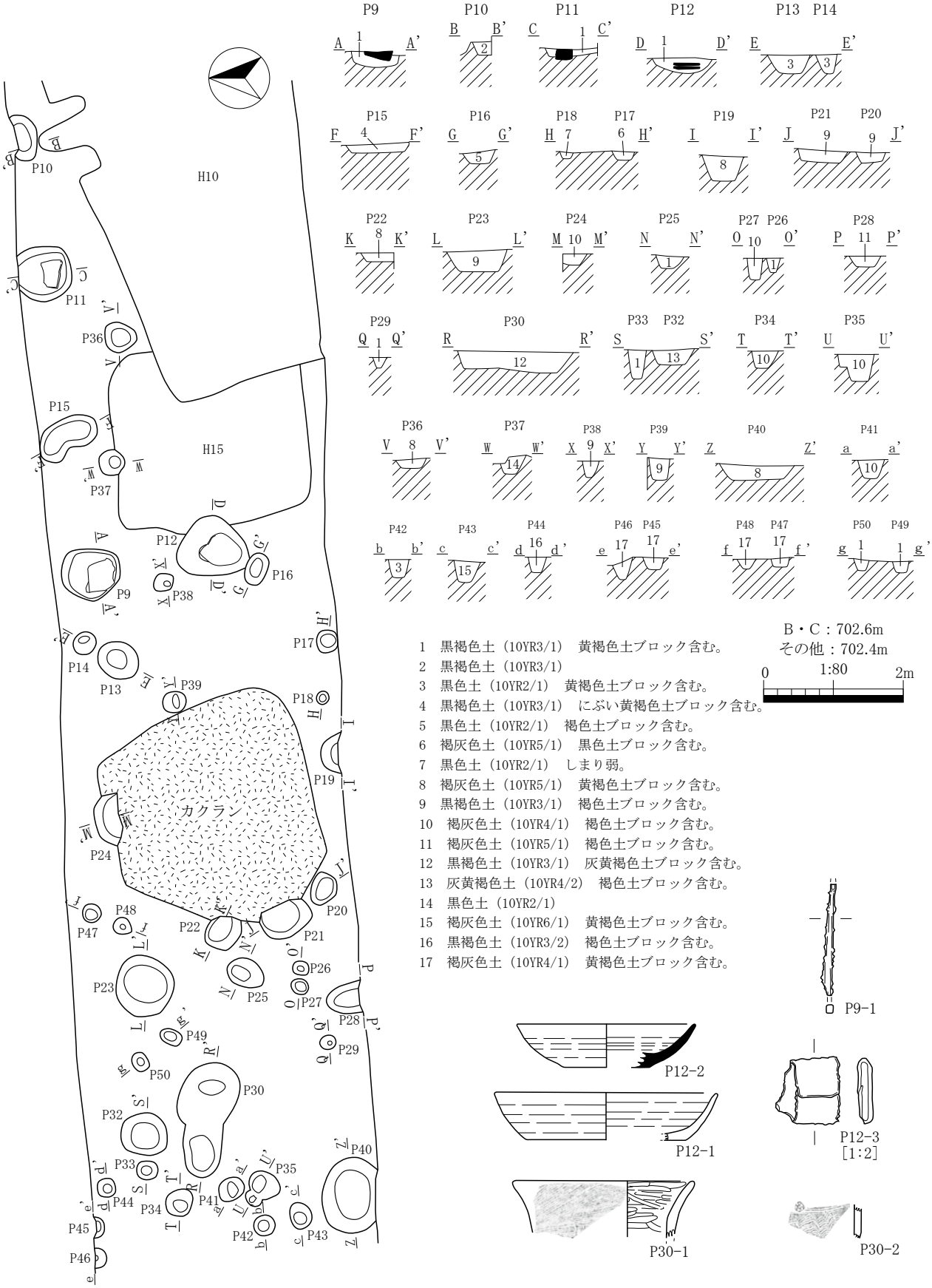
調査区全域で 60 基のピットが検出されているが、Ⅰ 5 ～Ⅱ 9 グリッドに集中する。Ⅰ 5・6 グリッドに位置する P9・11・12 では礎石状の扁平礫が検出されており、P10・15 とともに掘立柱建物址と捉えることもできるだろうか。

ピットからの出土遺物は土器小片がほとんどである。P9 からは鉄釘が出土した。P12 からはからは須恵器と土師器の坏の他、環状の鉄製品が出土した。P30 からは弥生土器が出土している。

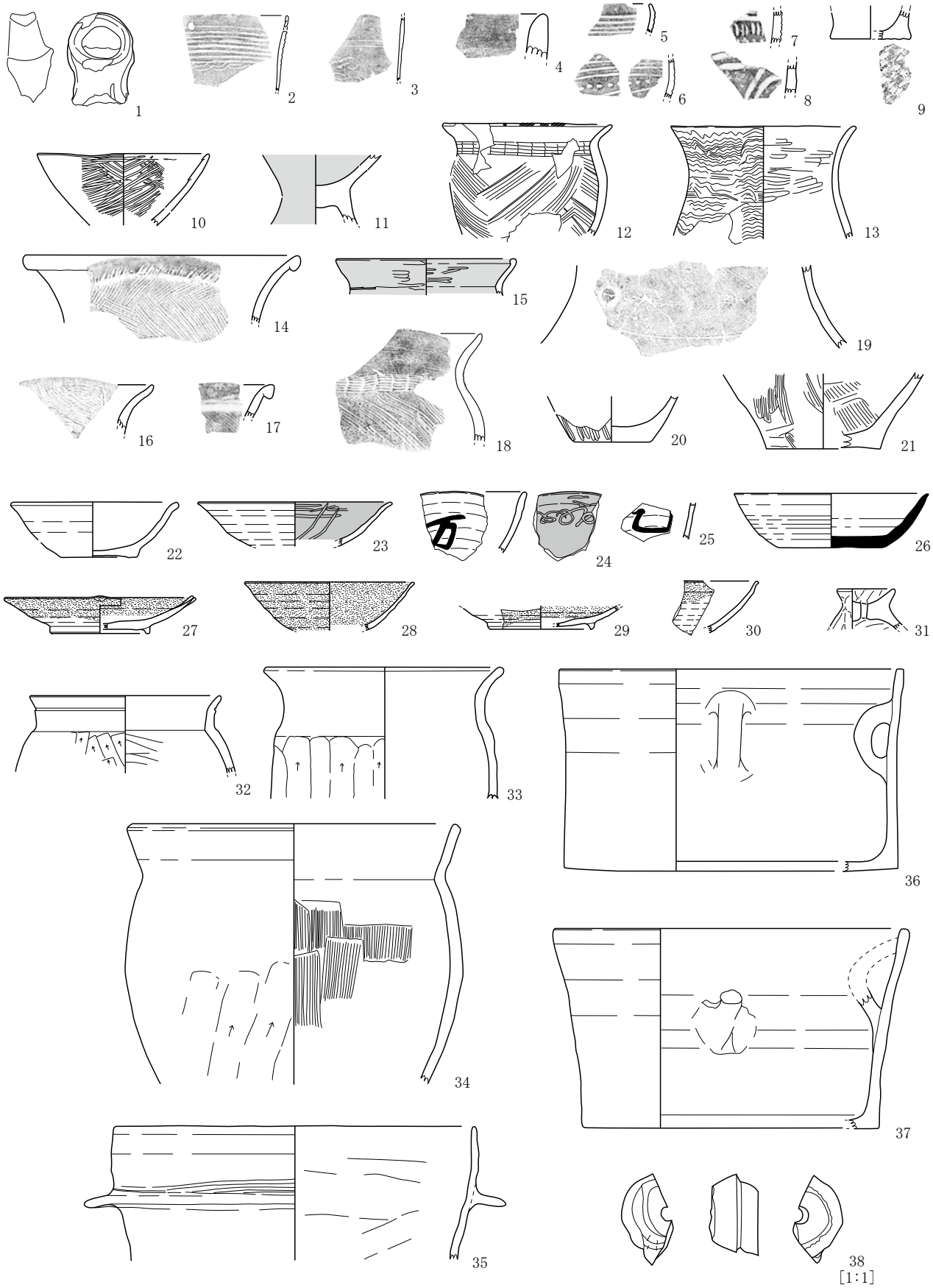
遺構外出土遺物（第 33 図）

試掘調査時、表土掘削及び遺構検出時に遺構外から出土した遺物である。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品が出土した。

1 ～ 9 は縄文土器であり、後期堀之内式期の所産と考えられる。10 ～ 21・31 は弥生土器で、10・11 は高坏、12 ～ 18 は甕である。12 は口唇部に縄文、頸部に櫛描簾状文、体部に櫛描斜走文を施す。19 は壷の頸部で、斜走文と円形浮文が施される。22 ～ 25 は土師器坏で、24・25 は墨書される。26 は須恵器の坏、27 ～ 30 は灰釉陶器である。32 ～ 34 は土師器甕、35 は羽釜、36・37 は内耳の土鍋である。38 は黒曜石製の玉の破片と考えられる。中心に穿孔され、研磨されて円形に成形されている。



第 32 図　ピット遺構図 2・遺物図 1



第 33 図　遺構外出土遺物図

H1	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	土師器	坏	(14.6)	(8.4)	〈5.2〉	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、ヘラケズリ	Ⅰ区
2	土師器	碗	—	—	〈5.7〉	ヘラミガキ	ロクロナデ、高台欠損	
3	須恵器	坏	(14.8)	(9.2)	(3.8)	ロクロナデ、火襷痕	ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ、火襷痕	堀方
4	須恵器	有台坏	(18.6)	(15.0)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、体部下半と底部ヘラケズリ	No4、歪む
5	須恵器	高坏	(16.0)	—	〈2.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
6	須恵器	蓋	(14.2)	—	〈1.7〉	ロクロナデ、火襷痕	ロクロナデ、火襷痕	Ⅱ区
7	灰釉陶器	碗	—	(8.6)	〈2.8〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉、高台貼付	Ⅱ区
8	土師器	甕	(19.6)	—	〈5.3〉	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
9	土師器	甕	—	—	〈3.0〉	ナデ、炭化物付着	ナデ	Ⅱ区、内面に炭化物
10	須恵器	甕	—	—	〈2.4〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区堀方
11	須恵器	甕	—	—	〈3.1〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
12	土師器	壷	(15.6)	—	〈9.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区、Ⅱ区堀方
13	須恵器	壷	—	(11.0)	〈4.3〉	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、底部ヘラケズリ、高台貼付、自然釉	No2
14	須恵器	甕	—	(20.0)	〈9.6〉	ヘラナデ	タタキ、ヘラケズリ	No3
15	弥生土器	甕	(19.4)	—	〈13.2〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅱ区堀方
16	弥生土器	甕	(17.6)	—	〈12.4〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅱ区堀方
17	弥生土器	甕	—	—	〈3.9〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	Ⅱ区
18	弥生土器	甕	—	—	〈2.0〉	ハケメ	刺突文	Ⅱ区
19	弥生土器	甕	—	3.2	〈1.5〉	ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ区
20	弥生土器	甑	(14.8)	—	〈5.9〉	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区堀方
21	弥生土器	甑	(17.0)	—	〈5.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区堀方
22	弥生土器	甑	—	4.9	〈5.4〉	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	P4、Ⅰ区堀方
23	縄文土器	深鉢	—	—	〈5.0〉	ミガキ		
24	縄文土器	深鉢か	—	—	〈3.6〉	ミガキ	沈線、縄文LR	Ⅱ区堀方
25	縄文土器	深鉢か	—	—	〈2.0〉		縄文RL	Ⅱ区
26	縄文土器	深鉢か	—	—	〈3.2〉		沈線	Ⅱ区
27	縄文土器	深鉢か	—	—	〈3.2〉		沈線、縄文	Ⅱ区堀方
28	鉄製品	不明	〈3.4〉	〈2.0〉	〈0.2〉	重量3.7g　板状鉄製品		
29	鉄製品	刀子	〈12.4〉	1.7	0.5	重量11.1g　先端欠損		Ⅰ区
30	石器	敲石	5.9	2.3	1.4	重量21.4ｇ　両端に敲打痕		Ⅱ区
31	石器	敲石	10.0	6.1	2.9	重量254.5ｇ　縁辺部に敲打痕		P5
32	石器	凹石	11.1	8.1	4.8	重量183.9ｇ　中央に凹み		Ⅰ区

H2	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(16.8)	(3.4)	6.0	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	No14、Ⅳ区
2	弥生土器	鉢	(18.4)	—	〈5.6〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
3	弥生土器	鉢	—	—	〈6.3〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
4	弥生土器	鉢	—	5.0	〈1.7〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅲ区
5	弥生土器	鉢か	—	—	〈3.0〉	ナデ		Ⅳ区、外面剥離
6	弥生土器	高坏	(25.6)	—	〈4.4〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅱ区
7	弥生土器	高坏	—	—	〈3.9〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
8	弥生土器	高坏	—	—	〈3.8〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、突起	Ⅳ区
9	弥生土器	高坏	—	—	〈1.3〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、突起	検出
10	弥生土器	高坏	—	(10.9)	〈8.3〉	ヘラミガキ、ハケメ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅲ区
11	弥生土器	蓋	(20.0)	6.8	9.4	ナデ、ヘラミガキ、炭化物	ハケ、ヘラミガキ	No2 Ⅱ区、内面炭化物
12	弥生土器	壷	(15.6)	—	〈5.1〉	ハケメ	ナデ	P1、Ⅰ区
13	弥生土器	壷	—	12.0	〈5.8〉	ナデ	ヘラミガキ	P1
14	弥生土器	壷	—	—	〈13.9〉	ヘラミガキ、赤彩	櫛描T字文、ヘラミガキ、赤彩	No16
15	弥生土器	壷	—	—	〈18.2〉	ヘラミガキ、赤彩	櫛描T字文、ヘラミガキ、赤彩	No10
16	弥生土器	壷	—	(10.2)	〈21.6〉	剥離により不明	ヘラミガキ、赤彩	No3、Ⅰ区
17	弥生土器	壷	—	7.4	〈4.4〉	ハケメ	ヘラミガキ、赤彩	No17
18	弥生土器	甕	21.5	—	〈25.4〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、ヘラミガキ	No8・10・11・12、P4
19	弥生土器	甕	20.8	7.8	24.5	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	No9、P2、P4、Ⅰ～Ⅳ区

第１表　遺物観察表１

20	弥生土器	甕	(11.6)	—	〈5.6〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区
21	弥生土器	甕	(13.8)	—	〈5.9〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ区
22	弥生土器	甕	11.3	4.4	12.2	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文、ヘラミガキ	No1
23	弥生土器	甕	—	—	〈7.3〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	検出
24	弥生土器	甕	—	—	〈3.8〉	ヘラミガキ	口縁部櫛描波状文、体部櫛描斜走文	検出
25	弥生土器	甕	—	—	〈2.8〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	検出
26	弥生土器	甕	(12.6)	—	〈5.3〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	検出
27	弥生土器	甕	(21.0)	—	〈9.5〉	ナデ、ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文、櫛描波状文	Ⅲ区
28	弥生土器	甕	27.5	11.6	45.0	ヘラミガキ	櫛描斜走文	No3・4・6・7・14、P1
29	弥生土器	甕	—	9.4	〈2.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底部葉脈痕	検出
30	弥生土器	甕	—	5.2	〈3.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	Ⅲ区
31	縄文土器	深鉢か	—	—	〈3.3〉	ミガキ	沈線	Ⅱ区
32	縄文土器	深鉢か	—	—	〈1.9〉		沈線	Ⅰ区
33	縄文土器	深鉢か	—	—	〈1.9〉		沈線、刺突文	検出
34	縄文土器	深鉢か	—	—	〈2.2〉		沈線、刺突文	検出
35	土製品	紡錘車	6.0	〈4.0〉	1.1	重量28.8g　表裏面ミガキ		Ⅰ区
36	土製品	紡錘車	4.3	〈4.0〉	1.1	重量20.8g　表裏面ナデ		Ⅱ区
37	土製品	紡錘車	〈3.3〉	〈1.9〉	〈0.6〉	重量4.5g　表裏面ミガキ		Ⅰ区
38	鉄製品	刀子か	〈4.6〉	〈2.1〉	〈0.4〉	重量6.5g　基部側欠損		Ⅰ区
39	石器	磨石	4.8	2.5	1.5	重量26.7g　端部に敲打痕		P5
40	石器	磨石	8.5	6.3	2.9	重量237.0g　縁辺部に敲打痕		No13
41	石器	磨石	〈10.6〉	〈7.9〉	〈4.0〉	重量438.5g　縁辺部に敲打痕		検出
H3	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	—	4.4	〈2.9〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
2	弥生土器	高坏	—	—	〈4.1〉	赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
3	弥生土器	高坏	—	—	〈6.7〉	ナデ	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
4	弥生土器	甑	—	(4.9)	〈2.5〉	ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ区
5	弥生土器	壷	—	—	〈12.9〉	ナデ	ヘラケズリ、赤彩	検出
6	弥生土器	壷	(23.1)	—	〈9.9〉	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
7	弥生土器	壷	—	—	〈10.3〉	ヘラミガキ	ハケ、ヘラミガキ、櫛描簾状文	検出、穿孔あり
8	弥生土器	壷	—	—	〈9.9〉	ナデ	櫛描斜走文、円形浮文、赤彩	Ⅰ区
9	弥生土器	壷	—	—	〈16.5〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
10	弥生土器	甕	—	7.3	〈8.4〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	No1
11	弥生土器	甕	(20.6)	—	〈6.3〉	ナデ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅱ区
12	弥生土器	甕	(15.4)	—	〈4.7〉	ナデ	櫛描波状文、櫛描簾状文	検出
13	弥生土器	甕	(28.1)	8.0	28.5	ナデ、ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	No2
14	弥生土器	甕	(12.7)	—	〈3.2〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ区
15	弥生土器	甕	(15.0)	—	〈2.4〉	ナデ	櫛描波状文	Ⅰ・Ⅱ区
16	弥生土器	甕	(13.0)	—	〈5.1〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	Ⅰ区
17	弥生土器	甕	(17.2)	—	〈6.0〉	ナデ、ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	検出
18	鉄製品	鉄族	5.6	〈2.4〉	0.4	重量5.2g　片側欠損か		Ⅰ区
H4	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	蓋	—	—	〈1.9〉	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	No2
2	土師器	碗	—	(8.0)	〈1.7〉	ミガキ、黒色処理	ナデ、底部ヘラ切、高台貼付	Ⅳ区堀方
3	土師器	坏	(12.8)	(5.2)	2.5	ナデ、黒色処理	ナデ、黒色処理	Ⅱ区堀方
4	土師器	碗	(14.0)	(9.4)	5.0	ミガキ、黒色処理	ナデ、ミガキ	Ⅱ区
5	土師器	碗	(18.0)	—	〈5.6〉	ミガキ、黒色処理	ミガキ	Ⅳ区
6	土師器	坏	—	—	〈3.0〉	ミガキ、黒色処理	ミガキ	Ⅳ区
7	土師器	坏	—	—	〈3.2〉	ナデ、暗文	ミガキ	Ⅱ区
8	土師器	坏	—	—	〈3.2〉	ナデ、暗文	ミガキ	Ⅰ区
9	須恵器	蓋	(13.6)	—	〈2.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	Ⅱ区
10	須恵器	蓋	(13.2)	—	〈2.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	Ⅰ区堀方
11	須恵器	蓋	3.4	—	〈1.3〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
12	須恵器	蓋	—	—	〈2.0〉	ロクロナデ	ロクロナデ	P1
13	須恵器	蓋	(18.0)	—	〈1.7〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
14	須恵器	蓋	(22.2)	—	〈1.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
15	須恵器	坏	11.2	5.4	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅰ区、Ⅱ区堀方

第2表　遺物観察表2

16	須恵器	坏	(13.6)	(10.6)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ、自然釉	Ⅰ・Ⅱ区、Ⅲ区堀方
17	須恵器	坏	(14.6)	(7.4)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	Ⅳ区
18	須恵器	坏	(14.8)	(8.2)	3.4	ロクロナデ、火襷痕	ロクロナデ、底部ヘラ切	Ⅳ区
19	須恵器	坏	(13.2)	(8.2)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	Ⅱ区
20	須恵器	坏	(12.8)	(8.0)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	Ⅲ区
21	須恵器	坏	(14.2)	(11.2)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	検出
22	須恵器	有台坏	(15.6)	(10.6)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ、高台貼付	Ⅲ区
23	須恵器	有台坏	(12.0)	(7.2)	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ、高台貼付	Ⅲ区堀方
24	須恵器	有台坏	16.8	10.8	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ、高台貼付	No3、Ⅱ区堀方
25	須恵器	坏	—	—	〈3.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
26	灰釉陶器	碗	—	—	〈1.9〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	検出
27	土師器	甕	(21.4)	—	〈5.9〉	ナデ	ナデ、ケズリ	Ⅱ区堀方
28	土師器	甕	(13.0)	—	〈4.2〉	ナデ	ナデ、ケズリ	Ⅳ区
29	土師器	甕	—	12.2	〈2.3〉	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	Ⅲ区
30	土師器	壷	(32.2)	—	〈6.1〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
31	土師器	甕	—	—	〈5.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
32	須恵器	甕	—	—	〈3.1〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区堀方
33	須恵器	甕	—	—	〈2.5〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区堀方
34	須恵器	甕	—	—	〈3.0〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
35	須恵器	甕	—	—	〈3.1〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出、焼成不良
36	須恵器	甕	(36.4)	—	〈4.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
37	須恵器	甕	(17.6)	—	〈2.6〉	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、自然釉	Ⅱ区堀方
38	須恵器	壷	—	(11.0)	〈10.7〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ・Ⅲ区
39	弥生土器	甕	—	—	〈2.5〉	ナデ	櫛描文、円形浮文	Ⅲ区
40	縄文土器	深鉢か	—	—	〈1.9〉	ナデ	沈線文	Ⅱ区
41	石器	石鏃	〈1.05〉	〈1.65〉	〈0.22〉	重量0.47g　黒曜石		Ⅰ区
42	鉄製品	刀子	14.1	1.4	0.7	重量18.7g　基部に木質残存		No1
43	鉄製品	鉄鏃	13.3	2.7	0.5	重量15.2g		Ⅲ区
44	鉄製品	釘	〈7.7〉	0.7	0.4	重量5.4g　先端・基部欠損		堀方
45	鉄製品	鉄鏃	〈3.8〉	〈1.0〉	〈0.4〉	重量1.8g　下部欠損		Ⅱ区
46	鉄製品	鉄鏃か	〈4.0〉	〈0.7〉	〈0.3〉	重量1.9g　基部側欠損		堀方
47	鉄製品	不明	3.1	2.7	2.0	重量46.3g　鉄塊		Ⅳ区
48	銅製品	指輪か	2.0	〈0.6〉	0.1	重量1.17g　半分欠損		Ⅱ区
H5	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	甕	—	—	〈2.3〉	ロクロナデ	ロクロナデ	
H6	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	甕	—	—	〈4.9〉	ヘラミガキ、赤彩	櫛描波状文	H6炉
H8	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	13.3	5.6	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	No2
2	土師器	坏	12.0	6.0	3.2	ミガキ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	検出
3	土師器	坏	(13.0)	4.3	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	検出
4	土師器	坏	(13.0)	—	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
5	土師器	坏	12.9	5.5	3.8	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、底部ヘラ切	堀方
6	土師器	坏	(13.2)	—	〈3.9〉	ロクロナデ	ロクロナデ	カマド
7	土師器	坏	(13.6)	—	3.8	ロクロナデ、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
8	土師器	坏	(13.4)	(5.6)	3.6	ロクロナデ、暗文	ロクロナデ	検出
9	土師器	坏	(12.4)	6.5	4.1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、底部回転糸切	
10	土師器	坏	(12.4)	5.7	4.0	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
11	土師器	坏	13.1	5.8	4.0	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
12	土師器	坏	12.6	6.5	3.8	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
13	土師器	坏	12.9	6.7	3.6	ロクロナデ、黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切	検出
14	土師器	坏	(12.6)	—	〈3.1〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	検出
15	土師器	坏	—	4.4	〈2.8〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	カマド
16	土師器	碗	(15.2)	8.1	5.2	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ	カマド

第3表　遺物観察表3

17	土師器	坏	—	—	〈3.1〉	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書	
18	土師器	坏	—	—	〈1.7〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	検出
19	土師器	坏	—	—	〈0.9〉	ナデ	ナデ、墨書	カマド
20	土師器	坏	—	—	〈1.4〉	ナデ	ナデ、墨書	カマド
21	土師器	坏	—	—	〈2.5〉	ロクロナデ、黒色処理	墨書か	カマド
22	灰釉陶器	碗	—	—	〈5.2〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	
23	灰釉陶器	輪花皿	(15.3)	6.7	3.2	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉、高台貼付	段皿、カマド
24	灰釉陶器	輪花皿	(15.2)	—	〈2.5〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	段皿、検出
25	灰釉陶器	碗	(16.6)	—	〈3.8〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	カマド
26	灰釉陶器	皿	—	6.7	〈1.6〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉、高台貼付	検出
27	緑釉陶器	皿	(12.2)	—	〈1.7〉	緑釉、花文	緑釉	
28	緑釉陶器	輪花皿	(11.3)	(5.8)	3.5	緑釉、花文	緑釉	
29	緑釉陶器	耳皿	—	—	〈0.9〉	緑釉	緑釉	検出
30	土師器	片口鉢	(17.4)	—	〈8.5〉	ナデ、ミガキ	ナデ、ケズリ、ミガキ	カマド、堀方
31	土師器	甕	—	—	〈8.8〉	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	カマド
32	土師器	甕	(23.7)	—	〈8.0〉	ハケメ	ナデ	
33	土師器	鉢か	—	(9.4)	〈3.2〉	ミガキ	ケズリ	カマド
34	土師器	甑	—	—	〈9.1〉	ナデ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	堀方
35	須恵器	壷	—	8.2	〈1.8〉	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、高台貼付	堀方
36	須恵器	甕	(44.0)	—	〈11.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
37	弥生土器	壷	—	—	〈9.1〉	ナデ	縄文RL、横位沈線	検出
38	石器	敲石か	5.9	3.5	1.5	重量43.0g　縁辺部に剥離痕		堀方
39	石器	砥石	〈10.2〉	〈6.0〉	〈2.7〉	重量167.2g　表面・右側面に擦痕		
40	鉄製品		15.2	3.9	1.1	重量48.4g		No1
41	銅製品	銅釧	〈1.2〉	1.0	0.2	重量1.46g　破片		検出
H9	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	土師器	坏	(12.0)	—	〈2.9〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
2	土師器	坏	(11.0)	—	〈3.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
3	土師器	坏	(12.3)	—	〈2.9〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
4	土師器	坏	(13.0)	—	〈2.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
5	土師器	坏	(12.1)	—	〈2.8〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
6	土師器	皿	(8.7)	(6.8)	〈1.7〉	ナデ	ナデ、底部ヘラケズリ	Ⅰ区
7	土師器	坏	—	5.2	〈2.5〉	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅲ区
8	土師器	坏	—	(5.2)	〈1.7〉	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅰ区
9	土師器	坏	(11.8)	—	〈2.3〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ	Ⅱ・Ⅳ区
10	土師器	坏	(11.8)	—	〈2.6〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	Ⅰ区
11	土師器	坏	(12.0)	—	〈3.4〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ	Ⅰ区
12	土師器	坏	—	—	〈1.6〉	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	検出
13	土師器	坏	—	—	〈4.9〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ	Ⅳ区
14	土師器	碗	—	(5.4)	〈2.7〉	ミガキ、黒色処理	ナデ、底部回転糸切	Ⅰ区
15	土師器	碗	—	(6.9)	〈2.0〉	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切、高台貼付	Ⅳ区
16	土師器	碗	—	—	〈2.0〉	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書	Ⅲ区
17	灰釉陶器	碗	(11.0)	—	〈2.3〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	検出
18	灰釉陶器	碗	(14.8)	—	〈2.3〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	Ⅰ区
19	灰釉陶器	皿	(13.6)	—	〈1.9〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	Ⅲ区
20	灰釉陶器	皿	(13.2)	—	〈1.7〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	Ⅰ区
21	灰釉陶器	碗	—	(7.0)	〈3.0〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉、高台貼付	検出
22	灰釉陶器	碗	(9.5)	—	〈1.7〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、高台貼付	検出
23	須恵器	壷か	(20.8)	—	〈1.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
24	須恵器	甕	(16.0)	—	〈1.7〉	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ	検出
25	土師器	羽釜	(28.7)	—	〈4.8〉	ナデ	ナデ	検出
26	弥生土器	壷	(27.0)	—	〈5.1〉	ミガキ	ハケ、ヘラミガキ、口縁部櫛描波状文	Ⅱ区、P12
27	弥生土器	高坏	—	(11.0)	〈9.7〉	ハケメ、ナデ	ミガキ、赤彩	堀方
28	弥生土器	甕	(21.0)	—	〈7.4〉	ミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	堀方
29	縄文土器	深鉢	—	—	〈4.5〉	ナデ	縄文LR、縦隆帯	Ⅳ区
30	縄文土器	深鉢	—	—	〈3.3〉	ナデ	沈線文、縄文LR	検出
31	鉄製品	角釘	〈4.8〉	〈0.8〉	〈0.4〉	重量6.4g　先端側欠損		Ⅱ区
32	鉄製品	角釘	〈6.1〉	〈0.7〉	〈0.4〉	重量5.2g　先端側欠損		Ⅱ区
33	鉄製品	角釘	9.8	0.7	0.5	重量10.3g		堀方
34	鉄製品	角釘	〈9.4〉	0.7	0.5	重量13.5g　先端欠損		Ⅱ区

第4表　遺物観察表4

H10	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚・径）	内面	外面	
1	土師器	坏	(15.4)	7.0	4.0	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
2	土師器	坏	11.4	2.9	4.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No2
3	土師器	坏	15.0	10.6	5.1	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ナデ	No3
4	土師器	坏	15.3	10.2	5.3	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ナデ	No1
5	土師器	坏	(14.1)	12.8	4.6	ナデ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	Ⅰ区
6	土師器	坏	(14.4)	(12.7)	〈4.7〉	ナデ	ケズリ、ナデ	Ⅰ区
7	土師器	坏	14.6	9.9	5.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No8
8	土師器	坏	14.4	10.4	5.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No4
9	土師器	鉢	(13.0)	—	〈5.5〉	ナデ、黒色処理	ナデ	Ⅰ区
10	須恵器	蓋	(14.0)	—	〈2.4〉	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
11	土師器	壷	9.2	2.4	12.2	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	No15
12	土師器	壷	(26.8)	—	〈12.4〉	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
13	土師器	壷	—	8.0	〈8.7〉	ミガキ	ミガキ	カマド
14	土師器	甕	21.4	5.2	37.5	ナデ	ナデ、ケズリ	No10・16・17、カマド
15	土師器	甕	—	8.8	〈28.8〉	ハケ	ナデ、ケズリ	No9、Ⅰ区
16	土師器	甕	—	5.6	〈13.5〉	ナデ、ハケメ	ミガキ	No5、Ⅰ区
17	土師器	甑	—	(5.8)	〈6.0〉	ミガキ、多孔	ケズリ、ミガキ	Ⅰ区
18	土師器	甑	(20.6)	7.1	25.2	ナデ	ケズリ	No13、Ⅰ区
19	石製品	臼玉	0.660	—	0.885	重量0.94 g		Ⅰ区
20	石製品	臼玉	0.455	—	0.765	重量0.65 g		Ⅰ区
21	石製品	臼玉	0.350	—	0.885	重量0.44 g		Ⅰ区
22	石製品	臼玉	0.700	—	0.910	重量0.98 g		Ⅰ区
23	石製品	臼玉	0.665	—	1.110	重量0.86 g		Ⅱ区
24	石製品	臼玉	0.770	—	0.900	重量0.87 g		Ⅰ区
25	石製品	臼玉	0.985	—	0.920	重量1.18 g		Ⅰ区
26	石製品	臼玉	0.945	—	0.915	重量1.31 g		Ⅰ区
27	石製品	臼玉	0.645	—	0.990	重量0.79 g		Ⅰ区
28	石製品	臼玉	0.945	—	0.915	重量1.36 g		Ⅰ区
29	石製品	臼玉	0.770	—	0.920	重量0.98 g		Ⅰ区
30	石製品	臼玉	0.725	—	0.995	重量0.95 g		Ⅰ区
31	土製品	管玉	2.245	—	0.520	重量0.55 g		Ⅱ区
32	弥生土器	鉢	(13.3)	3.9	5.9	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
33	弥生土器	鉢	(9.4)	3.2	4.1	ミガキ、指紋残る	ミガキ	検出
34	弥生土器	高坏	—	(6.6)	〈5.5〉	赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
35	弥生土器	高坏	—	—	〈3.7〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
36	弥生土器	甕	(12.4)	—	〈5.2〉	ミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	堀方
37	弥生土器	蓋	5.3	—	〈4.6〉	ナデ	ミガキ	検出
38	弥生土器	蓋	(7.0)	—	〈4.2〉	ナデ	ハケ、ナデ	堀方
39	弥生土器	甑	(13.9)	5.4	10.5	ナデ、単孔	ナデ、ハケ状工具痕	Ⅰ区
40	縄文土器	深鉢	—	—	〈2.8〉	ナデ	沈線、刻み	Ⅱ区
41	縄文土器	深鉢	—	—	〈3.8〉	ナデ	沈線、縄文	Ⅱ区
42	縄文土器	深鉢	—	—	〈5.9〉	ナデ	沈線、縄文LR	Ⅱ区
43	縄文土器	注口土器	—	—	〈4.2〉		ナデ	Ⅱ区
H11	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	土師器	甕	(23.0)	—	〈5.0〉	ナデ	ナデ、ケズリ	
2	須恵器	高坏	—	—	〈6.5〉	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、自然釉	
3	須恵器	甕	—	—	〈5.4〉	ロクロナデ	ロクロナデ、波状文	
4	須恵器	甕	—	—	〈8.2〉	ロクロナデ	タタキ	
5	土師器	甑	(21.0)	(6.2)	25.5	ケズリ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	
H12	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	須恵器	蓋	(16.2)	—	〈2.0〉	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
2	須恵器	坏	(16.0)	(10.0)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	検出
3	土師器	坏	—	—	〈3.0〉	ナデ	ナデ、ケズリ	Ⅰ区
4	土師器	鉢	11.7	1.3	9.9	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	Ⅰ区
5	土師器	甕	(20.8)	—	〈9.5〉	ナデ、ミガキ	ナデ、ケズリ、ミガキ	Ⅱ区、カマド

第５表　遺物観察表５

6	土師器	壷か	—	(3.6)	〈4.4〉	ミガキ、黒色処理		Ⅱ区
7	土師器	甕	(23.7)	—	〈17.7〉	ナデ	ケズリ	Ⅰ・Ⅱ区
8	弥生土器	鉢	(26.6)	—	〈3.2〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
9	弥生土器	鉢	—	—	〈5.1〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
10	弥生土器	鉢	—	—	〈2.5〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
11	弥生土器	鉢	—	(6.0)	〈1.9〉	ミガキ、赤彩	赤彩	堀方
12	弥生土器	甕	(11.9)	—	〈4.1〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛描簾状文	Ⅰ区
13	弥生土器	甕	(12.0)	—	〈6.6〉	ミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	Ⅰ区
14	弥生土器	壷	—	—	〈2.8〉		斜走文、円形浮文	Ⅰ区
15	弥生土器	甕	—	(8.2)	〈4.4〉	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
16	弥生土器	甕	—	(6.0)	〈5.5〉	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
17	縄文土器	深鉢	—	—	〈4.7〉	ナデ	横位隆帯	堀方
18	縄文土器	深鉢	—	—	〈3.4〉		沈線文、縄文LR	Ⅰ区
19	縄文土器	深鉢	—	—	〈3.0〉		口縁部突起	Ⅰ区

H14	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(15.4)	5.5	6.3	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
2	弥生土器	鉢	(15.2)	4.7	6.4	ハケ、ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
3	弥生土器	鉢	(12.0)	(4.8)	5.7	ハケ、ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、口縁部穿孔2箇所	検出
4	弥生土器	鉢	(11.8)	(4.2)	3.8	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
5	弥生土器	鉢	(16.6)	—	〈4.5〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
6	弥生土器	鉢	(11.4)	—	〈4.0〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
7	弥生土器	鉢	(11.4)	—	〈3.3〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
8	弥生土器	鉢	—	5.0	〈2.3〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
9	弥生土器	鉢	—	4.9	〈4.2〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
10	弥生土器	鉢	(13.7)	6.8	9.2	ヘラナデ	ハケ、ヘラケズリ	No6
11	弥生土器	鉢	(12.4)	(4.6)	(7.5)	ヘラミガキ	ハケ、ヘラナデ	Ⅰ区
12	弥生土器	高坏	(20.6)	—	〈3.8〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
13	弥生土器	高坏	(22.2)	—	〈5.2〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
14	弥生土器	高坏	(22.4)	—	〈2.2〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、口縁部突起	Ⅰ区
15	弥生土器	高坏	(24.0)	—	〈1.6〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、口縁部突起	Ⅰ区
16	弥生土器	高坏	(26.0)	—	〈9.8〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
17	弥生土器	高坏	(28.0)	—	〈4.4〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
18	弥生土器	高坏	—	15.3	〈11.0〉	ハケ	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
19	弥生土器	高坏	—	10.6	〈8.4〉	坏部：ナデ 脚部：ハケ、ナデ	ヘラミガキ	No7
20	弥生土器	壷	(26.4)	—	〈5.9〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
21	弥生土器	壷	—	—	〈12.9〉		ヘラ描斜走文、ヘラミガキ、赤彩	No15
22	弥生土器	壷	(17.4)	—	〈7.5〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラ描斜走文、ヘラミガキ、赤彩	No10
23	弥生土器	壷	(23.2)	—	〈6.7〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
24	弥生土器	壷	(24.2)	—	〈9.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
25	弥生土器	壷	(29.8)	—	〈7.2〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
26	弥生土器	壷	(30.2)	—	〈6.0〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
27	弥生土器	壷	(31.0)	—	〈12.4〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、沈線	Ⅱ区
28	弥生土器	甕	17.4	—	〈22.4〉	ハケ、ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ区
29	弥生土器	甕	17.5	—	〈21.5〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	No8、Ⅰ区
30	弥生土器	甕	18.4	—	〈16.2〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文、口唇部刻み	No18
31	弥生土器	甕	(13.0)	—	〈8.6〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ・Ⅱ区
32	弥生土器	甕	15.9	—	〈10.9〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ区
33	弥生土器	甕	17.6	—	〈14.4〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文、口唇部刻み	No13・17・18
34	弥生土器	甕	(12.6)	—	〈10.8〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅰ区
35	弥生土器	甕	(17.4)	—	〈9.0〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文	Ⅱ区
36	弥生土器	甕	(10.2)	—	〈7.2〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描横線文	Ⅰ区
37	弥生土器	甕	—	(6.2)	〈9.6〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、ヘラミガキ	Ⅰ区
38	弥生土器	甕	15.3	—	〈11.6〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	No14
39	弥生土器	台付甕	12.9	—	〈10.9〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	No16
40	弥生土器	甕	—	—	〈3.2〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	Ⅰ区
41	弥生土器	甕	—	—	〈3.1〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	H12 Ⅰ区
42	弥生土器	甕	—	—	〈2.3〉	ヘラミガキ		Ⅰ区
43	弥生土器	台付甕	—	(8.0)	〈4.8〉	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ区

第6表　遺物観察表6

44	弥生土器	台付甕	—	5.8	〈4.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
45	弥生土器	台付甕	—	8.4	〈8.0〉	脚部　ヘラナデ 体部　ヘラミガキ	ヘラミガキ	No9
46	弥生土器	甕か	—	(4.6)	〈3.2〉	ハケ	ヘラミガキ、赤彩	Ⅰ区
47	弥生土器	甕	—	4.7	〈4.5〉	ハケ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	No11、Ⅰ区
48	弥生土器	甕	—	6.6	〈3.3〉	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
49	弥生土器	甕	—	(6.0)	〈2.9〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ区
50	弥生土器	甕	—	(6.4)	〈2.0〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
51	弥生土器	甕	—	4.4	〈2.8〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ区
52	弥生土器	甕	—	6.3	〈3.1〉	ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
53	弥生土器	甕	—	(5.8)	〈3.0〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	検出
54	弥生土器	甕	—	(7.0)	〈2.5〉	ヘラナデ	ハケ、ヘラケズリ	検出
55	弥生土器	甕	—	(7.2)	〈2.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
56	弥生土器	甕	—	5.2	〈2.1〉	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
57	弥生土器	甕	—	13.8	〈3.8〉	内面剥落	ヘラミガキ	Ⅰ区
58	弥生土器	甕	—	14.6	〈3.4〉	内面剥落	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
59	弥生土器	甕	—	14.7	〈4.8〉	ヘラナデ	ハケ、ヘラミガキ	Ⅰ区
60	弥生土器	蓋	—	—	〈2.9〉	ナデ　摘み径4.1cm	ナデ	Ⅱ区
61	縄文土器	深鉢	—	—	〈5.9〉		沈線文、縄文	Ⅰ区
62	鉄製品	刀子	11.1	5.2	0.5	重量12.6g		混入か
63	鉄製品	鉄鏃か	〈2.0〉	〈2.8〉	〈0.4〉	重量2.0g　上・左側欠損		
64	石製品	勾玉	1.24	0.60	0.44	重量0.85g　翡翠		

H16	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(17.2)	—	〈4.0〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	
2	弥生土器	高坏	—	—	〈13.5〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	
3	弥生土器	高坏	—	(17.3)	〈15.9〉	ヘラナデ	ミガキ、赤彩	
4	弥生土器	高坏	—	(9.6)	〈6.2〉	ハケ	ナデ	
5	弥生土器	高坏	—	(15.0)	〈2.8〉	ナデ	ナデ	
6	弥生土器	壷	(20.0)	—	〈4.2〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	
7	弥生土器	甕	(14.0)	—	〈11.2〉	ミガキ	櫛描波状文	
8	縄文土器	深鉢	—	—	〈6.2〉	ナデ	沈線文、縄文LR	

H17	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	蓋	(4.2)	—	〈4.0〉	ミガキ	ミガキ	
2	弥生土器	壷	—	—	〈23.2〉	ハケ、ミガキ	横位沈線、櫛描斜走文	

H18	種別	器種	法量(cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(13.3)	7.0	13.5	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、口縁部穿孔2箇所	No3・4
2	弥生土器	鉢	(7.1)	3.9	7.7	ナデ	ミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
3	弥生土器	鉢	—	4.9	〈2.7〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	No2
4	弥生土器	鉢	(13.0)	—	〈4.6〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
5	弥生土器	鉢	(13.6)	—	〈5.4〉	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
6	弥生土器	鉢	—	—	〈5.5〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅱ区
7	弥生土器	鉢	—	—	〈4.7〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅱ区
8	弥生土器	甑	—	(4.6)	〈1.8〉	ミガキ	ミガキ	Ⅱ区
9	弥生土器	高坏	(17.2)	—	〈6.5〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	No5
10	弥生土器	高坏	(23.2)	—	〈4.4〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅱ区
11	弥生土器	壷	—	—	〈11.0〉	ハケ	ナデ	Ⅱ区
12	弥生土器	甕	21.2	6.7	28.1	ヘラミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文、口唇部刻み	No3
13	弥生土器	壷	—	—	〈4.8〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛描波状文	Ⅱ区
14	弥生土器	壷	—	—	〈6.6〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛描波状文	Ⅱ区
15	弥生土器	甕	(22.0)	—	〈6.1〉	ハケ、ミガキ	櫛描斜走文、口唇部刻み	Ⅱ区
16	弥生土器	甕	—	(5.0)	〈2.3〉	ミガキ	ミガキ	Ⅱ区
17	弥生土器	甕	—	(5.6)	〈4.8〉	ヘラミガキ	櫛描波状文、ヘラミガキ	H18 Ⅱ区
18	縄文土器	深鉢	—	—	〈5.8〉	ナデ、ミガキ	沈線文、縄文LR	Ⅰ区
19	石製品	磨製石族	4.0	2.1	0.3	重量2.9g		Ⅱ区
20	鉄製品	剣か	〈2.5〉	〈1.1〉	〈0.2〉	重量1.43g　両側欠損		No1

第7表　遺物観察表7

D2	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	弥生土器	高坏	—	—	〈7.5〉	ナデ	ナデ	
2	弥生土器	甕	—	6.1	〈7.0〉	ナデ	ミガキ	
3	須恵器	甕	(17.2)	—	〈3.6〉	ロクロナデ	ロクロナデ	
4	土師器	甕	—	6.3	〈3.1〉	ナデ	ケズリ	
5	土師器	甕	15.0	—	〈6.7〉	ナデ	ナデ	
6	土師器	甕	(20.2)	—	〈4.4〉	ナデ	ナデ、ケズリ	
7	土師器	甕	(23.3)	—	〈15.8〉	ナデ	ナデ、ケズリ	
Pit	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
P9-1	鉄製品	釘	〈8.1〉	1.1	0.5	重量8.1g　両端欠損		
P12-2	土師器	坏	(16.0)	(11.4)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	
P12-1	須恵器	坏	(12.8)	(6.2)	6.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	
P12-2	鉄製品	環状	2.4	〈2.3〉	0.6	重量6.6g　厚さ1mm程度の板を折り返し環状とする		
P30-1	弥生土器	甕	(13.0)	—	〈4.0〉	ミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	
P30-2	弥生土器	甕	—	—	〈2.5〉	ミガキ	櫛描波状文、櫛描簾状文、円形浮文	
遺構外	種別	器種	法量（cm）			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	内面	外面	
1	縄文土器	深鉢	—	—	〈6.7〉	ミガキ	ミガキ、沈線文、口縁部突起	Ⅰ 6
2	縄文土器	深鉢	—	—	〈5.5〉	ミガキ	沈線文、穿孔1箇所	Ⅱ 8
3	縄文土器	深鉢	—	—	〈4.6〉	ミガキ	沈線文	Ⅰ 4 ～ 7
4	縄文土器	深鉢	—	—	〈3.3〉	ミガキ	ミガキ	Ⅰ 7
5	縄文土器	鉢	—	—	〈2.1〉	ミガキ	沈線文	Ⅰ 7
6	縄文土器	深鉢	—	—	〈2.9〉	ナデ	沈線文、円形刺突文	Ⅱ 8
7	縄文土器	深鉢	—	—	〈2.4〉	ナデ	沈線文	Ⅱ 11
8	縄文土器	深鉢	—	—	〈2.3〉	ナデ	沈線文	Ⅱ 11
9	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	〈2.4〉	ナデ	ミガキ、底部網代痕	Ⅰ 12
10	弥生土器	鉢	(12.4)	—	〈5.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ 13
11	弥生土器	高坏	—	—	〈5.0〉	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	Ⅱ 8
12	弥生土器	甕	12.2	—	〈8.1〉	ナデ	櫛描斜走文、櫛描簾状文、口唇部縄文	試掘
13	弥生土器	甕	(13.3)	—	〈7.9〉	ミガキ	櫛描波状文	試掘
14	弥生土器	甕	(19.8)	—	〈4.9〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文	Ⅰ 11
15	弥生土器	甕	(13.0)	—	〈2.6〉	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	試掘
16	弥生土器	甕	—	—	〈3.5〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文	Ⅳ 2
17	弥生土器	甕	—	—	〈2.4〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文	Ⅱ 11
18	弥生土器	甕	—	—	〈7.7〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文、櫛描簾状文	Ⅳ 2
19	弥生土器	壷	—	—	〈6.0〉	ナデ	櫛描簾状文、円形浮文、赤彩	試掘
20	弥生土器	甕	—	5.6	〈3.3〉	ナデ	ミガキ	Ⅰ 4 ～ 7Gr
21	弥生土器	甕	—	—	〈5.4〉	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	試掘
22	土師器	坏	(12.1)	5.3	4.0	ロクロナデ、ミガキか	ロクロナデ、底部回転糸切	Ⅰ 4 ～ 7Gr
23	土師器	坏	(14.0)	—	〈3.2〉	黒色処理、暗文	ロクロナデ	Ⅰ 7
24	土師器	坏	—	—	〈4.4〉	黒色処理、暗文	ロクロナデ、墨書「万」	112
25	土師器	坏	—	—	〈2.6〉	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	Ⅱ 10
26	須恵器	坏	(14.0)	(7.3)	3.9	ロクロナデ、火襷痕	ロクロナデ、底部ヘラケズリ、火襷痕	試掘
27	灰釉陶器	輪花皿	(13.8)	(7.0)	2.7	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、高台貼付、灰釉	Ⅳ 2
28	灰釉陶器	碗	(12.2)	—	〈3.5〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	Ⅱ 10
29	灰釉陶器	皿	—	(7.2)	〈1.7〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、高台貼付、灰釉	Ⅱ 9
30	灰釉陶器	碗	—	—	〈3.9〉	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	Ⅱ 9
31	弥生土器	蓋	(4.2)	—	〈2.9〉	ナデ	ナデ	Ⅱ 8
32	土師器	甕	(13.8)	—	〈5.6〉	ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ 10
33	土師器	甕	(17.3)	—	〈9.5〉	ナデ、ケズリ	ナデ	Ⅰ 4 ～ 7Gr
34	土師器	甕	(24.0)	—	〈18.7〉	ハケ	ナデ、ケズリ	試掘
35	土師器	羽釜	(26.0)	—	〈9.7〉	ナデ	ナデ	試掘
36	土師器	鍋	(24.8)	(24.0)	14.6	ナデ	ナデ	Ⅱ 8
37	土師器	鍋	(24.6)	(21.2)	14.4	ナデ	ナデ	Ⅱ 8
38	石製品	玉か	〈8.10〉	〈9.80〉	〈1.54〉	黒曜石		試掘

第８表　遺物観察表８

調査区東側全景（北から）

調査区北側全景（東から）

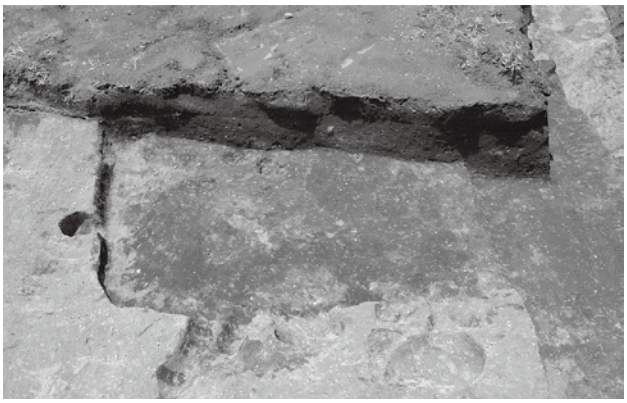
H1 号住居址完掘状況（南から）

H2 号住居址完掘状況（東から）

H3 号住居址完掘状況（南から）

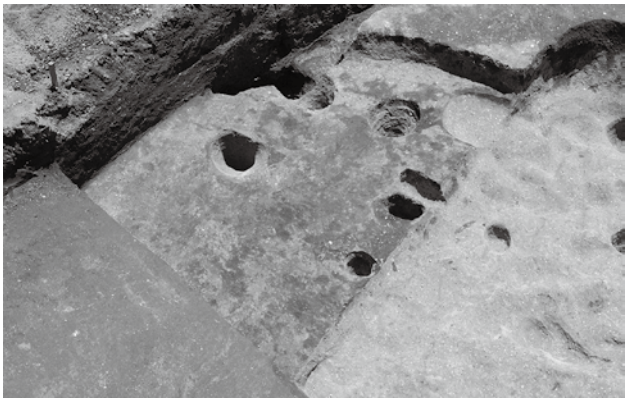
H4 号住居址完掘状況（南から）

H4 号住居址堀方完掘状況（南から）



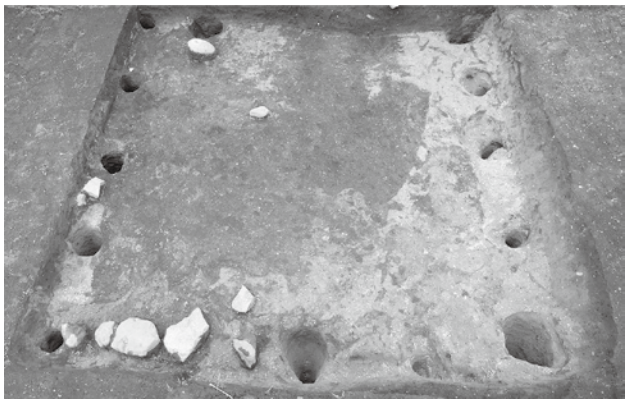
H5 号住居址完掘状況（東から）

H6 号住居址完掘状況（西から）



H7 号住居址完掘状況（北西から）

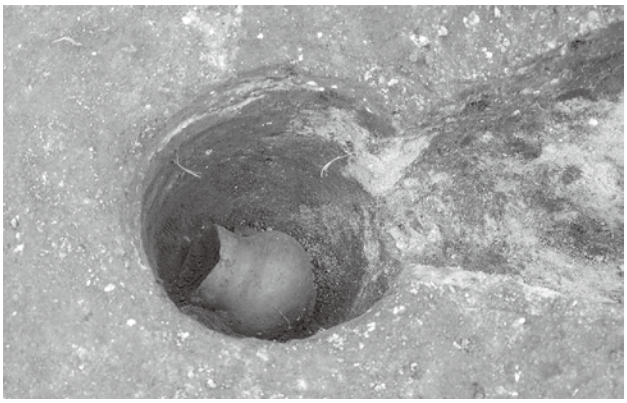
H8 号住居址完掘状況（西から）



H9 号住居址完掘状況（南から）

H9 号住居址堀方完掘状況（南から）

H10 号住居址炭化物検出状況（南から）



H10 号住居址ピット内遺物（南から）

H10 号住居址完掘状況（東から）

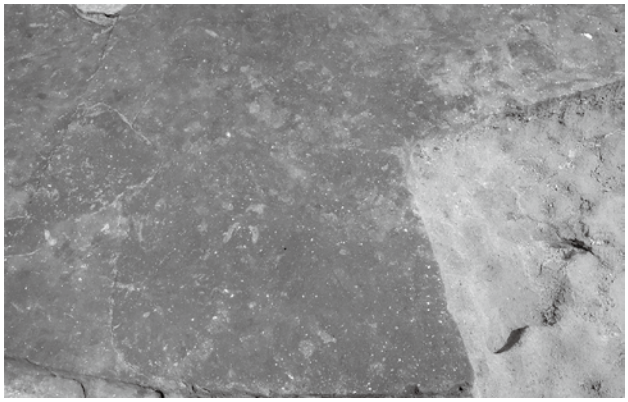
H10 号住居址堀方完掘状況（東から）

H11 号住居址完掘状況（南から）

H12 号住居址完掘状況（東から）

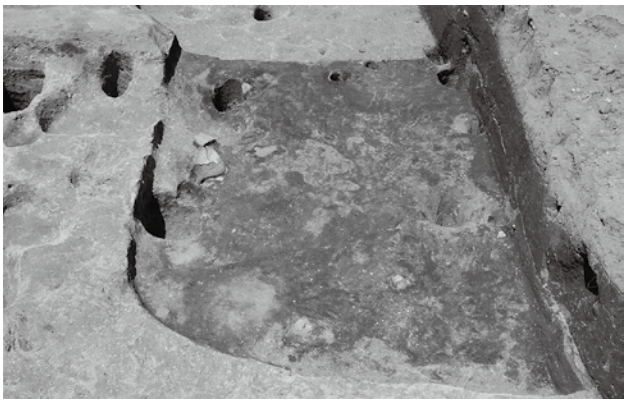
H13 号住居址完掘状況（北西から）

H14 号住居址完掘状況（東から）



H15 号住居址完掘状況（南から）

H16 号住居址完掘状況（東から）

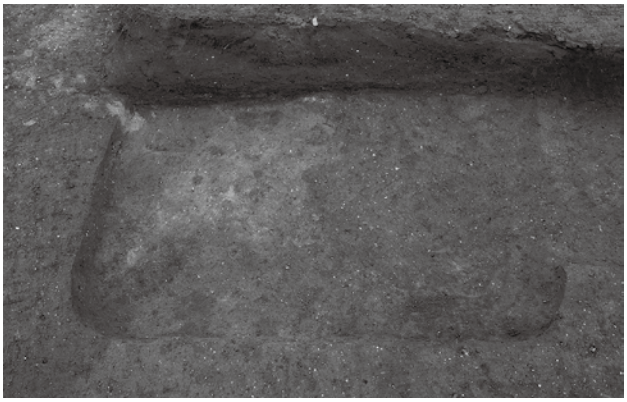


H17 住居址完掘状況（東から）

H17 号内ピット粘土検出状況（南から）

H18 号住居址完掘状況（東から）

D2 号土坑完掘状況（東から）

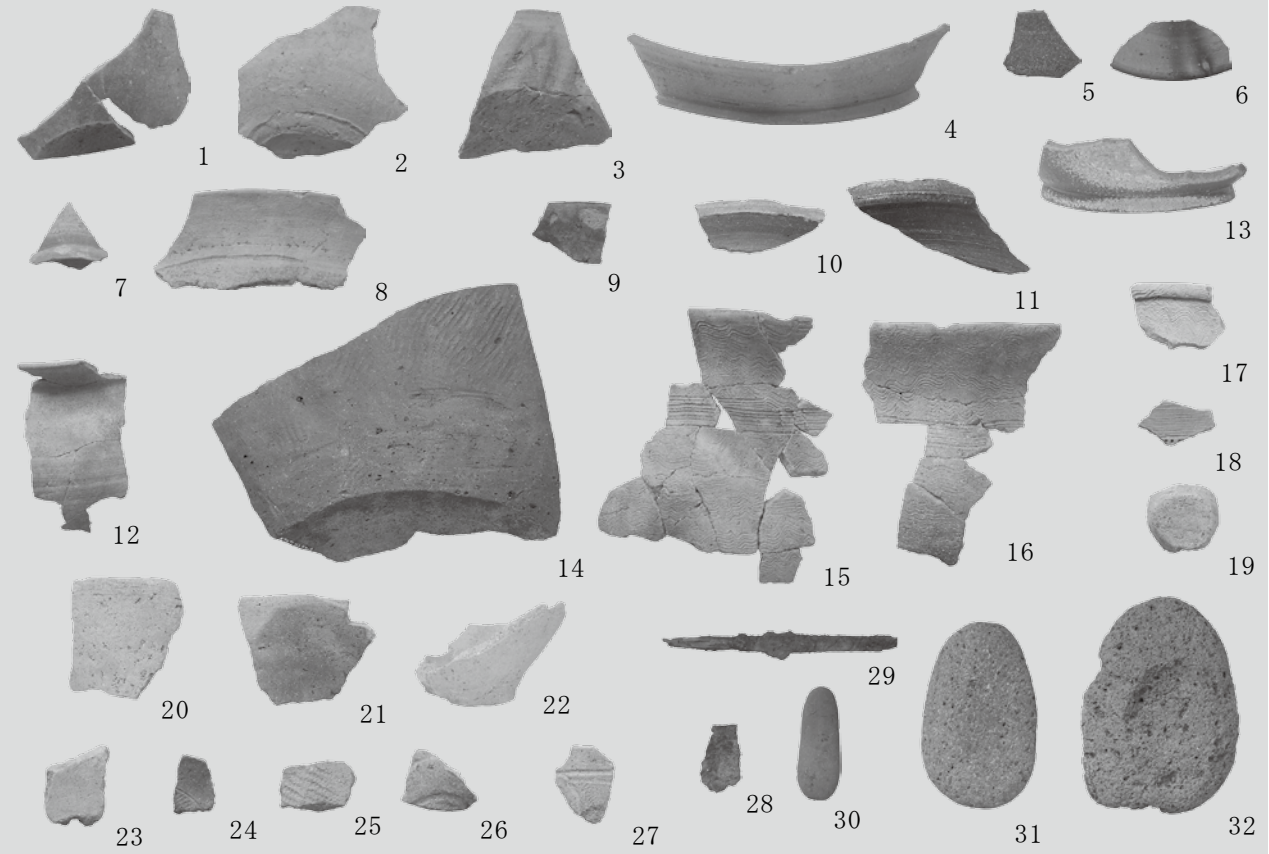


D3 号土坑完掘状況（北から）

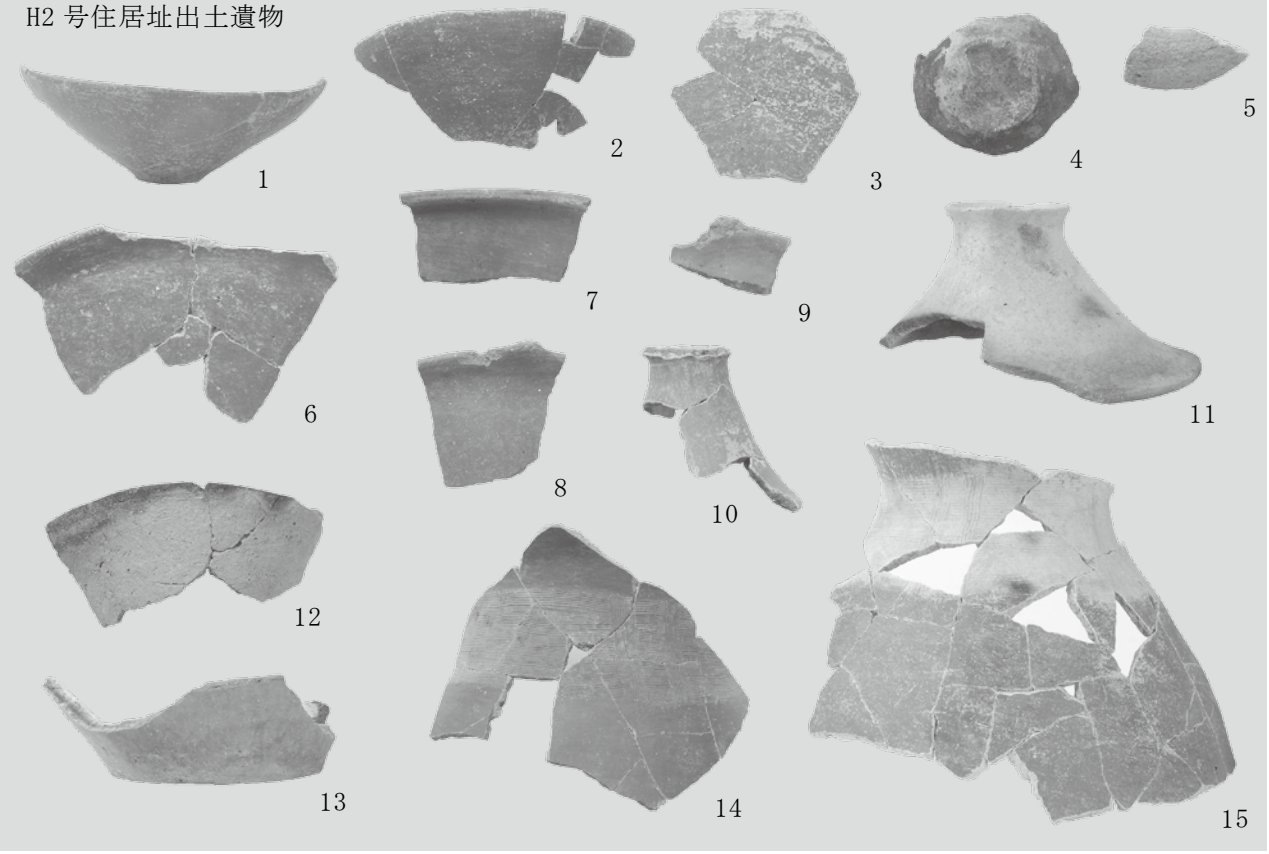
M1 号溝址完掘状況（南から）

P9・11・12 礎石検出状況（南から）

H1 号住居址出土遺物



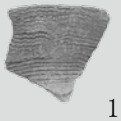
H2 号住居址出土遺物



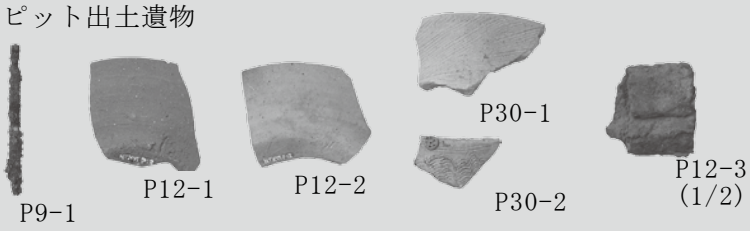
H2 号住居址出土遺物

H5 号住居址
出土遺物

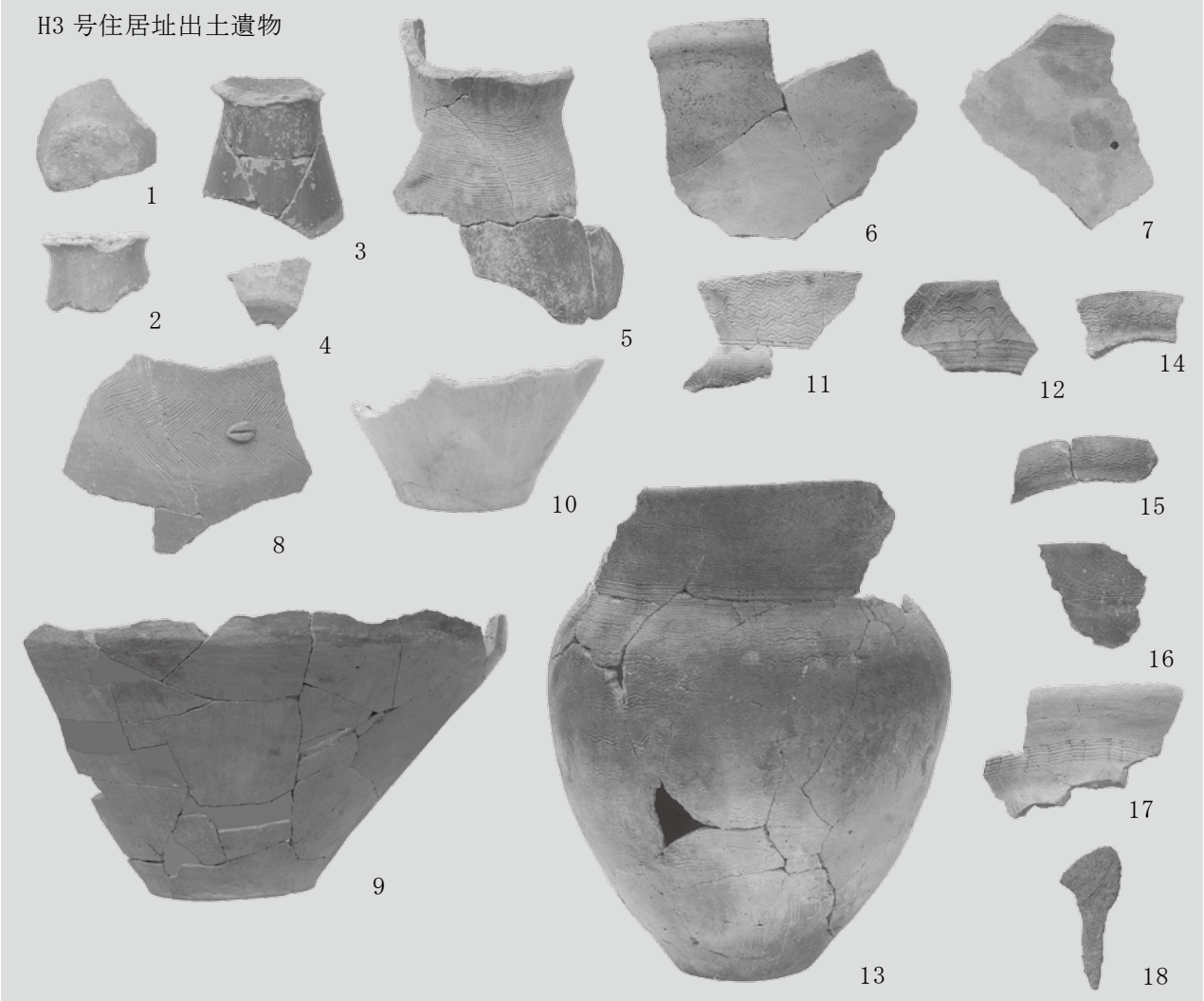
H6 号住居址
出土遺物



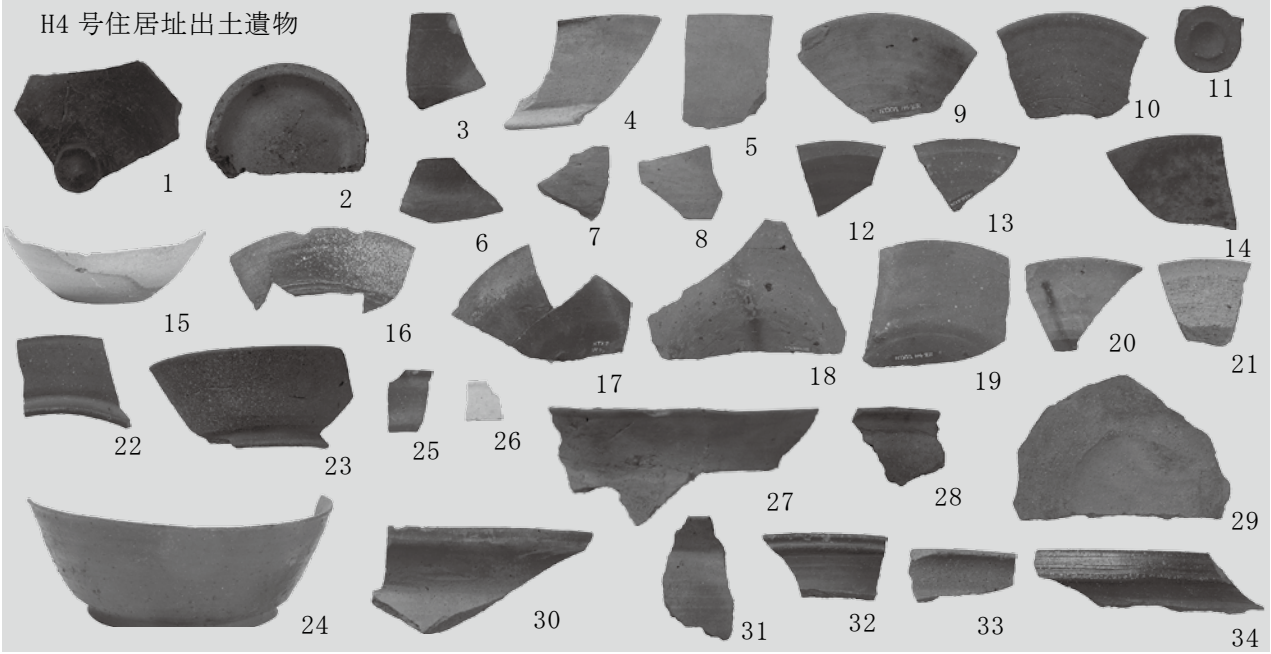
ピット出土遺物



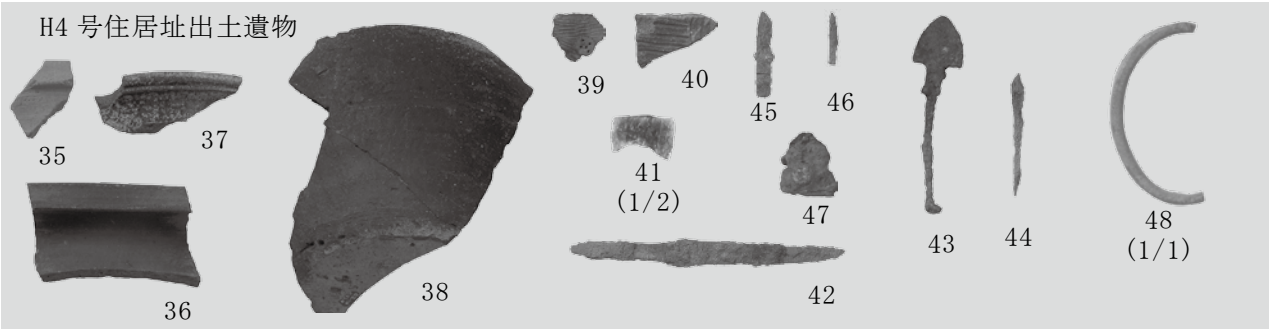
H3 号住居址出土遺物



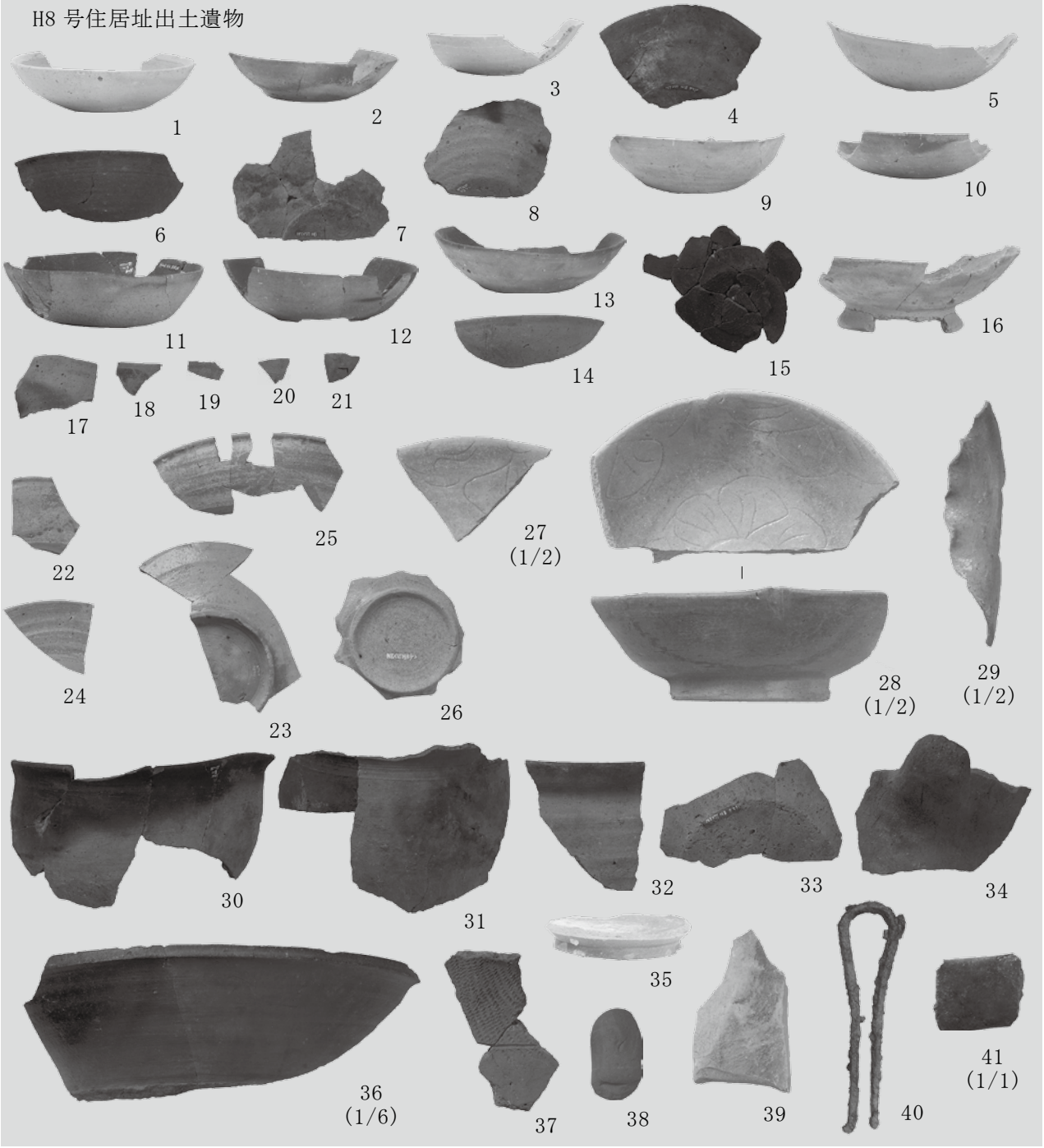
H4 号住居址出土遺物



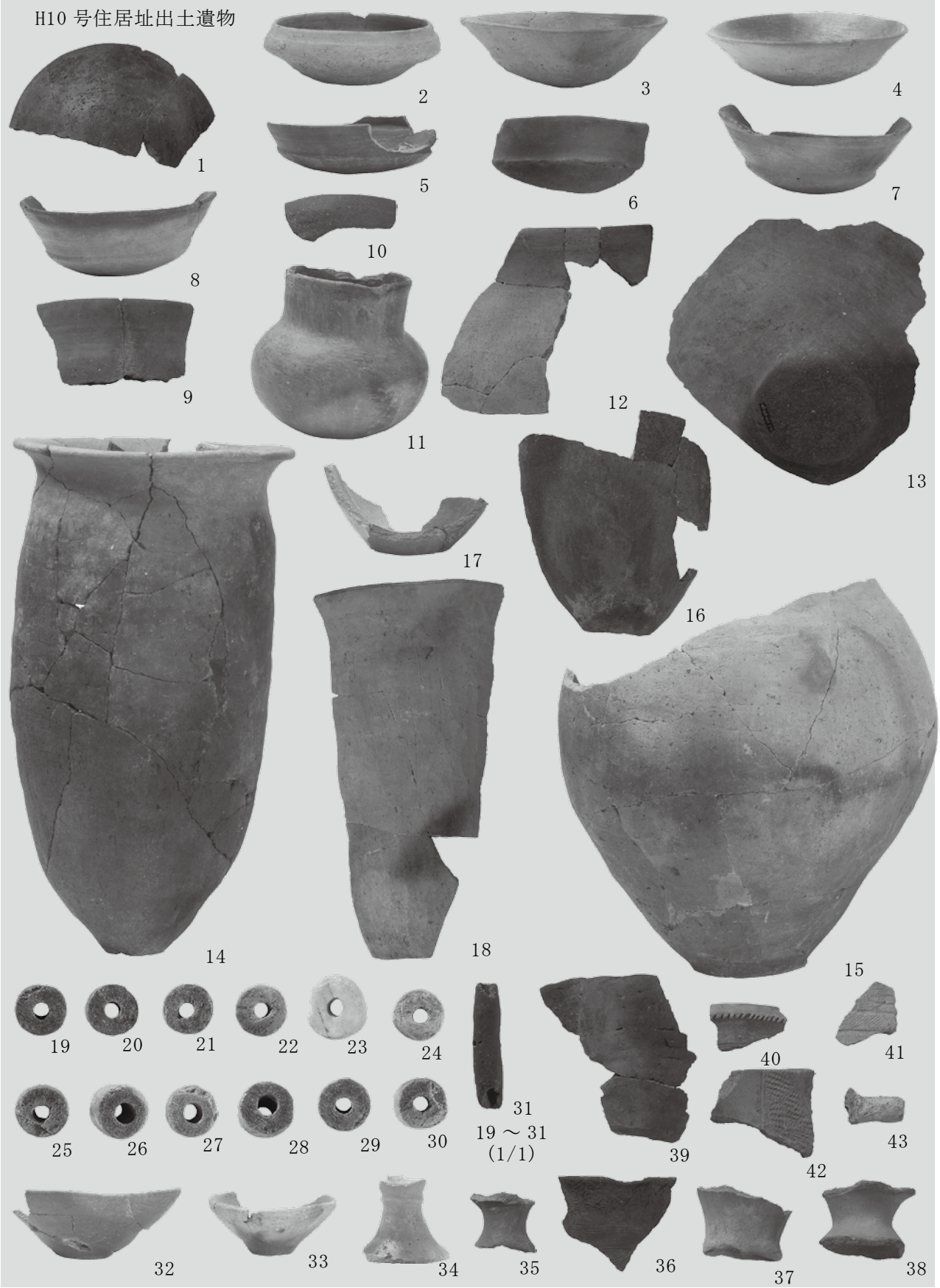
H4 号住居址出土遺物



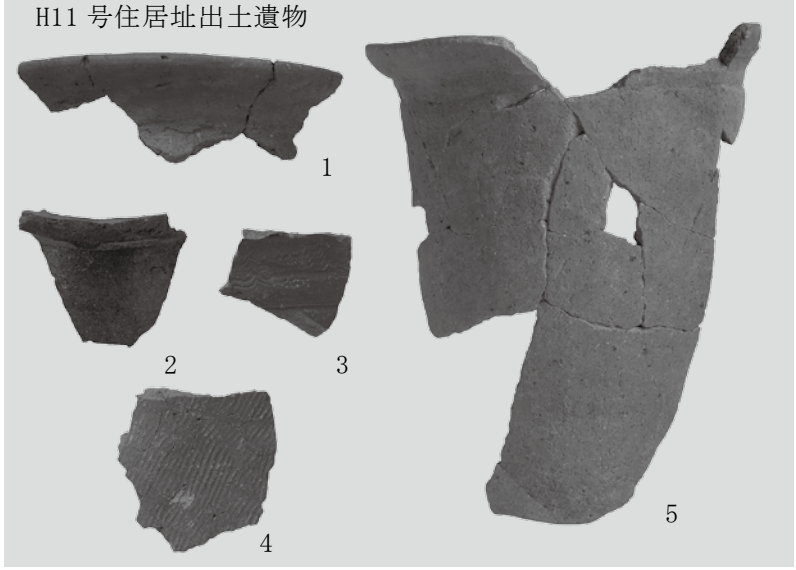
H8 号住居址出土遺物



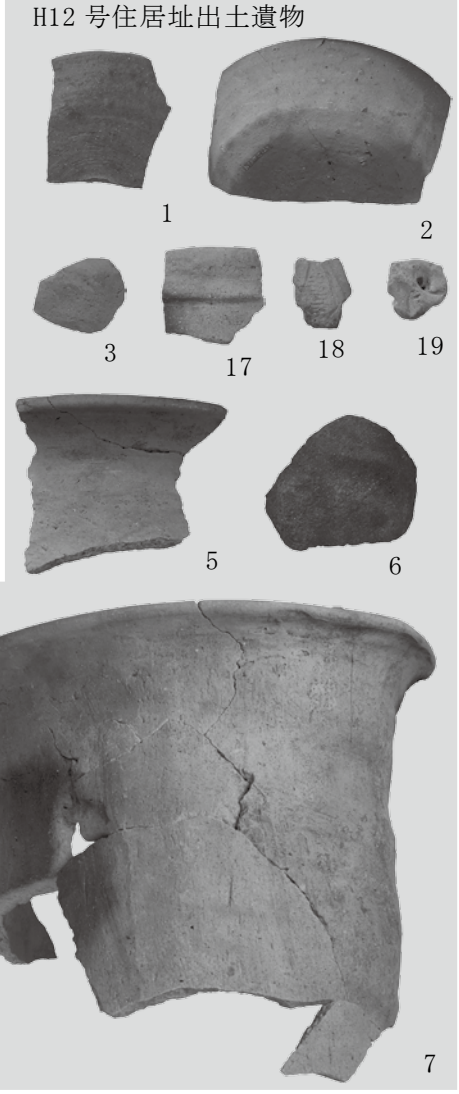
H10 号住居址出土遺物



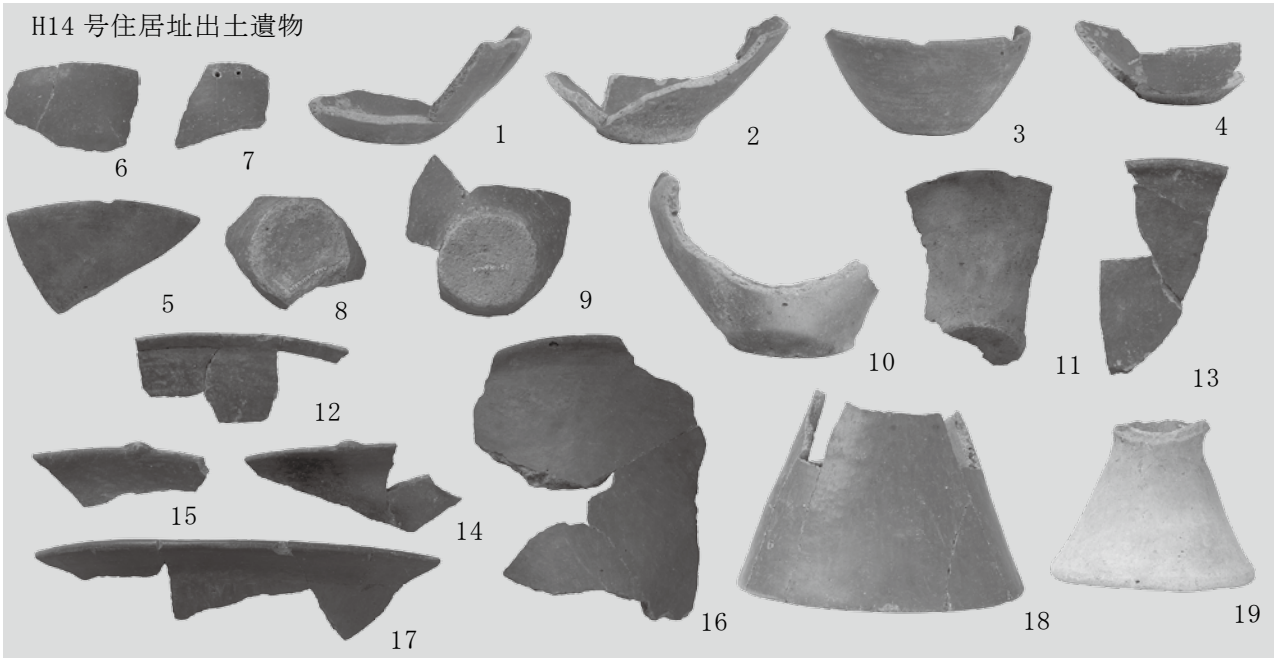
H11 号住居址出土遺物



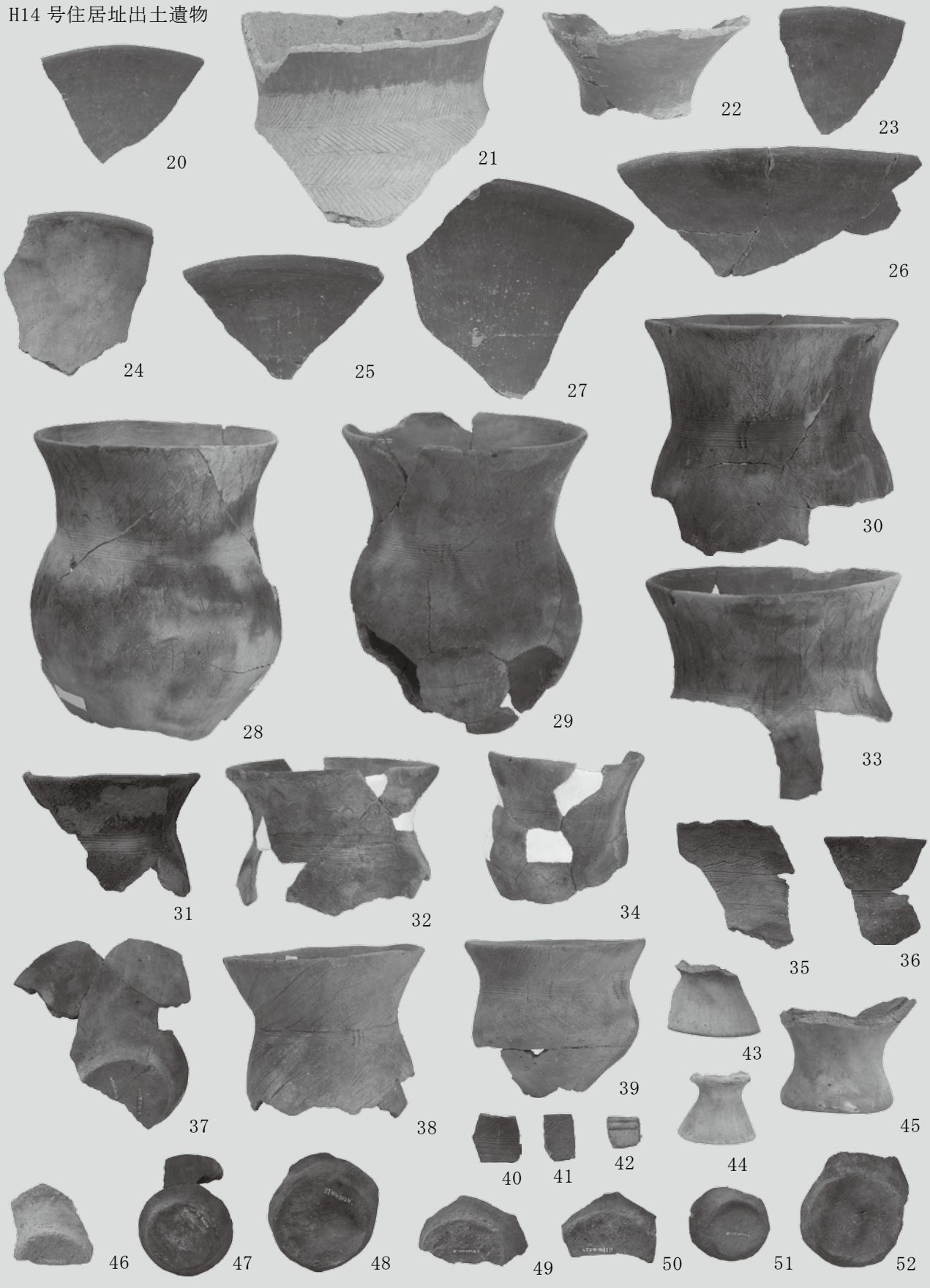
H12 号住居址出土遺物



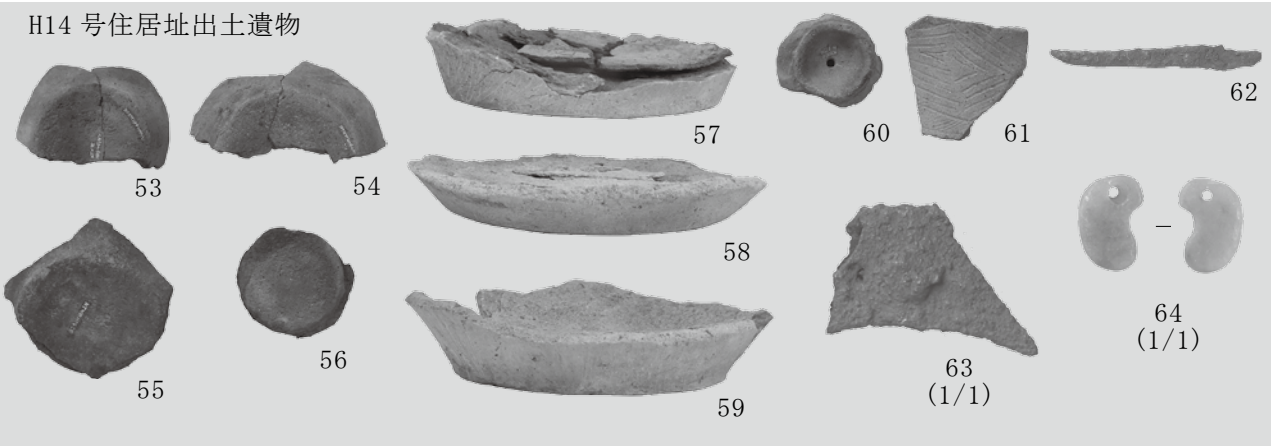
H14 号住居址出土遺物



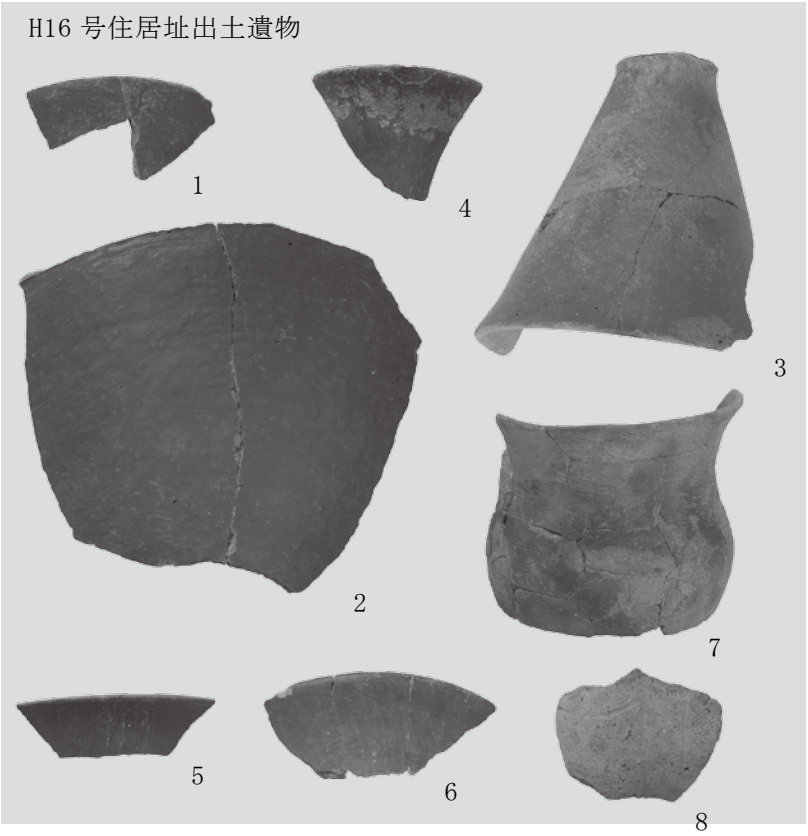
H14 号住居址出土遺物



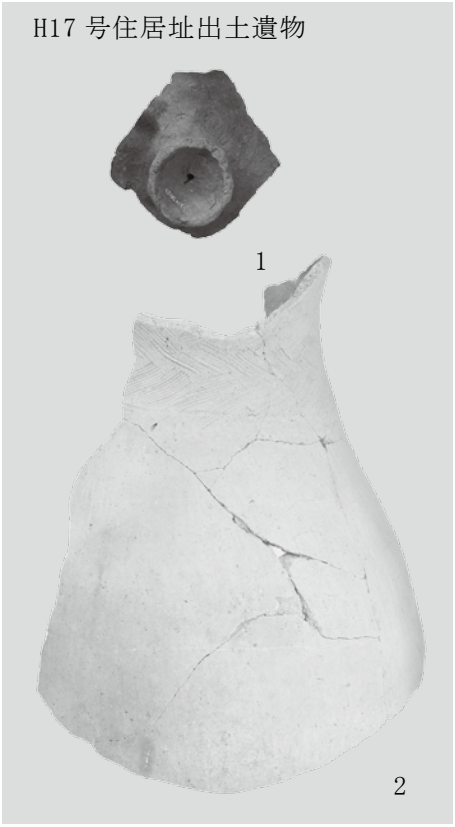
H14 号住居址出土遺物



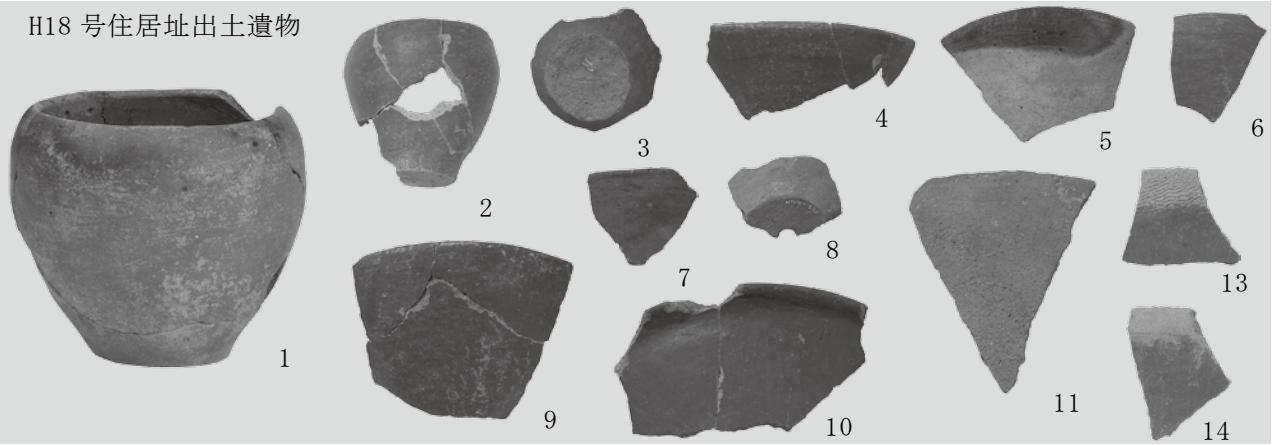
H16 号住居址出土遺物

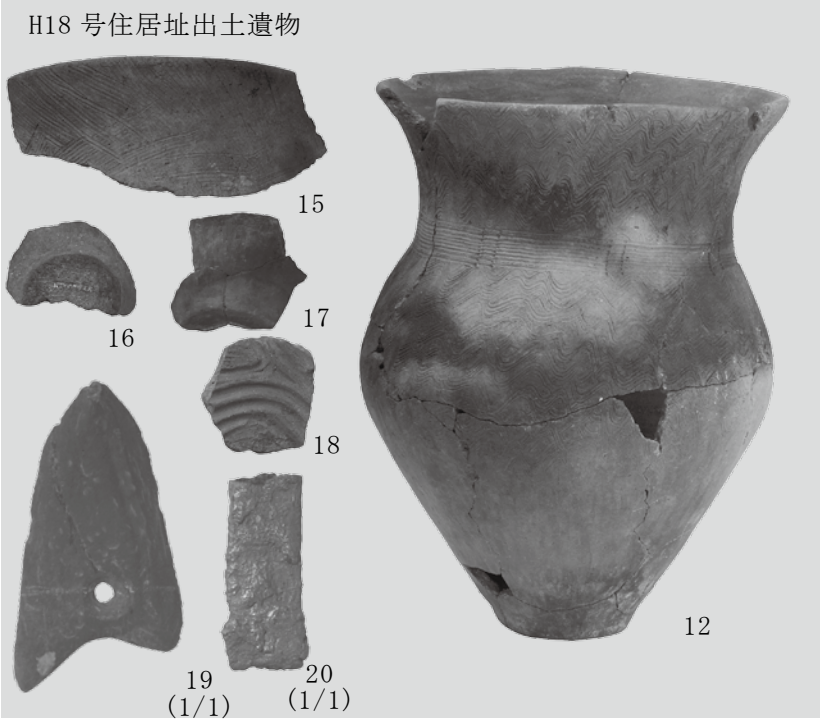


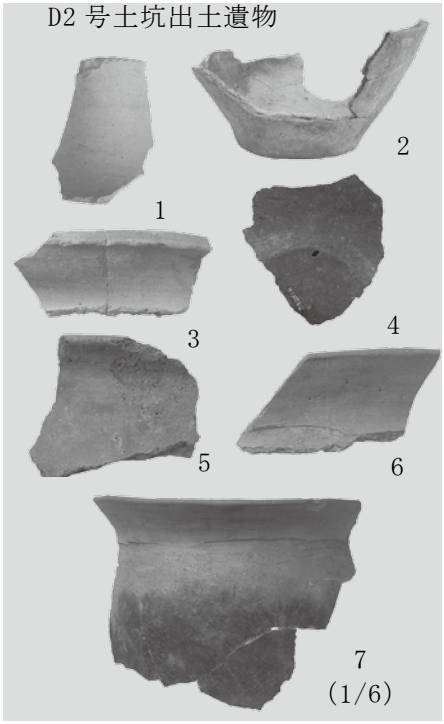
H17 号住居址出土遺物

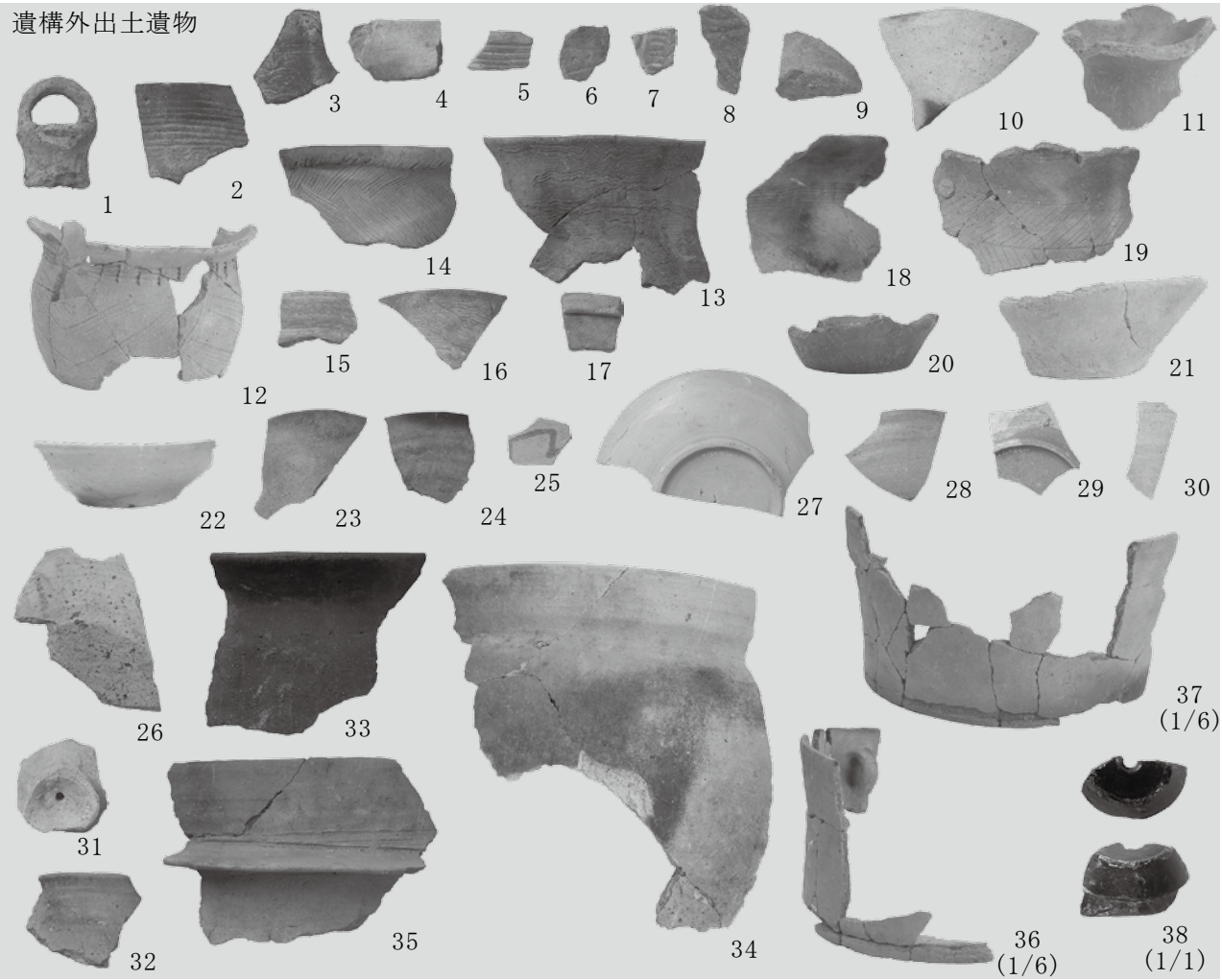


H18 号住居址出土遺物




H18 号住居址出土遺物
15
16
17
18
19
(1/1)
20
(1/1)
12


D2 号土坑出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
(1/6)


遺構外出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
(1/6)
37
(1/6)
38
(1/1)

報告書抄録

ふ り が な	にしちかついせきぐん　にしちかついせきじゅうろく
書　　名	西近津遺跡群　西近津遺跡ⅩⅥ
シ リ ー ズ 名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第295集
編 著 者 名	久保　浩一郎
編 集 機 関	佐久市教育委員会　文化振興課
所　在　地	長野県佐久市中込2913　Tel:0267-63-5321　Fax:0267-63-5322
発 行 年 月 日	令和5年(2023)　3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅうろく 西近津遺跡群 西近津遺跡ⅩⅥ	さくしながところ 佐久市長土呂 1792-1	20217	29	36° 16′ 56″	138° 27′ 21″	20210514 ～ 20210726	350.2	宅地 造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西近津遺跡群 西近津遺跡ⅩⅥ	集落址	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居址 18軒 土坑 3基 溝址 1条 ピット 60基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石器、石製品、土製品、鉄製品、銅製品	
要　　約	浅間山南麓の田切り台地上に展開する弥生時代後期から平安時代の集落跡の一部を調査した。弥生時代の遺物ではヒスイ製の勾玉、釧と指輪の破片と考えられる銅製品などが出土している。平安時代の遺物では緑釉陶器の輪花皿や耳皿が出土した。				

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第295集
西近津遺跡群　西近津遺跡ⅩⅥ

令和5年(2023)　3月
編集・発行　佐久市教育委員会事務局
〒385-8501　長野県佐久市中込3056
社会教育部　文化振興課文化財事務所
〒385-0051　長野県佐久市中込2913
Tel:0267-63-5321

印　刷　所　キクハラインク有限会社